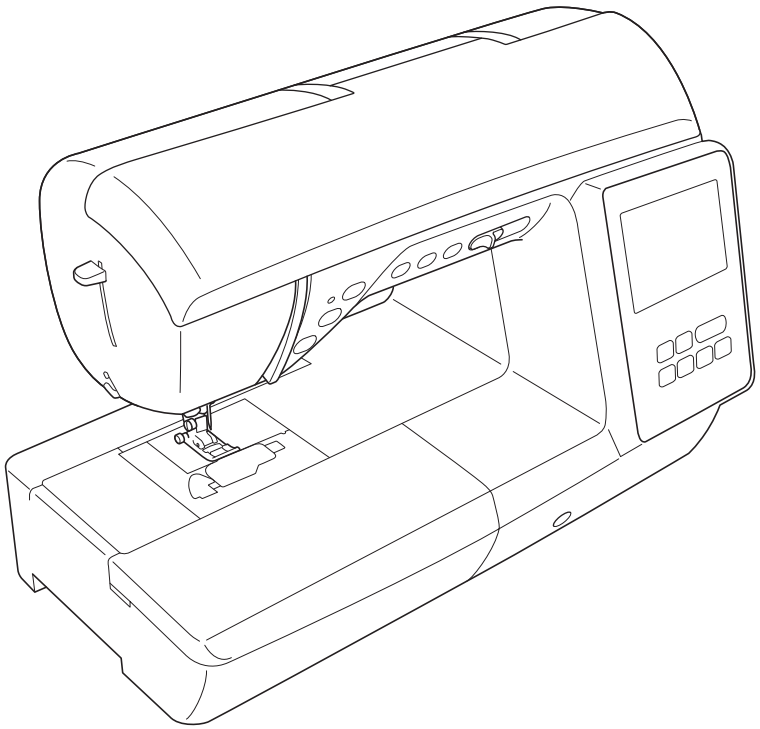
brother

取扱説明書

刺しゅう機付コンピューターミシン

EMG33 シリーズ



● ご使用になる前に必ず本書をお読みになり、正しくお使いください。
● 本書はなくさないように大切に保管し、いつでも手にとって見られるようにしてください。

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。お使いになる前に「安全にお使いいただくために」をよくお読みいただき、取扱説明書で機能や正しい使い方を十分にご理解のうえ、末永くご愛用ください。また取扱説明書は、読み終わったあとも、いつでもご覧になれるところに保管してください。

安全にお使いいただくために

人への危害や損害を 未然に防ぐために、必ずお守りください。

■ 誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して説明しています。

⚠警 告	「死亡や重傷を負うおそれのある」内容です。
⚠注 意	「傷害を負うおそれや物的損害が発生するおそれのある」内容です。

■ お守りいただく内容を区分して説明しています。

	「してはいけない」内容です。
	「実行しなければならない」内容です。

⚠警 告

火災・感電・故障 を さけるために

一般家庭用電源 AC100V の電源で使う

次の場合は電源を切り、プラグを抜く

- ミシンの使用後や、そばを離れるとき
- 使用中に停電したとき
- 接触不良などで正常に動作しないとき
- 雷が鳴りはじめたとき

異常 ・故障時は ...

すぐにプラグを抜き、お買い上げの販売店へご連絡を！

（またはお客様相談室（ミシン 119 番）へ）

異常などの例 ：

- 煙が出た、異臭や異常音がする
- ミシンを落とした
- 電源コードやプラグの破損
- 本体に水が入った

⚠注 意

けが・針折れなど を さけるために

針や周辺部品

- 縫製中は次のことをしない
  - 針やプーリー、てんびんなど、動いている部品に手を近づける
  - 針の下などに指を入れる
  - 布地を無理に引っ張ったり、押したりする
- 曲がった針は使わない
- リッパーで穴をあける方向に、手や指を置かない
  （すべったときにけがのおそれがあります）

- 針や押えの交換時は、電源を切る
  （誤ってスイッチを押すと、ミシンが作動するおそれがあります）
- 上糸や下糸などに関する操作は、本書に従って正しく行う
  （誤ると、糸がらみなどが発生し、針の折れや曲がりのおそれがあります）

⚠注 意

けが・故障 をさけるために

持ち運び

- 急激または、不用意に持ち上げない
  (ミシン本体の重さは約 10 kg あります。)
- ハンドルを持って運ぶ
  (他の部分では、こわれたり、すべって落とすおそれがあります)

火災・発熱・感電 を さけるために

電源コードやプラグ

- 次のようなことをしない
  - たこ足配線
  - 濡れた手でのプラグの抜き差し
  - 電源を切らずにプラグを抜く
  - ゆるんだコンセントに差し込む
  - 電源コードを引っ張って抜く
- 電源コードは、次のような扱いをしない
  - 無理に曲げる
  - ねじる
  - たばねたまま使う
  - 重い物を載せる　など
- プラグは根元まで確実に差し込む

火災・感電・けが・故障・事故など を さけるために

設置・保管場所

- 次の場所に設置や保管をしない
  - 著しく高温や低温になる
    (使用環境温度は 0 ～ 40 ℃)
  - 急激に温度が変化する
  - 火気や熱器具、冷暖房機器などに近い
    (火のついたたばこやろうそく、アイロン、ストーブなど)
  - スプレー (布用スプレーなど) を使う部屋
  - 湿気や湯気が多い
  - 屋外や、直射日光が当たる
  - ほこりや油煙が多い
  - 不安定な場所 (ぐらつく、傾くなど)
- 換気口やフットコントローラーに糸くずやほこりをためない
- 換気口をふさがない

取り扱い

- 換気口や内部にドライバーなどを差し込んだり、異物を入れない
  (高電圧部に触れるおそれがあります)
- 修理や分解、改造は行わない
- フットコントローラーの上に物を置かない
- 本製品のお手入れには、シンナー・ベンジン・アルコールなどの有機溶剤、洗剤を使わない
  (塗装がはがれたり、傷がついたりするおそれがあります)
- 付属品、別売品は純正品を使う
  ブラザー純正品または推奨品以外の部品使用による故障は、保証期間中でも有償修理となります。
  ※その他のものが必ず不具合を起こすわけではありません。
- 本書に記載の整備は、プラグを抜いてから行う
- 本機が入っていた袋は、お子様の手の届かないところに保管するか廃棄する
  (かぶって遊ぶと、窒息のおそれがあります)

お願い

- このミシンは日本国内向け、家庭用です。日本国外では使用できません。
  This sewing machine can not be used in a foreign country as designed for Japan.
- 仕様および外観は品質改良のため、予告なく変更することがありますのでご了承ください。
- 取扱説明書の内容を許可なく無断で複製することは禁じられておりますのでご了承ください。
- 取扱説明書の内容は予告なく変更することがありますのでご了承ください。
- 取扱説明書の内容について、万一不審な点や誤りなどお気づきの点がありましたらお買い上げの販売店または「お客様相談室 (ミシン 119 番)」にご連絡ください。
- 本機をご使用になる方 (お子様を含む) が、身体／知覚／精神的能力になんらかの障がいを持つ場合、あるいは経験や知識が十分でない場合には安全を保証できる責任者の監視の下でのみ本機を使用してください。
- お子様が使用するときは、玩具として使用しないよう、十分な監視の下で使用してください。

利用規約

重要！！　よくお読み下さい：

この利用規約（以下、「本規約」といいます）は、お客様が弊社のミシンまたはクラフト製品（以下、「弊社製品」といいます）をご利用になる際にインストールまた使用される本ソフトウェアについて、お客様とブラザー工業株式会社（以下、「弊社」といいます）が締結する契約です。「本ソフトウェア」とは、すべてのコンテンツデータ、デザインデータ、データフォーマット、弊社製品におけるファームウェア、PC アプリケーション、またはモバイルアプリケーションを指すものとします。

本ソフトウェアおよび弊社製品をお客様がご利用になることにより、お客様は本規約の各条項に従うことに同意したものとみなされます。お客様が本規約に同意されない場合、弊社は本ソフトウェアをお客様にライセンスすることができず、お客様は本ソフトウェアの使用を許諾されません。なお、本規約への修正または追補が本ソフトウェアになされる場合があります。

企業を代理して本規約に同意する個人は、その企業における法的拘束力のある契約を締結する権限を有していることを表明します。

使用許諾条件：

1　使用許諾

1.1　本規約に基づき、弊社はお客様に対し、弊社製品をご利用になる範囲に限り、本ソフトウェアにおける非独占的、譲渡不能かつ取消不能のライセンスを許諾します。

1.2　お客様に認められた本ソフトウェアの使用に関する権利は、本規約のもとでのお客様の本ソフトウェアのご使用に関しライセンスされるものであり、譲渡されるものではありません。弊社は、本ソフトウェアに含まれる知的財産権に限らず、すべての権利、権原および利益を保持します。

2　制限

2.1　本規約に明示的に記載されている場合、または、各国の法令によって要求される場合を除き、お客様は以下の条件に従います。

2.1.1　分解、逆コンパイル、リバースエンジニアリング、翻訳、または他の方法により、本ソフトウェアのソースコード（弊社製品またはコンテンツ編集アプリケーションソフトウェアを使用してお客様が作成したデータまたはコンテンツを含むものとし、以下、第 2 条において同様に適用します。）を取得しないこと。

2.1.2　本ソフトウェアの全部または一部に基づく派生物を製作しないこと。

2.1.3　弊社からの書面により事前の承諾なく、本ソフトウェアの全部または一部を、いかなる形態であれ他者に配布、提供、利用させないこと。

2.1.4　本ソフトウェアを弊社製品上での通常の使用に付す場合、またはバックアップや運用上の安全のために必要な場合を除き、本ソフトウェアを複製しないこと。

2.1.5　本ソフトウェアの全部または一部の譲渡、賃貸借、リース、サブライセンス、貸付、翻訳、結合、翻案、変更、改造、改変を行ってはならないこと、また本ソフトウェアまたはその一部に他のプログラムを結合させたり、組み込んだりしてはならないこと。

2.1.6　本ソフトウェアの全部または一部の複製物においても、弊社の著作権表示およびこの利用規約を含めておくこと。

2.1.7　本規約の第 1 条に規定する以外の目的（弊社製品以外のミシンまたはクラフト製品もしくはソフトウェアの使用を含むがこれに限定されません）において、本ソフトウェアを使用しないこと。

3　無保証

適用される法令にて許容される範囲において、本ソフトウェアは、明示的または黙示的にかかわらず、口頭または書面によるいかなる種類の保証または条件なく、“現状有姿”にて提供されます。弊社は、本ソフトウェアにおける商品性、品質の完全性、非侵害性または特定の目的への適合性について、いかなる黙示的な保証もいたしません。

4　責任制限

4.1　弊社は、お客様、最終使用者、または、その他の事業者に生じる、いかなる利益または収益の損失、データの損失、使用の中断、または派生的、偶発的、特別、懲罰的または間接的な損害について、規約上の行為または不法行為のいずれであっても、また、たとえ弊社が本規約によるサポートサービスなどで本ソフトウェアに関連して起因する損害に関する可能性についてお知らせしていた場合であっても、いかなる責任も負わないものとします。これらの制限は、救済措置を限定するという本質的な目的にかかわらず、適用される法令で認められる最大限の範囲に適用されます。

4.2　本規約第 3 条または第 4.1 条にかかわらず、本規約は、死亡または人身傷害に対する過失または消費者を保護する法的権利に基づく弊社の責任を、排除または制限する目的はありません。

5　解除

5.1　お客様が本規約における重大な違反をし、弊社による請求に基づきその違反を直ちに是正しない場合、弊社はいつでも本規約を解約する権利を有するものとします。

5.2　本規約に基づきお客様に付与されたすべての権利が終了した場合、お客様は本規約により許可されたすべての活動を終了し、所有するすべてのコンピュータ機器から本ソフトウェアを直ちに消去または削除し、また、お客様の所有する本ソフトウェアのすべての複製物もしくはその派生物を削除または破棄します。上記に加えて、お客様は所有する弊社製品によりお客様が作成したコンテンツまたはデザインデータを削除するものとします。

6　一般条項

6.1　お客様は、適用される法律または規則に違反して、本ソフトウェアまたはそのコピーもしくはその改変物を輸出または再輸出してはなりません。

6.2 お客様は、本規約における権利または義務の全部または一部を、事前の書面による同意なしに、第三者またはその関係者に譲渡してはなりません。合併、資産または株式の売却に伴う支配または再編成の変更は、本規約の譲渡であるとみなします。

6.3 お客様は、本規約の違反が、金銭的損害賠償が適切な救済策ではなく、弊社に回復不能な損害を引き起こすものであることに同意し、弊社は、本規約または法令に基づく救済に加えて、保証金、その他の担保、または損害額の証明なく、衡平法上の救済を求める資格を有するものとします。

6.4 本規約のいずれかの条項が管轄権を有する裁判所によって無効または執行不能と宣言または決定された場合、その条項は本規約の他の条項と切り離して独立し、その他の条項および規約全体の有効性はこれによる影響を受けるものではありません。

6.5 本規約は、ここに添付されているすべての書類とともに、本件の主題に関する当事者間の完全な合意を構成し、この件に関する当事者間の口頭および書面によるすべての提案に優先します。

6.6 弊社が、本規約に基づく義務の履行をお客様に求めなかった場合、または弊社がお客様に対して何らかの権利の行使をしない場合、もしくは弊社がこれらを遅延する場合があったとしても、弊社はお客様に対する権利を放棄するものではなく、また、お客様がそれらの義務を遵守する必要がないということを意味するものではありません。弊社がお客様の不履行に関する請求権を放棄する場合、弊社は書面でのみこれを行うものとし、また、これはお客様によるその後の不履行を自動的に放棄することを意味するものではありません。

6.7 本規約は日本国の法律に準拠し、日本国内の裁判所の排他的裁判管轄に属するものとします。

6.8 本規約への変更及び補足は、以下の場合になされることがあります。A) 変更内容が、お客様の一般の利益に適合するとき。B) 変更内容が相当性・合理性のあるものであり、かつ、本規約の目的に反しないものであるとき。弊社は、本規約を変更する 30 日前までに、ブラザーまたはブラザーが指定するホームページで変更内容を利用者に通知し、効力を生じる前に利用者が確認できる機会を提供します。改訂された規約の効力が生じた場合、本ソフトウェアの利用を継続されるお客様は、改訂された規約に拘束されます。

規格について

無線 LAN ご使用時のご注意

この製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。

1. 製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、製品から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、使用周波数を変更するため、速やかに無線 LAN の使用チャンネルか内線用の通信チャンネルを変更するか、または電波の発射を停止した上、お客様相談窓口へお問い合わせください。
3. その他、製品から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りことが起きたときは、お客様相談窓口へお問い合わせください。

無線 LAN 製品ご使用時におけるセキュリティーに関するご注意

● 無線 LAN では、ネットワークケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコンなどと無線アクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由に LAN 接続が可能であるという利点があります。

● その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁など）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティーに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、

- ID やパスワードまたはクレジットカード番号などの個人情報
- メールの内容

などの通信内容を盗み見られる可能性があります。

不正に侵入される

悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、

- 個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）
- 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
- 傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
- コンピューターウィルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）

などの行為をされてしまう可能性があります。

● 本来、無線 LAN カードや無線アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティーの仕組みを持っていますので、無線 LAN 製品のセキュリティーに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

● セキュリティーの設定を行わないで使用した場合の問題を十分理解した上で、お客様自身の判断と責任においてセキュリティーに関する設定を行い、製品を使用することをおすすめします。

電波の種類と干渉距離

2.4 DS4/OF4

「2.4」：2.4GHz 帯を使用する無線設備を表す。
「DS」：変調方式が DS-SS 方式であることを表す。
(IEEE802.11b のとき)
「OF」：変調方式が OFDM 方式であることを表す。
(IEEE802.11g/n のとき)
「4」　：想定される与干渉距離が 40m 以下であることを表す。
「---」：全帯域を使用し、かつ、移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する。

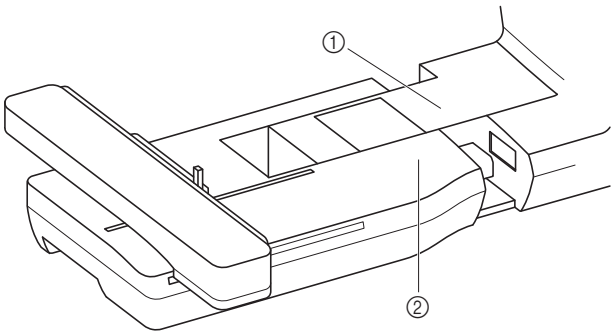
無線モジュール内蔵について

この製品は、日本の電波法に基づき認証された無線モジュールを搭載しております。

警告ラベルについて

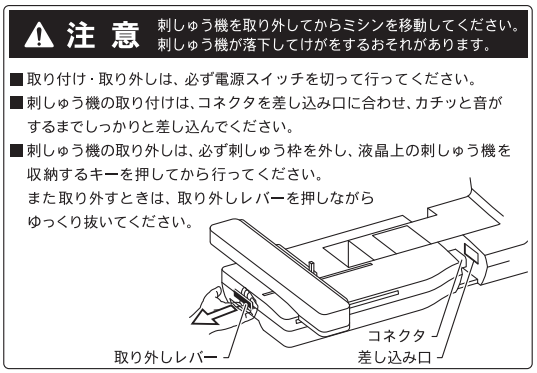
ミシンには下記の警告ラベルが表示されています。
各警告ラベルの内容を十分理解し、記載事項を守って作業を行ってください。
また、警告ラベルは、はがれたり、傷ついたりしないよう十分注意してください。
万一ラベルがはがれていたり、読みとれなくなった場合は速やかに「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。

ラベルの場所



①

②



商標について

WPA™、WPA2™ は Wi-Fi Alliance® の商標です。
「マジックテープ」は (株) クラレの面ファスナーの登録商標です。

ブラザー製品および関連資料等に記載されている社名および商品名はそれぞれ各社の商標または登録商標です。

オープンソースライセンス公開

オープンソースライセンスに関する記述は、ブラザーのサポートサイト（ http://s.brother/cphak/ ）の製品マニュアルをご覧ください。

著作権とライセンスについて

本製品には、下記のベンダーが開発したソフトが含まれています。
©2008 Devicescape Software, Inc.

無線 LAN 接続に関するご注意

本製品の無線 LAN インターフェースは、電気通信事業者（移動通信会社、固定通信会社、インターネットプロバイダ等）の通信回線（公衆無線 LAN を含む）に直接接続することができません。本製品をインターネットに接続する場合は、必ずルーター等を経由し接続してください。

目次

第 1 章　ぬう前の準備　9

- 各部の名称 9
  - 付属品 11
- 電源の入れ方 12
- 液晶画面 13
  - 液晶画面の見方 13
  - 設定画面 16
  - 操作キーの感度を調節する 18
- 無線 LAN 接続機能 18
  - 無線 LAN 接続でできること 18
  - 無線 LAN 接続設定を有効にする 19
  - ウィザードで無線 LAN 接続をセットアップする 19
- 下糸の準備 21
  - 下糸を巻く 21
  - 下糸をセットする 23
- 上糸通し 25
  - 上糸を通す 25
  - 下糸を引き出す 28
- 布地と糸の種類による針の使い分け 29
- 針の交換 30
  - 正しい針の見分け方 30
  - 針の交換 30
- 押えの交換 31
  - 押えを交換する 31
  - 押えホルダーを取り外す／取り付ける 32

第 2 章　基本のぬい方　35

- ぬってみましょう 35
  - 模様の種類 35
  - 基本的なぬい方 35
  - 模様を組み合わせる 37
  - 返しぬい／止めぬいをする 38
  - 自動で返しぬい／止めぬいをする 39
  - 自動糸切り 40
  - 自動押え上下機能 40
  - 自動押え圧補正 40
  - ピボット 41
  - 振り幅／ぬい目の長さ／ぬい目の基線位置（L/R シフト）を調節する 42
- 糸調子を調節する 43
- 上手にぬうためのヒント 43
  - 上手にぬうコツ 43
  - 布端から一定の距離をぬう 44
  - いろいろな素材をぬう 45
  - ニーリフターを使用する 47

第 3 章　いろいろなぬい方　49

- ぬい方早見表 49
- 実用ぬい 55
  - 布端を始末する 55
  - すそ上げをする 57
  - ボタン穴かがり 58
  - ボタンつけ 61
  - ファスナーつけ 62
  - アップリケ／パッチワーク／キルトぬい 63
  - その他のぬい方 66
  - ステップ模様を作る 73
- 模様の調整をする 74
- 模様の記憶 75
  - 模様を記憶させる 75
  - 模様を呼び出す 76
- マイイラスト機能 77

第 4 章　刺しゅう　81

- 刺しゅうの準備 81
  - 刺しゅう押えを取り付ける 81
  - 刺しゅう機を取り付ける 82
  - きれいに刺しゅうするために 83
  - 刺しゅう枠に布地を張る 84
  - 刺しゅう枠をセットする 86
- 刺しゅうする 87
  - 刺しゅう模様を選択する 87
  - 模様を刺しゅうする 90
  - 自動押え下げ 93
  - 糸調子を整える 94
  - 自動糸切り機能 94
  - 渡り糸切り機能 95
  - 刺しゅう模様を使用してアップリケをする 95
  - 枠模様を使用してアップリケをする 96
  - 分割模様をぬう 97
- 編集のしかた 98
- 縫製設定画面で編集する 100
  - 模様と針の位置をあわせる 101
  - 文字をつなげて刺しゅうする 101
  - 糸色ごとに並べ替える 102
- 刺しゅう模様の記憶 103
  - 刺しゅう模様を記憶させる 103
  - 刺しゅう模様を呼び出す 104

第 5 章　付録　105

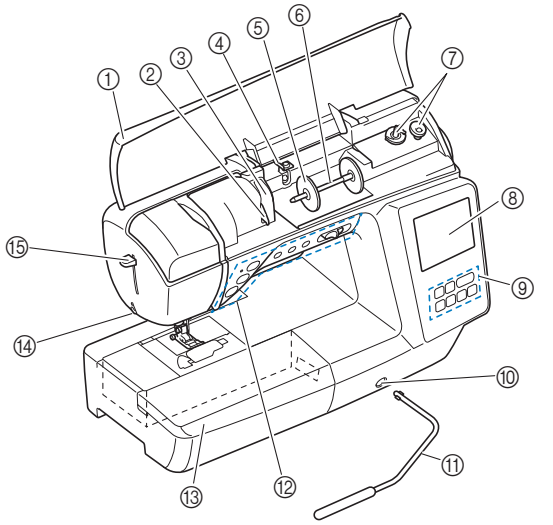
- お手入れのしかた 105
  - 画面の汚れの掃除 105
  - 本体表面の掃除 105
  - 注油に関して 105
  - ミシンを保管するときのご注意 105
  - かまの掃除 105
  - タッチパネルが反応しない 106
- 困ったとき 107
  - 上糸がつる 107
  - 布裏で糸がからまる 107
  - 糸調子が合わない 108
  - 布がミシンに入り込んでとれなくなった 109
  - ボビン受け座の下に糸がからまってしまった 111
  - こんなときは 112
  - エラーメッセージ 115
  - 無線 LAN のセキュリティー情報（SSID とネットワークキー）の確認方法 117
  - 電子音について 117
- 仕様 118
- ミシンをアップデートする 118
- 索引 119

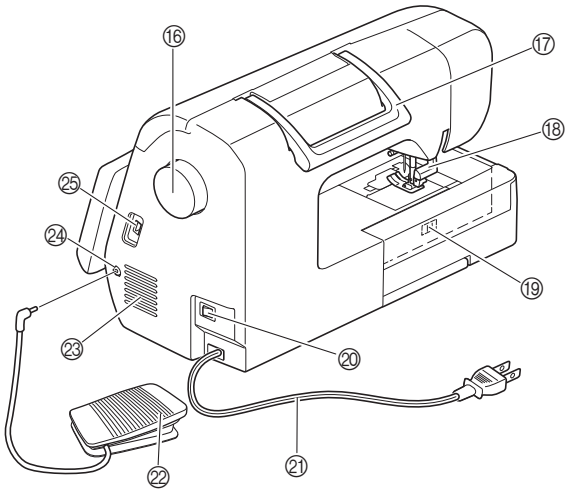
第1章　ぬう前の準備

☼ お願い
- 必ず最新のソフトウェアをインストールしてください。
詳細は「ミシンをアップデートする」（P.118）を参照してください。

各部の名称

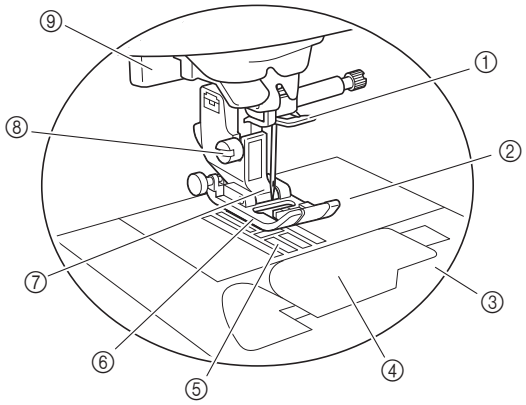
■ 主要部





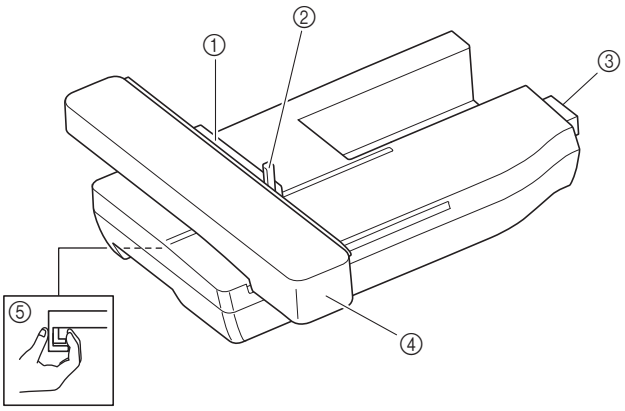
① **上ふた（P.21）**
② **糸案内板（P.22、 P.26）**
③ **糸案内カバー（P.22）**
④ **下糸巻き案内（P.22）**
⑤ **糸こま押え（P.21）**
⑥ **糸たて棒（P.21）**
⑦ **下糸巻き装置（P.21）**
⑧ **液晶画面（P.13）**
⑨ **操作パネル（P.11）**
⑩ **ニーリフター差し込み口（P.47）**
⑪ **ニーリフター（P.47）**
⑫ **操作スイッチとスピードコントロールレバー（P.10）**
⑬ **補助テーブル（P.11、 44）**
⑭ **糸切り（P.27）**
⑮ **糸通しレバー（P.27）**
⑯ **プーリー**
ぬい目を1針ずつ送ったり、針を上げ下げしたりするときに手前に回します。
⑰ **ハンドル**
ミシンを持ち運ぶために使用します。
⑱ **押えレバー**
押えを上げ下げします。
⑲ **ドロップレバー（P.65）**
送り歯を下げるときと、元に戻すときに使用します。
⑳ **電源スイッチ（P.12）**
㉑ **電源コード（P.12）**
㉒ **フットコントローラー（P.37）**
㉓ **換気口**
モーターの換気用の穴です。ミシンを使用しているときはふさがないでください。
㉔ **フットコントローラージャック（P.37）**
㉕ **USB ポートコネクタ（P.75、 103）**

■ 針と押え部分



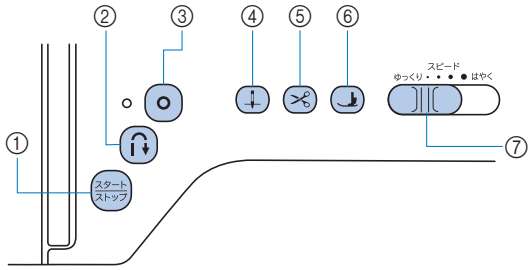
① **針棒糸かけ（P.26）**
② **針板（P.44）**
③ **針板カバー（P.24）**
④ **針板ふた／内かま（P.24、 105）**
⑤ **送り歯**
ぬう方向に布地を送ります。
⑥ **押え**
布地を押さえます。ぬい方に合った押えを取り付けてください。
⑦ **押えホルダー（P.32）**
⑧ **押えホルダーのネジ（P.32）**
⑨ **ボタン穴かがりレバー（P.59）**

■ 刺しゅう機



① **刺しゅう枠ホルダー（ P.86 ）**
② **枠固定レバー（ P.86 ）**
③ **コネクタ（ P.82 ）**
④ **キャリッジ（ P.82 ）**
⑤ **刺しゅう機取り外しレバー（ P.83 ）**

■ 操作スイッチ



① **スタート／ストップスイッチ**
このスイッチを押すと、ミシンをスタートまたは停止します。スイッチの色はミシンの状態によって変わります。

緑： スタートできる状態のとき／縫製中
赤： スタートできない状態のとき
橙： 下糸を巻いているとき／下糸巻き軸が右側に入っているとき

② **返しぬいスイッチ**
このスイッチを押すと、返しぬいまたは止めぬいをします。（ P.38 ）

③ **止めぬいスイッチ**
このスイッチを押すと 1 針ぬいを繰り返した後で、止めぬいします。（ P.38 ）
文字／飾り模様の場合は、このスイッチを押すと模様の途中で止まらず、最後までぬいます。
スイッチ横の LED ライトは、縫製中は自動的に点灯し、ぬい終わったら消灯します。

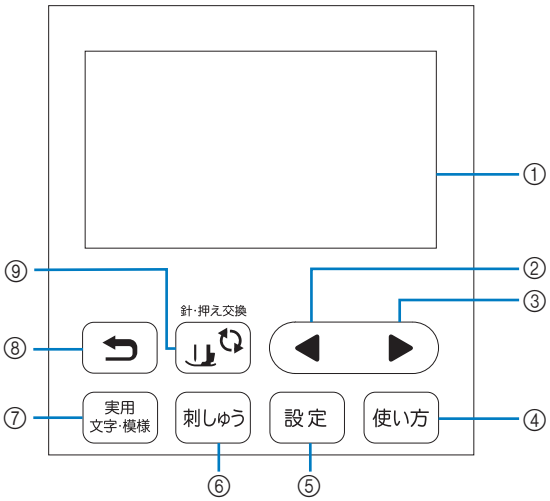
④ **針上下スイッチ**
このスイッチを押すと、針の位置が上下に切り換わります。
2 回押すと、 1 針ぬいができます。

⑤ **糸切りスイッチ**
ぬい終わった後にこのスイッチを押すと、上糸と下糸を切ります。

⑥ **押え上下スイッチ**
このスイッチを押すと、押えが下がり布地を押さえます。もう一度押すと押えが上がります。

⑦ **スピードコントロールレバー**
このレバーを左右に動かして、ぬう速さを調節します。

■操作パネルと操作キー



① 液晶画面（タッチパネル）
選択した模様の設定値や、操作を誤ったときのエラーメッセージが表示されます。
液晶画面のキーを押すことで、操作をします。
詳細は、「液晶画面」（P.13）を参照してください。

② 前ページキー ◀
液晶画面に表示されていない項目があるときに、前の画面を表示します。

③ 次ページキー ▶
液晶画面に表示されていない項目があるときに、次の画面を表示します。

④ ミシンの使い方キー 使い方
ミシンの使い方を確認するときに押します。

⑤ 設定キー 設定
針上下位置や操作音などの設定をするときに押します。

⑥ 刺しゅうキー 刺しゅう
刺しゅう模様選択画面を表示させるときに押します。

⑦ 実用／文字模様キー 実用 文字・模様
実用模様や飾り模様をぬうときに押します。

⑧ 戻るキー
液晶画面の表示を１つ前に戻すときに押します。

⑨ 針・押え交換キー
針や押えを交換するときなどに押します。ミシンが作動しないように他のすべての操作キーと操作スイッチがロックされます。

お願い

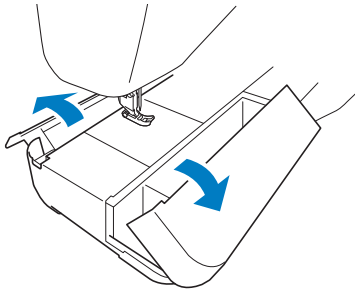
- 操作キーは静電容量式タッチセンサーです。指で直接触れて操作してください。操作する人によって反応が異なりますが、キーを押す強さによって反応が変わるわけではありません。
- 操作キーは操作する人によって反応が異なりますので、感度設定を調節して使用してください。（P.18）
- 市販の静電容量式に対応したタッチペンを使用する場合は、タッチペンの先が 8mm 以上のものを使用してください。先の細いタッチペン、特殊な形状のタッチペンは使用しないでください。

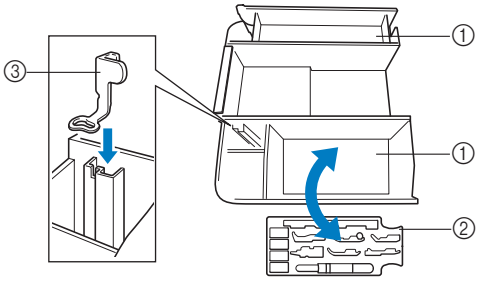
付属品

付属品については、別紙「付属品」を参照してください。

補助テーブルのふたを開けると、付属品収納スペースがあります。

補助テーブルの付属品収納スペースの中には、押え収納トレイが入っています。





① 補助テーブルの中の付属品収納スペース
② 押え収納トレイ
③ 刺しゅう押え＜U＞

電源の入れ方

⚠ 警告

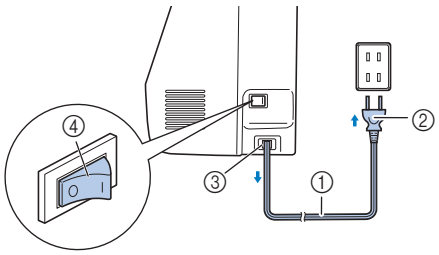
- 一般家庭用電源 **AC100V** の電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 次のようなときは電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。火災・感電・故障の原因となります。
  - ミシンのそばを離れるとき
  - ミシンを使用したあと
  - 使用中に停電したとき
  - 接触不良、断線などで正常に動作しないとき
  - 雷が鳴りはじめたとき

⚠ 注意

- 延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源プラグを抜くときはまず電源スイッチを切り、必ずプラグの部分を持って抜いてください。電源コードを引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。
- 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物を載せたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードまたは電源プラグが破損したときはミシンの使用をやめて、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。
- 長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となります。

1 電源スイッチが「切」になっている（「○」側を押してある）ことを確認します。

2 電源コードを引き出し、電源プラグを家庭用電源コンセント（AC100V）に差し込みます。

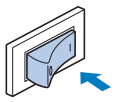


① 電源コード
② 電源プラグ
③ 赤い印
④ 電源スイッチ

お願い

- 電源コードは、赤い印以上引き出さないでください。

3 ミシン本体右側面の電源スイッチの右側（ I 側）を押して「入」にします。



→ 電源が入り、ライトと液晶画面、スタート／ストップスイッチが点灯します。針や送り歯が動くと音がしますが、故障ではありません。

4 オープニング画面が表示されたら、液晶画面を指で押します。

お願い

- 初めて本機の電源を入れたときは、液晶画面に表示する言語を選択してください。

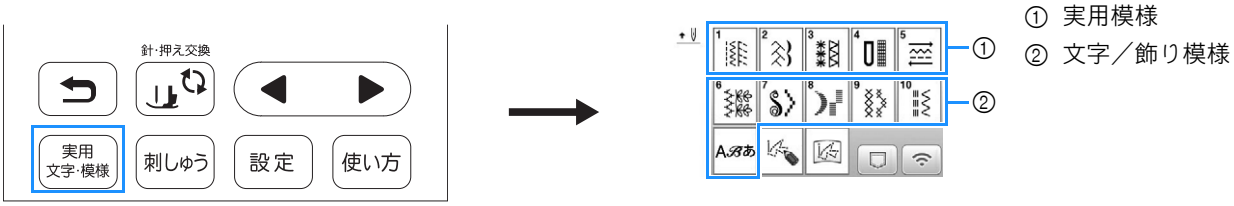
5 ミシンの電源を切るには、電源スイッチの左側（○側）を押して「切」にします。

液晶画面

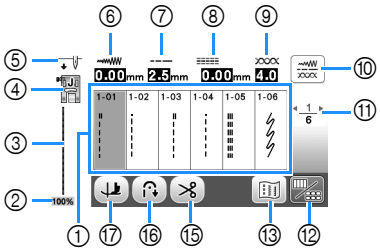
液晶画面の見方

模様や機能を選択したり、操作をするときは、キーを指で押します。

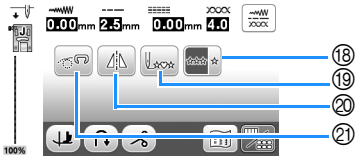
操作パネルの[実用 文字・模様]を押すと、次の画面が表示されます。



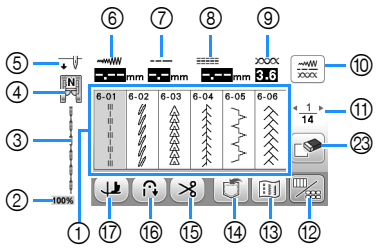
■ 実用模様画面



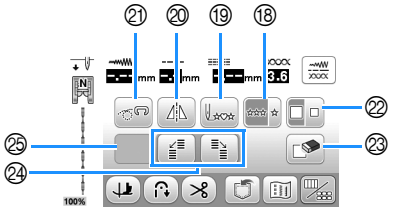
■ 実用模様編集画面



■ 文字／飾り模様画面



■ 文字／飾り模様編集画面



お知らせ

- 模様の種類によって、使用できない編集機能があります。使用できる編集機能の場合は、模様を選択しているときにキーが表示されます。

番号	画面表示	名称	はたらき	参照ページ
①	−	模様	ぬいたい模様のキーを押します。	35
②	100%	表示サイズ	選択した模様が実際と比べてどのくらいのサイズで表示されているかを、おおよその数値で表しています。 100%: 実際とほぼ同じサイズで表示されています。 50%: 実際の半分のサイズで表示されています。 25%: 実際の 1/4 のサイズで表示されています。	−
③	−	模様イメージ	選択した模様イメージを表示します。	−

番号	画面表示	名称	はたらき	参照ページ
④		押え表示	押え記号を表示します。ぬう前に、ここで表示している押えを取り付けてください。 ジグザグ押え＜J＞ まつりぬい押え＜R＞ 模様ぬい押え＜N＞ ボタン付け押え＜M＞ たち目かがり押え＜G＞ サイドカッター押え＜S＞（別売） ボタン穴かがり押え＜A＞ * 片押え<I>やキルト押えなど、液晶画面に表示されない押えもあります。	31
⑤		針位置設定表示	1本針と2本針のどちらが設定されているかを表示します。針位置が上下どちらに設定されているかも表示します。 : 1本針／針位置下　 : 2本針／針位置下 : 1本針／針位置上　 : 2本針／針位置上	16
⑥		振り幅設定表示	選択した模様について、振り幅の現在の設定値を表示します。	42
⑦		ぬい目の長さ設定表示	選択した模様について、ぬい目の長さの現在の設定値を表示します。	42
⑧		L/R シフト設定表示	選択した模様について、基本位置から左右への移動距離の設定値を表示します。	42
⑨		糸調子設定表示	選択した模様について、糸調子の現在の設定値を表示します。	43
⑩		マニュアル調整キー	振り幅、ぬい目の長さ、L/R シフト、糸調子の調整画面を表示するときに押します。	42
⑪		ページ表示	総ページ数と、現在のページを表示します。	–
⑫		画面切り替えキー	模様編集画面と模様画面を切り替えるときに押します。	13
⑬		イメージキー	選択した模様のイメージを拡大して確認するときに押します。 を押して画面の糸色を変更することができます（青／赤／黒）。	–
⑭		記憶キー	組み合わせた模様を記憶することができます。	75
⑮		自動糸切りキー	自動糸切り機能を有効にするときに押します。	40
⑯		自動返しぬい／止めぬいキー	自動返しぬい／止めぬい機能を有効にするときに押します。	39
⑰		ピボットキー	ピボット設定にするときに押します。	41
⑱		連続／単独ぬいキー	単独ぬいと連続ぬいの切り替えをします。選択した模様によっては、この機能が使用できないこともあります。 ぬっている途中で を押すと、そのときぬっていた模様を 1 サイクル分ぬって自動的に止まります。	–
⑲		模様の頭出しキー	停止時に押すと、縫製中の模様を先頭に戻すことができます。	–
⑳		左右反転キー	模様を選択してから押すと、模様が左右に反転します。	–
㉑		フリーモーションモードキー	フリーモーションモードに設定するときに押します。	65
㉒		大きさキー	飾り模様、文字模様を選択してから押すと、模様の大きさが変わります（大／小）。	–
㉓		削除キー	選択した模様を取り消すときに押します。模様の組み合わせを間違えたときも、このキーを押して模様を取り消します。	–
㉔		ステップ模様キー	ステップ模様を作るときに押します。	73

番号	画面表示	名称	はたらき	参照ページ
㉕	以下のキーは、選択した模様によって表示／非表示が変わります。			
		模様の長さキー	7mm サテンステッチ模様を選択してから押すと、振り幅・ぬい目の長さを変更せず、模様の長さを 5 段階から選択することができます。	−
		糸密度キー	大型サテンステッチ模様を選択してから押すと、模様の糸密度を変更することができます。 ：密度が低い　：密度が高い 糸密度をにして模様が盛り上がるときは、に戻してください。そのままぬい続けると、針が折れたり曲がったりするおそれがあります。	−
		文字間隔キー	文字模様の文字間隔を調整できます。入力した文字（入力前、入力中、入力後）に対して、文字間の設定が適用されます。	−

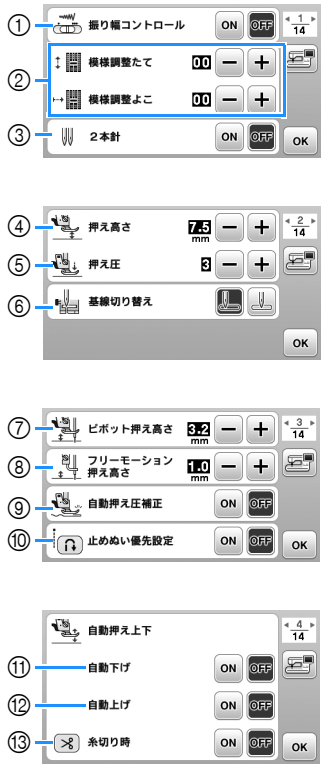
設定画面

設定を押すと、ミシンのさまざまな設定を変更することができます。設定を変更した後は、OKまたは を押します。

お知らせ

- お使いのミシンには、出荷時の最新バージョンのプログラムがインストールされています。最新バージョンに関する情報は、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」に問い合わせいただくか、ブラザーのサポートサイト (http://s.brother/cphak/) で掲載される情報を参照してください。
- USB メモリーが USB ポートコネクタに差し込まれているときに、を押すと、現在の設定画面を、画像として USB メモリーに保存することができます。画像は「bPocket」フォルダーに保存されます。

■ ぬいの設定



① この設定を［ON］にすると、スピードコントロールレバーがジグザグの振り幅調節レバーに切り替わります。（P.66）

② 文字・飾りぬいの模様を調節します。（P.74）

③ 2 本針を使用するときに［ON］に設定します。（P.71）

④ 押えが上がった状態の、押えの高さを選択します。

⑤ 押え圧を調節します。数字が大きいほど押え圧は強くなります。通常は 3 に設定してください。

⑥ 電源を入れたときに自動的に選択される模様として、「1-01 直線（左基線）」または「1-03 直線（中基線）」を選択します。

⑦ ピボット機能を有効にしたときの、縫製停止時の押えの高さを変更します。（P.41）

⑧ フリーモーションモードに設定したときの、押えの高さを設定します。（P.65）

⑨ この設定を［ON］にすると、センサーが布地の厚さを自動的に読み取って、スムーズに布送りすることができます。（P.40）

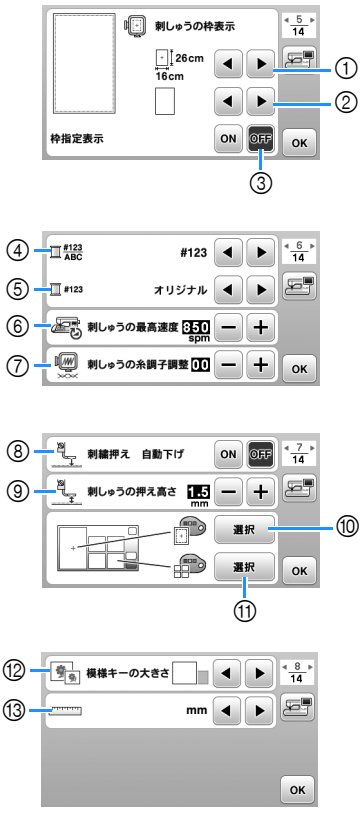
⑩ この設定を［ON］にして止めぬい模様を選択すると、（返しぬいスイッチ）を押しても止めぬいをします。

⑪ この設定を［ON］にして、押えが上がった状態でスタート／ストップスイッチを押すと（またはフットコントローラーを踏むと）、自動的に押えを下げてぬい始めます。

⑫ この設定を［ON］にすると、ぬい終わった後、自動的に押えを上げます。
押えは、設定画面 2 ページの［押え高さ］で設定した高さまで上がります。ピボットが設定されているときは、設定画面 3 ページの［ピボット押え高さ］で設定した高さまで上がります。

⑬ この設定を［ON］にすると、押えが上がった状態で（糸切りスイッチ）を押したときに、自動的に押えを下げて糸を切ります。糸切り後に押えが上がります。

■ 刺しゅうの設定

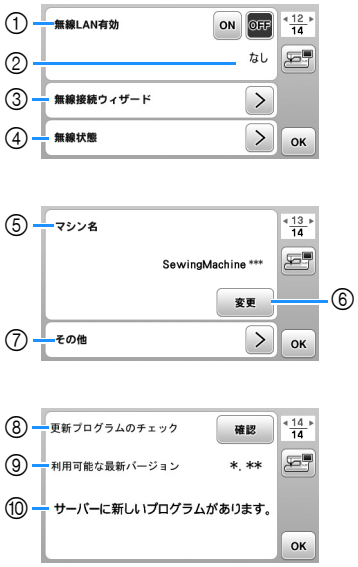


① 刺しゅう枠のサイズを選択します。
② 中央の印とグリッド線の表示を選択します。
③ この設定を［ON］にすると、①で選択した刺しゅう枠のサイズに対応している刺しゅう模様だけが選択できます。（P.88）
④ 刺しゅうの糸色表示を、糸番号または糸色名のいずれかに設定します。（P.92）
⑤ 刺しゅう糸のブランドを選択します。（P.92）
⑥ 刺しゅうのときの最高速度を調節します。
⑦ 刺しゅうの糸調子を調整します。（P.94）
⑧ この設定を［ON］にして、押えが上がった状態でスタート／ストップスイッチを押すと、自動的に押えを下げてぬい始めます。（P.93）
⑨ 刺しゅう押えの高さを調節します。（P.84）
⑩ 模様表示エリアの背景色を選択します。
⑪ 模様キーの背景色を選択します。
⑫ 模様キーのサイズを選択します。
⑬ 表示単位（ミリ／インチ）を選択します。

■ 共通の設定

① ミシンが停止したときの針位置（上／下）を選択します。
② 操作音の［ON］/［OFF］を選択します。
③ 電源を入れて始めに表示される画面を選択します。
④ 液晶画面に表示される言語を選択します。
⑤ ミシンのライトの［ON］/［OFF］を選択します。
⑥ 操作キーの感度を選択します。（P.18）
⑦ ミシンの前回のメンテナンス以降にぬわれた針数を表示します。ミシンの定期メンテナンスを受けられる時期の目安としてご利用いただけます。定期メンテナンスの時期については、お買い上げの販売店にご相談ください。
⑧ 本機でぬわれた累積針数を表示します。
⑨ ミシンのプロダクトナンバーです。
⑩ ミシンにインストールされているプログラムのバージョンです。

■ 無線 LAN の設定

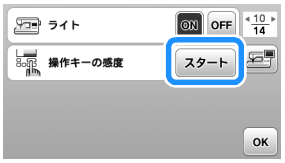


① 無線 LAN 機能を有効 / 無効にします。（P.19）
② 接続中の SSID を表示します。（P.19）
③ ミシンを無線 LAN 機能へ接続する設定をします。（P.19）
④ 無線 LAN の状態を表示します。
⑤ 無線 LAN 機能で使用するミシンの名前を表示します。
⑥ ［マシン名］を変更します。
⑦ その他の設定や、無線 LAN 接続をリセットするときに表示します。
⑧ ソフトウェアの最新バージョンを確認します。バージョンは［利用可能な最新バージョン］に表示されます。
⑨ ソフトウェアの最新バージョンを表示します。
⑩ 最新のプログラムがある場合、［サーバーに新しいプログラムがあります。］と表示されます。表示されたら、ミシンをアップデートしてください。（P.118）

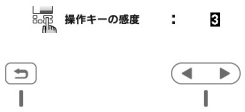
操作キーの感度を調節する

操作キーの感度は、５段階から選択することができます。設定画面で、使いやすい感度を選択してください。

1. 設定を押して、設定画面を表示します。
2. ◀／▶を押して、10 ページを表示します。
3. ［スタート］を押します。



4. ◀／▶を押して、［操作キーの感度］を調節します。
   - 数値が高いほど感度は高くなります。初期設定値は、［3］です。
   - 市販の静電容量式に対応したタッチペンを使用する場合は、感度を最高に設定することをおすすめします。
   - 感度を調節しているときに、使い方を押すと操作キーが反応しているかどうかを確認することができます。操作キーが反応している場合、感度を示す設定値が点滅します。



5. を押して、元の画面に戻ります。

■ 操作キーを押してもミシンが動かないときは

ミシンの電源を切ったあと、(糸切りスイッチ)を押しながらミシンの電源を入れてください。
［操作キーの感度］の設定がリセットされます。
そのあと、設定画面で［操作キーの感度］を調節してください。

無線 LAN 接続機能

無線 LAN 接続でできること

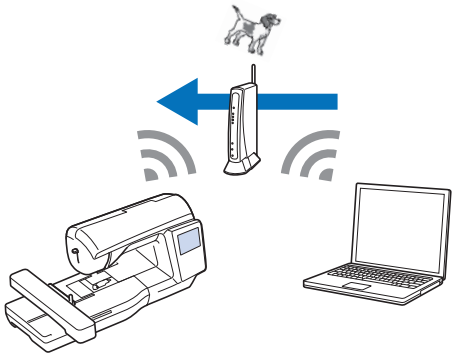
本機は無線 LAN 接続に対応しています。無線 LAN 接続をすることで以下の便利な機能をご利用頂くことができます。

お願い

- ミシンとパソコンは同じネットワークに接続してください。

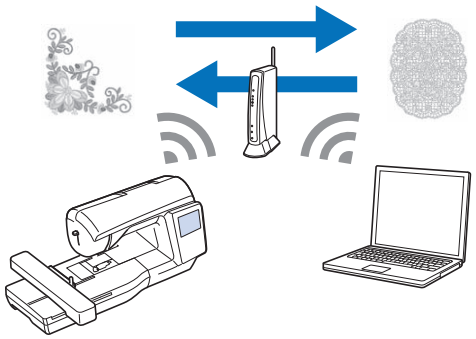
- Windows 専用アプリ（Design Database Transfer）を使ってパソコンからミシンへ刺しゅう模様を無線転送することができます。
  下記の URL から、アプリをダウンロードすることができます。
  http://s.brother/cahkc/

* Design Database Transfer 側の設定も必要です。詳しくは、 Design Database Transfer の取扱説明書を参照してください。



- 刺しゅうデータ作成ソフトウェア（刺しゅう PRO11 およびそれ以降のバージョン）で編集された刺しゅう模様をパソコンからミシンに無線転送できます。また、ミシンで編集した刺しゅう模様を刺しゅう PRO に転送できます。

* 刺しゅうPRO側の設定も必要です。詳しくは、刺しゅう PRO の取扱説明書を参照してください。



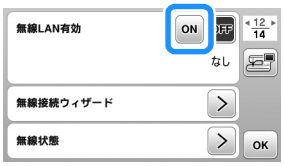
無線 LAN 接続設定を有効にする

本機はお使いの無線ネットワークに接続することができます。

1 設定 を押して、設定画面を表示します。

2 ◀／▶を押して、 12 ページを表示します。

3 ［無線 LAN 有効］を［ON］にします。



→ ミシンが無線接続の準備をします。

■ ワイヤレスネットワーク接続要件

無線 LAN 接続は、 IEEE 802.11b / g / n 規格に準拠し、 2.4GHz の周波数を使用します。

お知らせ

- WPA/WPA2 エンタープライズの無線 LAN 接続はできません。

ウィザードで無線 LAN 接続をセットアップする

無線 LAN 接続を設定する方法は複数あります。このミシンのウィザードを使用する方法を推奨します。

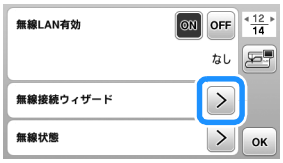
1 ミシンを無線LANに接続するために、お使いのホームネットワークのセキュリティー情報（SSID とネットワークキー）が必要です。ネットワークキーは、パスワード、セキュリティーキー、または暗号化キーと呼ばれる場合もあります。お使いのセキュリティー情報を確認し、以下に書きとめます。

SSID	ネットワークキー（パスワード）

お知らせ

- セキュリティー情報がない場合、無線 LAN 接続を設定することはできません。
- セキュリティー情報を見つける方法
  ① お使いのホームネットワークに付属の説明書を確認してください。
  ② 初期設定時の SSID は、メーカー名やモデル名の場合があります。
  ③ セキュリティー情報がわからないときは、ルーターの製造元、ネットワーク管理者、またはインターネットプロバイダーにお問い合わせください。
  ④ 一部の SSID とネットワークキー（パスワード）では、大文字と小文字が区別されている場合があります。

2 ［無線接続ウィザード］の横の > を押します。



→ 使用可能な SSID のリストが表示されます。

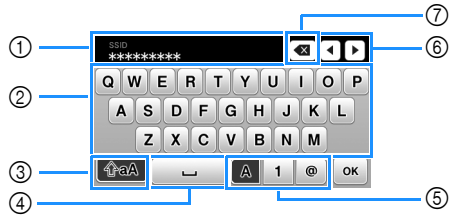
3 書きとめた SSID を選択します。

→ ネットワークキー（パスワード）を入力する画面が表示されます。

お知らせ

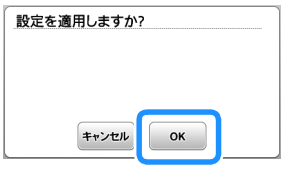
- 書きとめた SSID を探すときは、◀ キーまたは ▶ キーを押すと、前のページまたは次のページが表示されます。
- 接続する SSID が表示されない場合は、以下の方法で入力してください。
  ① SSID のリストの最後にある、 新SSID を押します。
  ② 接続する SSID を入力して、 OK を押します。
  ③ 認証方法と暗号化モードを選択します。
- 過去に接続した接続先を使用する場合は、 保存SSID を押し、保存された SSID を選択します。

4 書きとめたネットワークキー（パスワード）を入力して、OK を押します。

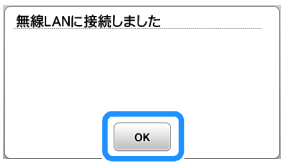


① 文字入力エリア
② 文字キー
③ 大文字／小文字キー
④ スペースキー
⑤ 文字／数字／記号キー
⑥ カーソルキー（カーソルを左右に移動します）
⑦ バックスペース キー（カーソル位置の文字を削除します）

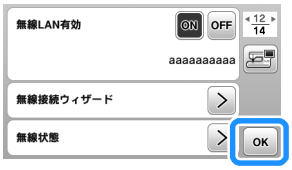
5 次のメッセージが表示されたあと、OK を押します。



→ 接続が完了すると、以下のメッセージが表示されます。



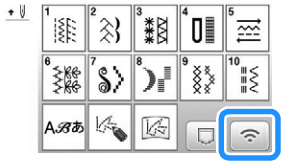
6 OK を押して、設定を終了します。



→ 設定画面 13 ページにある［マシン名］は、無線 LAN 機能で使用します。

お知らせ

- 接続している間、信号強度は模様選択画面と刺しゅう模様選択画面右下の無線 LAN キーで確認できます。



- 一度無線 LAN をセットアップすれば、ミシンの電源を入れるたびに無線 LAN に接続されます。ただし、無線 LAN 画面の［無線 LAN 有効］を［ON］のままにする必要があります。

■［その他］メニューから無線LAN接続の設定をする

設定画面 13 ページの［その他］メニューには以下の項目があります。

① TCP/IP 設定を手入力することができます。
② MAC アドレスを表示します。
③ プロキシ設定が必要な場合に使用します。
④ 無線 LAN 接続設定をリセットします。

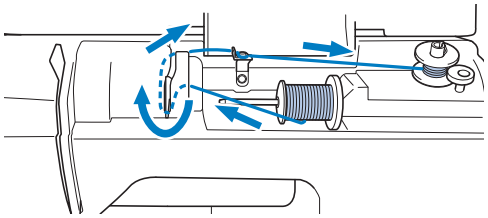
下糸の準備

⚠ 注 意

- 付属のボビンは本機純正品です。必ず純正ボビンをご使用下さい。ボビンの高さは 11.5mm です。

下糸を巻く

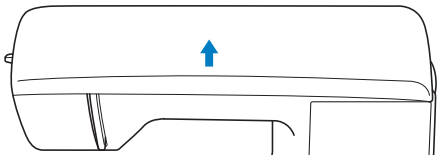
下糸用の糸をボビンに巻きます。



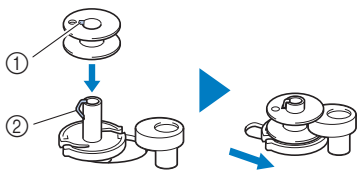
お願い

- 実用ぬい用に下糸を巻くときは、布地に適した糸を使用してください（P.29）。通常は上糸と同じ糸を使用します。
- 刺しゅう用に下糸を巻くときは、ブラザーの刺しゅう用下糸を使用してください。

1 上ふたを開けます。



2 ボビンのミゾと下糸巻き軸のバネの位置を合わせてセットし、カチッと音がするまでボビンを右側に押します。

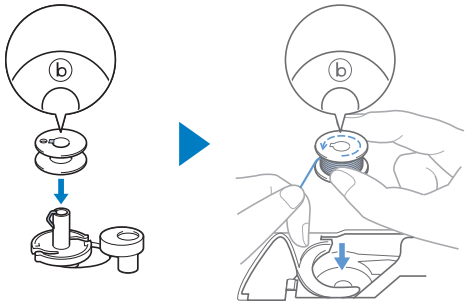


① ミゾ
② 下糸巻き軸のバネ

お知らせ

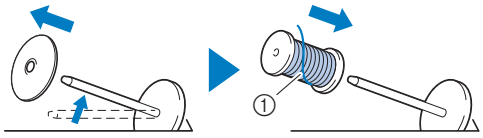
- ボビンをかまにセットする際、下糸巻き軸セット時と同じ向きでセットすることで、正しい巻き方向で下糸がセットされます。

  本機付属ボビンの片面には「b」マークが刻印されていますので、参考にご使用ください。



3 糸こま押えを取り外し、下糸用の糸こまを糸たて棒に取り付けます。

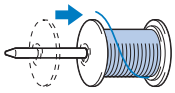
糸こまを糸たて棒に差し込み、糸が正面下から出るようにセットします。正しくセットしないと、糸が糸たて棒にからまるおそれがあります。



① 糸が正面下から出ています。

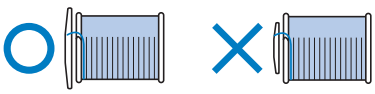
4 糸こま押えを糸たて棒に差し込みます。

糸こま押えの丸みをおびている面を外側にして、奥までしっかりと差し込みます。



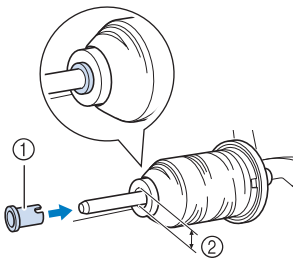
⚠ 注意

- 糸こまや糸こま押えが正しくセットされていないと、糸たて棒に糸がからまり、針折れの原因となります。
- 糸こま押え（大）（中）（小）は糸こまの大きさに合わせて使用してください。糸こまより小さい糸こま押えを使用すると、糸こまの切り欠きなどに糸が引っかかり、故障の原因となります。使用する糸こまによっては、糸こま押え（特殊）を使用します。詳細は、「お知らせ」（P.22）を参照してください。

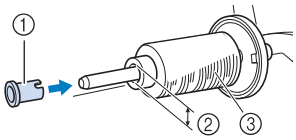


お知らせ

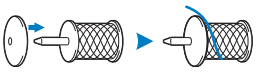
- 下図のような糸こまを使用するときは、 糸こま押え（特殊）を使用してください。
  糸こま押え（特殊）がしっかり取り付けられていることを確認してください。取り付けた後、糸をひっぱってひっかかりなく糸が繰り出すことを確認してください。



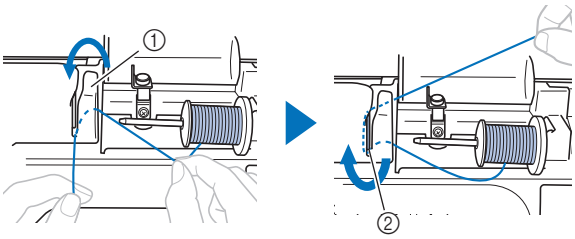
① 糸こま押え（特殊）
② 穴の直径が 8mm から 10.5mm
③ 糸こま（チーズ巻き）



- ナイロン透明糸やメタリック糸などの張りが強い糸を使用する場合は、糸こまネットを糸こまに付けてから糸たて棒にセットしてください。ネットが長い場合は、糸こまの大きさに合わせて折って使用します。

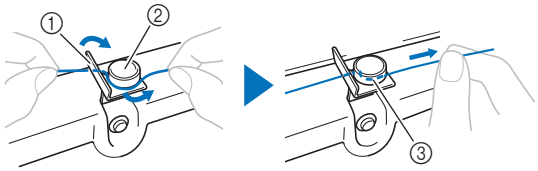


5 引き出した糸がたるまないように糸を持ちながら、糸案内カバーに糸をかけます。その後、糸案内板の下から上へ糸をかけます。



① 糸案内カバー
② 糸案内板

6 下糸巻き案内のツメに糸をかけて、皿の下に通します。

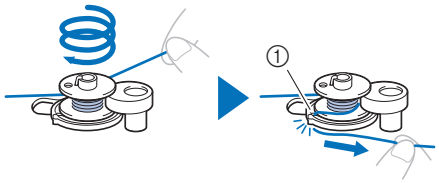


① 下糸巻き案内のツメ
② 皿
③ しっかり奥まで入れるようにひっぱります。

お願い

- 糸が皿の下を確実に通っていることを確認してください。

7 糸を時計回りに5～6回巻き付けて、ボビン受け座のガイドミゾにひっかけ、糸の端を切ります。



① ガイドミゾ（カッター付）

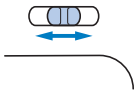
お願い

- 糸は、必ず時計回りに巻いてください。逆方向に巻くと、下糸巻き軸に糸が巻きつくことがあります。

⚠ 注意

- 必ずガイドミゾのカッターで糸を切ってください。正しく糸を切らずに下糸を巻くと、糸量が少なくなったときにボビンに糸がからまり、針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

8 スピードコントロールレバーで下糸を巻く速度を調節します。右に動かすと速く、左に動かすと遅くなります。



お知らせ

- ナイロン透明糸などの伸縮性のある糸は、伸びるおそれがあるため、遅い速度で巻くことをおすすめします。

9 電源を入れます。

- スタート／ストップスイッチがオレンジ色に点灯します。

10 スタート／ストップスイッチを押して、下糸巻きをスタートします。
フットコントローラーを接続している場合は、フットコントローラーを踏み込みます。

お願い

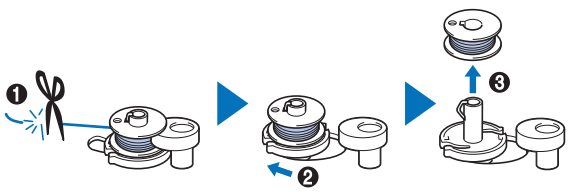
- ナイロン透明糸をボビンに巻くときは、1/2 ～ 2/3 程度巻いたところで止めてください。ナイロン透明糸をボビンいっぱいまで巻くと、巻きくずれや縫製不良の原因となります。また、ボビンに圧力がかかり、ボビンが下糸巻き軸から抜けなくなったりボビンが破損したりする原因となります。

11 ボビンの回転がゆっくりになったら、スタート／ストップスイッチを押して、下糸巻きを停止します。
フットコントローラーを接続している場合は、フットコントローラーから足を離します。

⚠ 注 意

- ボビンの回転がゆっくりになったら、必ず下糸巻きを停止してください。無理に続けると故障の原因となります。

12 糸を切り、下糸巻き軸をカチッと音がするまで左へ戻し、ボビンを取り外します。



13 スピードコントローラーを元の位置へ戻します。

14 糸こまを糸たて棒から外します。

下糸をセットする

下糸を巻いたボビンをかまにセットします。
ボビンをかまに入れ、針板カバーのミゾにそって糸を通してセットするだけで、すぐにぬい始めることができます（下糸を引き出す必要はありません）。

お知らせ

- 糸を引いてギャザーを寄せたいとき、フリーモーションキルトをするときなどぬい始めの糸の始末をしたいときは、あらかじめ下糸を引き出しておきます。詳細は、「下糸を引き出す」（P.28）を参照してください。

⚠ 注 意

- 必ず正しく巻かれた下糸を使用してください。巻き方が悪い下糸を使用すると、針折れや糸調子不良の原因となります。

- 下糸をセットするときや交換するときは、必ず操作パネルの（針・押え交換キー）を押して、操作キーと操作スイッチをすべてロックしてください。が押されていない状態でスタート／ストップスイッチまたは他のスイッチを押すと、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。

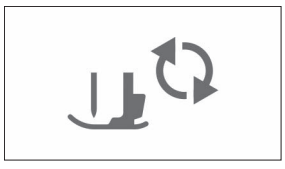
1 電源を入れます。

2 （針上下スイッチ）を 1 回または 2 回押して、針を上げます。

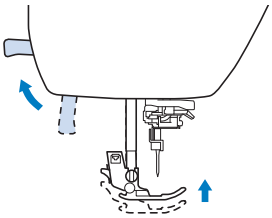
3 を押します。

- 画面に「押えが自動で下がります。よろしいですか？」というメッセージが表示されたら、OK を押して続行します。

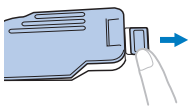
→ 画面が以下のように変わり、以外の操作キーと操作スイッチがすべてロックされます。



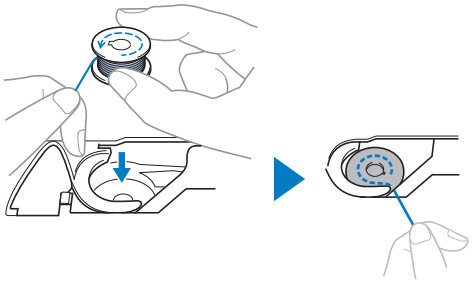
4 押えレバーを上げます。



5 針板ふたの横のつまみを右側へスライドさせ、針板ふたを取り外します。



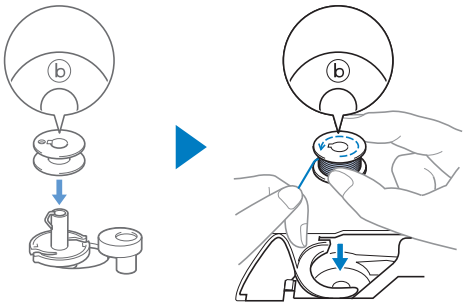
6 糸が左巻きになるようにしてボビンをかまに入れます。



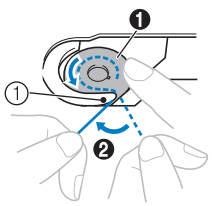
お知らせ

- 下糸巻き軸セット時と同じ向きでボビンをセットすると、左巻きになります。

本機付属ボビンの片面には「b」マークが刻印されていますので、参考にご使用ください。



7 右手でボビンを軽く押さえながら（❶）、左手で巻き終わりの糸を針板カバーのツメにかけます（❷）。

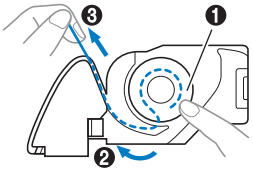


① ツメ

⚠ 注意

- ボビンは必ず指で押さえ、正しい方向から糸が出るようにセットしてください。万一、ボビンを逆の方向にセットすると、針折れや糸調子不良の原因となります。

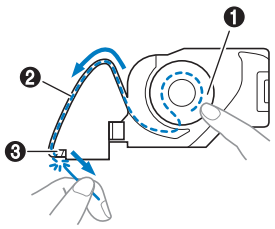
8 右手でボビンを軽く押さえたまま（❶）、ツメにかけた糸を針板カバーのミゾにそって通し（❷）、左手で糸を軽くひっぱります（❸）。



お知らせ

- この図の❷のように、糸を針板カバーのツメにかけてから糸を通し、❸の位置で糸を軽くひっぱることで、内かまの板ばねの間に糸が入り、ぬうときに下糸に適切な張力を加えることができるようになります。

9 右手でボビンを軽く押さえたまま（❶）、左手で残りのミゾに糸を通します（❷）。最後に手前に引いてカッターで糸を切ります（❸）。

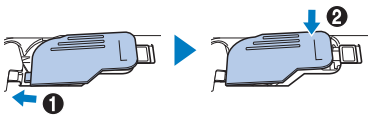


お知らせ

- 必ずこの手順に従って正しく下糸をセットしてください。針板カバーのミゾに糸をはめこむだけでは、下糸が正しくセットできず、縫製不良・糸調子不良の原因となります。

10 針板ふたを元に戻します。

針板ふたのタブを針板カバーに差し込んでから、針板ふたの右側を上から軽く押して取り付けます。



お知らせ

- 下糸を引き出さずにぬい始めることができます。下糸を引き出してからぬう場合は、「下糸を引き出す」（P.28）を参照してください。

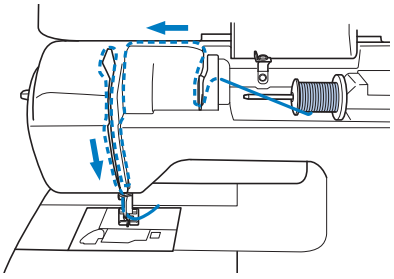
11 を押して、すべてのキーとスイッチのロックを解除します。

上糸通し

⚠ 注 意

- 上糸は、手順に従って正しく通してください。上糸を正しく通していない場合、糸がからんで針が折れたり曲がったりするおそれがあります。
- 20 番以下の太い糸は使用しないでください。
- 針と糸は、「布地と糸の種類による針の使い分け」（P.29）を参照して、適切な組み合わせで使用してください。

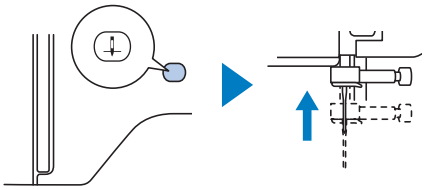
上糸を通す



→ 上糸を通すときは、以下手順に従って正しく行ってください。

1 電源を入れます。

2 （針上下スイッチ）を 1 回または 2 回押して、針を上げます。



3 を押します。

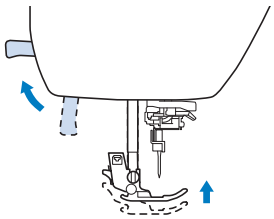
- 画面に「押えが自動で下がります。よろしいですか？」というメッセージが表示されたら、OK を押して続行します。

→ 画面表示が変わり、以外の操作キーと操作スイッチがすべてロックされます。

⚠ 注 意

- 針に糸を通すときは、必ず操作パネルの（針・押え交換キー）を押し、操作キーと操作スイッチをすべてロックしてください。
  が押されていない状態でスタート／ストップスイッチまたは他のスイッチを押すと、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。

4 押えレバーで押えを上げます。

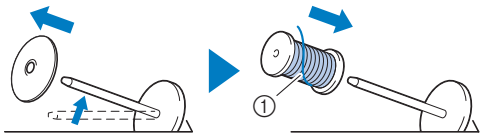


お知らせ

- 押えが上がっていない状態で上糸を通すことはできません。

5 糸こま押えを取り外し、糸こまを糸たて棒に差し込みます。

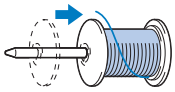
糸こまを糸たて棒に差し込み、糸が正面下から出るようにセットします。正しくセットしないと、糸が糸たて棒にからまるおそれがあります。



① 糸が正面下から出るようにセット。

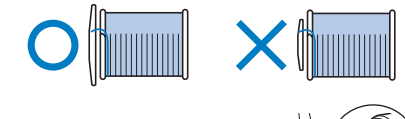
6 糸こま押えを糸たて棒に差し込みます。

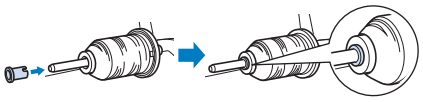
糸こま押えの丸みをおびている面を外側にして、奥までしっかりと差し込みます。



⚠ 注意

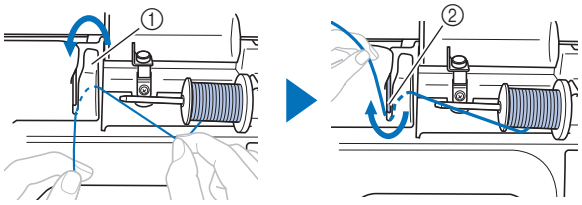
- 糸こま押えは糸こまの大きさに合わせて使用してください。
  適切な糸こま押えの選び方については、P.22 を参照してください。





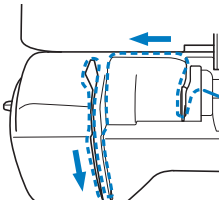
- 糸こまや糸こま押えが正しく取り付けられていないと、糸が糸たて棒にからまったり、針が折れたりするおそれがあります。

7 引き出した糸がたるまないように糸を持ちながら、糸案内カバーに糸をかけます。その後、糸案内板の下から上へ糸をかけます。



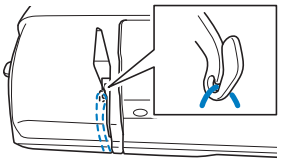
① 糸案内カバー
② 糸案内板

8 糸ガイドの下に通した糸を持ちながら、矢印のように、ミゾにそって糸を通します。



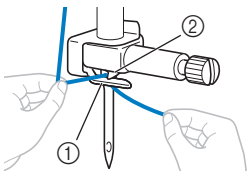
お願い

- 押えを上げるとシャッターが開きます。上糸を通すときや通した上糸を外すときは、必ず押えを上げてください。
- このミシンには、てんびんの位置を確認する窓があります。てんびん確認窓から、糸が確実にてんびんに通っていることを確認してください。



9 針棒糸かけに糸をかけます。

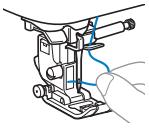
図のように、左手で糸を押さえ、右手で糸端を持ってかけると、針棒糸かけの後ろに通しやすくなります。針棒糸かけのツメの左側に糸が通っていることを確認してください。



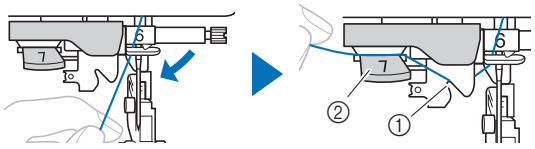
① 針棒糸かけ
② ツメ

10 針や糸が糸通し装置に対応していることを確認します。対応している場合は、次の手順に進みます。

- 糸通し装置は、 11 ～ 16 番のミシン針のみに使用できます。
- ウィングニードルを取り付けているときは、糸通し装置は使用できません。
- ナイロン透明糸や特殊な糸を使用するときは、糸通し装置は使用できません。
- 糸通し装置が使用できない場合は、手で糸を持ち、針穴の手前から後ろへ糸を通します。このとき手順 3 で示したように、操作キーと操作スイッチをすべてロックしてください。

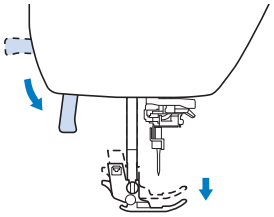


11 針棒糸かけに通した糸の端を左へ引いて、糸ガイドのミゾにかけたら、糸を前からしっかりと引き、番号 7 の糸案内皿のすき間に糸を入れます。

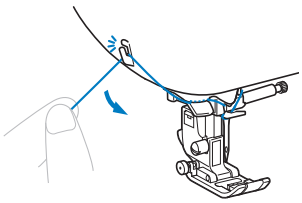


① 糸ガイドのミゾ
② 糸案内皿

12 押えレバーで押えを下げます。



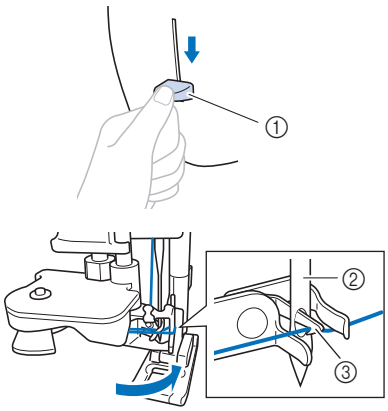
13 ミシン本体左側面の糸切りで糸を切ります。



お願い

- メタリック糸など、糸こまからほどけやすい糸を使用する場合、糸切りで糸を切ると糸通しができないことがあります。このようなときは、糸案内皿（7 のしるし）に糸をかけた後、糸切りを使用せずに、糸を 8cm 以上 引き出してください。

14 ミシン本体左側面の糸通しレバーをガチャと音がするまで下げ、ゆっくりと元へ戻します。



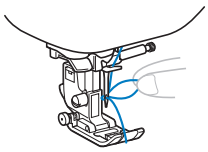
① 糸通しレバー
② 針
③ フック

お願い

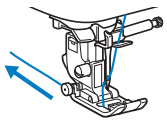
- 針が一番上の位置にないと、糸通し装置が正常に作動しません。一番上の位置にないときは、プーリーを手前に回して、針を一番上まで上げてください。

15 針穴を通った糸をゆっくりひっぱります。

針穴を通った糸が輪になった場合は、輪をゆっくりひっぱり、針穴から糸を引き出します。



16 押えレバーを上げ、上糸を押えの穴から押えの下に通して、後ろ側へ 10cm ほど引き出します。



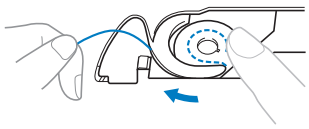
17 を押して、すべてのキーとスイッチのロックを解除します。

下糸を引き出す

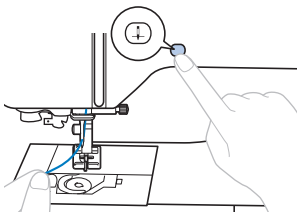
糸を引いてギャザーを寄せたいとき、フリーモーションキルトなどでぬい始めの糸の始末をしたいときは、あらかじめ下糸を引き出しておきます。

1. 「上糸を通す」（P.25）を参照して、針に糸を通します。
2. 「下糸をセットする」（P.23）の 1 ～ 6 を参照して、ボビンをかまに入れます。
3. 引き出した糸をミゾにそって途中まで通します。

   下糸が引き出しにくくなるので、糸切りで糸を切らないでください。

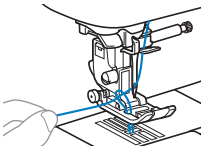


4. を押して、すべてのキーとスイッチのロックを解除します。
5. 左手で上糸の端を軽く持ち、（針上下スイッチ）を 2 回押して、針を上げます。

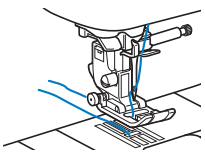


→ 下糸が針板から輪になって引き出されます。

6. 上糸をゆっくりと上へ引き、下糸の糸端を引き出します。



7. 上糸を押えの穴から押えの下に通して、下糸とそろえて押えの下から後ろ側へ 10cm ほど引き出します。



8. 針板ふたを元に戻します。

布地と糸の種類による針の使い分け

- このミシンで使用できる針：家庭用ミシン針（HAx1 シリーズの太さ 9 ～ 16 番）　例） HAx1、 HAx1SP など
- このミシンで使用できる糸： 30 ～ 90 番
  ＊ 20 番以下の太い糸は使用しないでください。故障の原因となります。
- 布地により、ミシン針や糸を使い分けます。次の表を参考にして、布地に適した糸と針を選択してください。
  - 表は目安です。必ず試しぬいをしてください。使用する布地を、実際にぬう枚数分重ねてぬってください。
  - ミシン針は消耗品です。美しい仕上がりと安全のために、折れる前の早めの針交換をおすすめします。
    針交換の目安は「正しい針の見分け方」（P.30）を参照してください。

＊ 基本として、薄い布地には細い針と細い糸、厚い布地には太い針と太い糸を使用します。
＊ 薄い布地をぬうときはぬい目を細かく、厚い布地をぬうときは粗くします。（P.42）

布地の特徴・種類		ミシン糸		針の太さ	ぬい目の長さ mm
		種類	太さ		
		数字が小さいほど太い糸です。 細い← 90 ～ 60 ～ 30 →太い		数字が大きいほど太い針です。 細い← 9 ～ 11 ～ 14 ～ 16 →太い	布地に適した模様を選択し、ぬい目の長さを調節してください。
薄地	ローン、ジョーゼット、ポーラ、オーガンジー、シフォン、ボイル、ガーゼ、チュール、綿サテン、裏地 など	ポリエステル糸	60 ～ 90	9 ～ 11	細かいぬい目（1.8 ～ 2.5）
		綿糸、絹糸	50 ～ 80		
普通地	ブロード、タフタ、ギャバジン、フラノ、サッカー、ダブルガーゼ、リネン（麻布）、ちりめん、タオル地、ワッフル、シーチング、ポプリン、シャンブレー、ダンガリー、サテン、サージ など	ポリエステル糸	60 ～ 90	11 ～ 14	普通のぬい目（2.0 ～ 3.0）
		綿糸、絹糸	50 ～ 60		
厚地	デニム（12 オンス以上）、帆布 など	ポリエステル糸、綿糸	30	16	粗いぬい目（2.5 ～ 4.0）
	デニム（12 オンス以上）、帆布、ツィード、コーデュロイ、ベロア、キルティング、メルトン、モッサ、ビニールコーティング地 など	ポリエステル糸	60	14 ～ 16	
		綿糸、絹糸	30 ～ 50		
のびる布地（ニット素材など）	ジャージー、トリコット、Tシャツ地、フリース、スムース など	ニット用糸	50	ニット用針（金） 11 ～ 14	布地の厚みに応じて設定 ＊ 伸びる布地に適した模様の選択をおすすめします。（「伸びる布地をぬう」（P.46））
ステッチをかける場合 ＊ 20 番以下の太い糸（ステッチ糸）を使用しないでください。糸通し装置の故障や、針折れの原因となります。		ポリエステル糸	30	14 ～ 16	布地の厚みに応じて設定
			50 ～ 60	11 ～ 14	

■ ナイロン透明糸

布地や糸にかかわらず 14 ～ 16 番の針を使用します。

■ 文字／飾り模様をぬうとき（針・糸）

薄地、普通地、のびる布地をぬうときはニット用針（金）の 11 番を使用し、厚い布地には、家庭用ミシン針の 14 番を使用します。
糸は 50 ～ 60 番を使用します。

■ 刺しゅう用の針

11 番を使用します。

⚠ 注 意

- 布地と糸と針の組み合わせは、上記に従ってください。組み合わせが適切でない場合、ぬい目がふぞろいになり、ぬいじわや目とびの原因になります。特に、厚い布地（デニムなど）を細い針（9 ～ 11 番）でぬうと、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

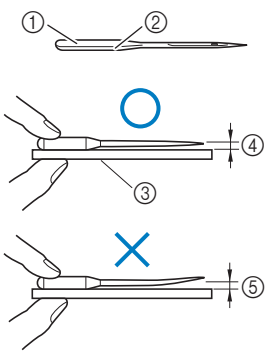
針の交換

⚠ 注 意

- 針は必ず家庭用ミシン針（ＨＡ×1）を使用してください。そのほかの針を使用すると、針が曲がったり、ミシンが故障する原因となります。
- 曲がった針は絶対に使用しないでください。けがをするおそれがあります。

正しい針の見分け方

針を使用する前に、針の平らな面を平らな板などに合わせて確認し、すき間が平行にならない針は使用しないでください。



① 平らな面
② 針の種類の刻印
③ 平らな板
④ 平行
⑤ 平行でない

お願い

- 針は消耗品です。次の事例にあてはまるときは、針を交換して下さい。
  - 針が布地に刺さる際に通常と異なる音（パツパツやバスッバスッなど）が出るとき（針先が折れていたりつぶれていたりする可能性があります。）
  - 目とびが起きるとき（針が曲がっている可能性があります。）
  - 目安として、洋服などを1作品ぬい終えたとき

針の交換

「正しい針の見分け方」で確認した新しい針と、付属のドライバーを用意します。

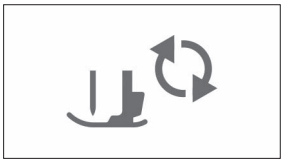
1 （針上下スイッチ）を1回または2回押して、針を上げます。

2 ミシン内部に針が落ちるのを防ぐために、押えの下に布または紙を置いて、針板の穴をふさぎます。

3 を押します。

- 画面に「押えが自動で下がります。よろしいですか？」というメッセージが表示されたら、OKを押して続行します。

→ 画面が以下のように変わり、以外の操作キーと操作スイッチがすべてロックされます。



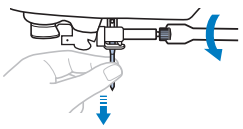
⚠ 注 意

- 針を交換するときは、必ず操作パネルの（針・押え交換キー）を押して、操作キーと操作スイッチをすべてロックしてください。が押されていない状態でスタート／ストップスイッチまたは他のスイッチを押すと、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。

4 「押えを交換する」（P.31）の3～4を参照して、押えを取り外します。

5 左手で針を持ち、ドライバーで針のとめネジを手前（時計と反対回り）に回し、針を取り外します。

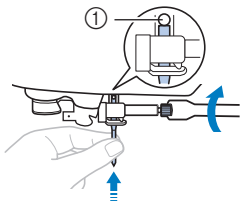
- 針のとめネジは、Ｌ型ネジ回し（またはネジ回し）でも回すことができます。



- とめネジをしめたりゆるめたりするときに、無理に力を加えないでください。ミシンの部品が破損するおそれがあります。

6 新しい針を平らな面が後ろ側になるように、針棒のストッパーに当たるまで差し込みます。
そのあと、ドライバーで針のとめネジを奥側（時計回り）に回し、針のとめネジをしめます。

① 針棒のストッパー



⚠ 注 意

- 針は必ずストッパーに当たるまで差し込み、ドライバーでとめネジを確実にしめてください。針が正しく取り付けられていないと、針折れや故障の原因となります。

7 「押えを交換する」（P.31）の 5 ～ 7 を参照して、押えを元に戻します。

8 を押して、すべてのキーとスイッチのロックを解除します。

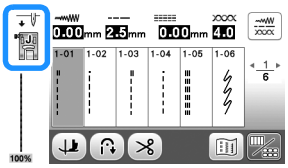
押えの交換

⚠ 注 意

- 模様に適した押えを使用してください。誤った押えを使用すると、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。各模様で使用する押えについては、「ぬい方早見表」（P.49）を参照してください。
- 押えは必ず純正品を使用してください。

お願い

- 模様を選択すると、使用する押えが液晶画面に表示されます。ぬい始める前に押えを確認してください。他の押えが取り付けられている場合は、正しい押えを取り付けてください。



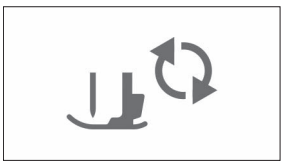
押えを交換する

1 （針上下スイッチ）を1回または2回押して、針を上げます。

2 を押します。

- 画面に「押えが自動で下がります。よろしいですか？」というメッセージが表示されたら、 を押して続行します。

→ 画面が以下のように変わり、 以外の操作キーと操作スイッチがすべてロックされます。

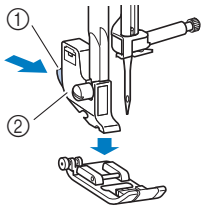


⚠ 注 意

- 押えを交換するときは、必ず操作パネルの （針・押え交換キー）を押して、操作キーと操作スイッチをすべてロックしてください。 が押されていない状態でスタート／ストップスイッチまたは他のスイッチを押すと、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。

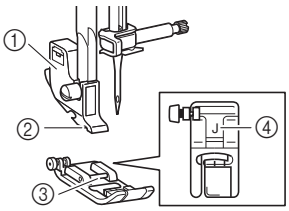
3 押えレバーを上げます。

4 押えホルダーの後ろ側の黒いボタンを押し、押えを取り外します。



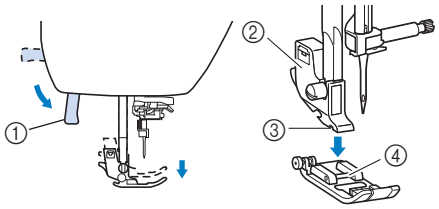
① 黒いボタン
② 押えホルダー

5 取り付ける押えのピンと押えホルダーのミゾが合う位置に押えを置きます。



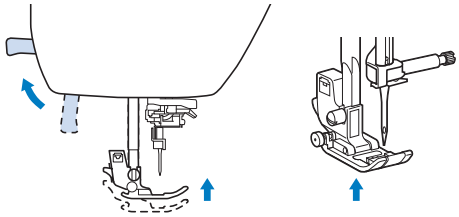
① 押えホルダー
② ミゾ
③ ピン
④ 押え記号

6 押えレバーをゆっくり下げて、押えホルダーのミゾを押えのピンにはめます。



① 押えレバー
② 押えホルダー
③ ミゾ
④ ピン
→ 押えが押えホルダーに取り付けられます。

7 押えレバーを上げて、押えが確実に取り付けられていることを確認します。



8 を押して、すべてのキーとスイッチのロックを解除します。

押えホルダーを取り外す／取り付ける

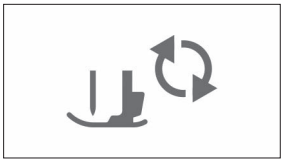
お手入れをするとき、また、オープントゥキルト押え＜O＞など、押えホルダーを使用しない押えを取り付けるときは、押えホルダーを取り外します。

■ 押えホルダーを取り外すとき

1 を押します。

- 画面に「押えが自動で下がります。よろしいですか？」というメッセージが表示されたら、OK を押して続行します。

→ 画面が以下のように変わり、以外の操作キーと操作スイッチがすべてロックされます。

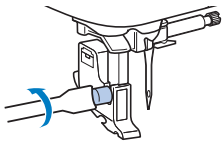


2 押えを取り外します。

- 詳細は、「押えを交換する」（P.31）を参照してください。

3 ドライバーで押えホルダーのネジをゆるめます。

ネジは奥側（時計と反対回り）に回します。



- 押えホルダーのネジは、L型ネジ回し（またはネジ回し）でも回すことができます。

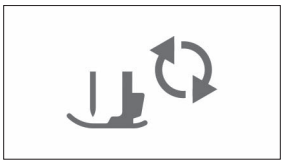
4 を押して、すべてのキーとスイッチのロックを解除します。

■ 押えホルダーを取り付けるとき

1 を押します。

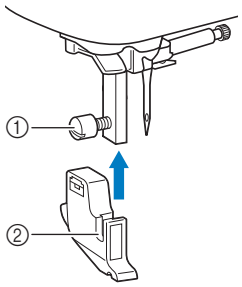
- 画面に「押えが自動で下がります。よろしいですか？」というメッセージが表示されたら、OK を押して続行します。

→ 画面が以下のように変わり、以外の操作キーと操作スイッチがすべてロックされます。



2 押えレバーを上げます。

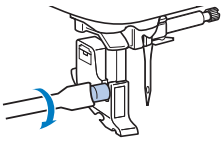
3 押えホルダーのミゾを、ネジに合わせます。



① ネジ
② 押えホルダーのミゾ

4 右手で押えホルダーを支え、左手でドライバーを使用してネジをしめます。

ネジは手前（時計回り）に回します。



⚠ 注 意

- 押えホルダーのネジは、確実にしめてください。しめ方がゆるいと、押えホルダーが落ちて針に当たり、針が曲がったり折れたりするおそれがあります。

5 を押して、すべてのキーとスイッチのロックを解除します。

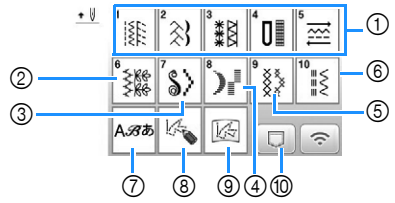
第2章　基本のぬい方

ぬってみましょう

⚠ 注 意

- ミシン操作中は、針の動きに十分注意してください。また、針やプーリーなど、動いているすべての部品に手を近づけないでください。けがの原因となります。
- 縫製中は、布地を無理に引っ張ったり押したりしないでください。けがや針折れの原因となります。
- 曲がった針は絶対に使用しないでください。折れやすく、けがの原因となります。
- 縫製中は、まち針などが針に当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

模様の種類



① 実用模様（P.49）
直線模様、たち目かがり模様、ボタン穴かがり模様、基本的な飾り模様などを選択できます。

② 飾り模様

③ 大型サテンステッチ

④ 7mm サテンステッチ

⑤ クロスステッチ

⑥ 実用飾り模様

⑦ 文字模様

⑧ マイイラスト（P.77）
オリジナルの模様を作成することができます。

⑨ ミシンまたは USB メモリーに記憶させたマイイラストの呼び出し（P.78）

⑩ ミシンまたは USB メモリーに記憶させた模様の呼び出し（P.76）

基本的なぬい方

お願い

- 最初に、実際に使用する布地のはぎれと糸を使用して、試しぬいをしてください。

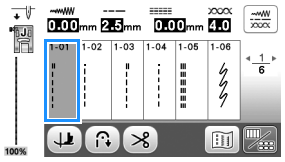
1. 布地に適した針と糸を準備します。（P.29）
必要に応じて、針を交換します。（P.30）

2. 下糸をボビンに巻いて、ミシンにセットします。（P.21）

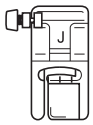
3. 上糸を通します。（P.25）

4. 操作パネルの実用 文字 模様を押し、模様の種類を選択します。

5. 模様を選択します。
◀を押すと前ページを、▶を押すと次ページを表示します。
- キーの機能については、「液晶画面の見方」（P.13）を参照してください。
- 必要に応じて、振り幅やぬい目の長さを設定してください。（P.42）



6 画面左上に表示されている押えを確認して、押えを取り付けます。
ここでは、ジグザグ押え＜Ｊ＞を取り付けます（購入時はミシンに取り付けられています）。

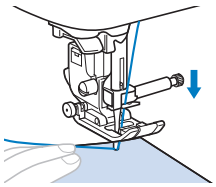


- 押えの交換については、「押えの交換」（P.31）を参照してください。

⚠ 注意

- 模様に適した押えを使用してください。誤った押えを使用すると、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあり、けがやミシンの故障の原因となります。
模様に適した押えについては、「ぬい方早見表」（P.49）を参照してください。

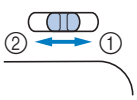
7 布地を押えの下に置き、左手で布地と糸端を押さえ、プーリーを時計と反対回りに回すか、（針上下スイッチ）を押してぬい始めの位置に針を刺します。



8 （押え上下スイッチ）で押えを下げます。

9 スピードコントロールレバーでぬう速さを調節します。（実用模様を選択時）

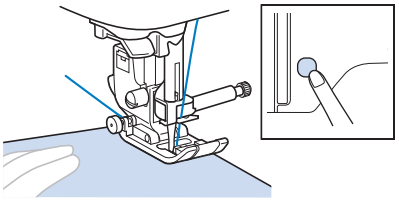
ぬっている途中でも、ぬう速さを調節することができます。



① はやく
② ゆっくり

10 スタート／ストップスイッチを押して、ぬい始めます。（フットコントローラーで操作している場合は、フットコントローラーをゆっくり踏み込みます。）

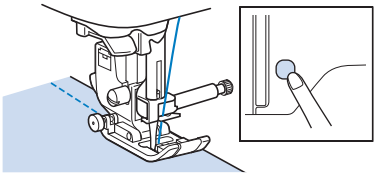
布地に軽く手を添えます。



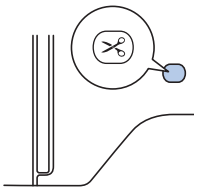
お知らせ

- フットコントローラーを接続しているときは、スタート／ストップスイッチでぬい始めることはできません。

11 ぬい終わったら、もう一度スタート／ストップスイッチを押します。（フットコントローラーで操作している場合は、フットコントローラーから足を離します。）



12 ✂（糸切りスイッチ）を押して上糸と下糸を切ります。



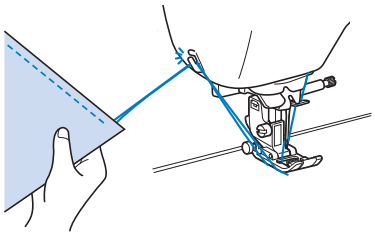
→ 針が自動的に上がります。

⚠ 注意

- 糸を切った後は、✂（糸切りスイッチ）を押さないでください。糸がからまったり、針が折れたり、ミシンが故障する原因となります。
- 押えの下に布地がないときは、✂（糸切りスイッチ）を押さないでください。糸がからまったり、ミシンが故障する原因となります。

お願い

- ナイロン糸などの特殊な糸を切る場合は、本体左側面の糸切りを使用してください。



13 針が完全に止まったら、↓（押え上下スイッチ）で押えを上げて布地を取り出します。

14 仕上がりを確認します。必要に応じて、糸調子を調節します。（P.43）

■ フットコントローラー（別売）を使用する

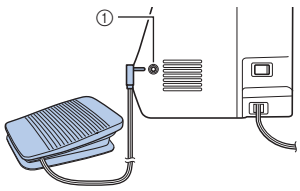
別売りのフットコントローラーを使用して、ミシンを操作することもできます。

お知らせ

- フットコントローラーを接続しているときは、スタート／ストップスイッチは使用できません。
- 下糸巻きもフットコントローラーで操作することができます。
- フットコントローラーは、刺しゅうするときには使用できません。

1 電源を切ります。

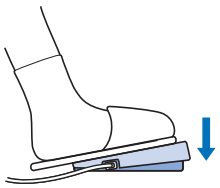
2 ミシンのフットコントローラージャックに、フットコントローラーのプラグを差し込みます。



① フットコントローラージャック

3 電源を入れます。

4 フットコントローラーをゆっくり踏み込み、ぬい始めます。



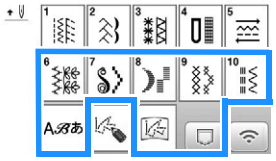
お知らせ

- スピードコントロールレバーで、フットコントローラーの最高速度を調節することができます。

5 ぬい終わりの位置まできたら、フットコントローラーから足を離します。

模様を組み合わせる

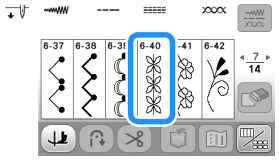
以下のカテゴリーの模様は組み合わせることができます。



例：

1 を押します。

2 以下の模様を選択します。



3 を押します。

→ 模様を選択する画面に戻ります。

4 を押します。

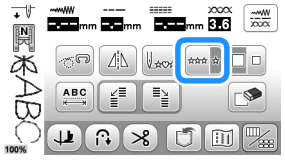
5 書体を選択します。

6 タブを押して選択画面を切り替え、文字を入力します。

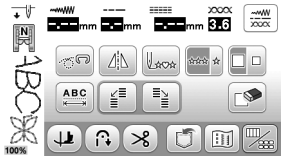
① タブ

- 文字を削除するときは、を押してください。
- スペースを入力するときは、を押してください。

7 連続ぬいをしたいときは、を押して模様編集画面を表示し、を押します。

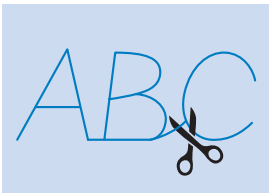


→ 組み合わせた模様が連続になります。



お知らせ

- ぬい終わったら、文字の間の余分な糸（渡り糸）を切り取ります。



返しぬい／止めぬいをする

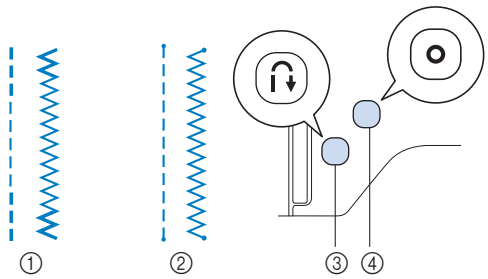
ぬい始めとぬい終わりは、糸の端がほつれないように、返しぬいまたは止めぬいをします。

止めぬいは同じ場所で 3 ～ 5 針ぬいます。返しぬいは反対方向にぬいます。

（返しぬいスイッチ）を押している間、選択した模様によって返しぬいまたは止めぬいをします。

お知らせ

- 返しぬい模様または止めぬい模様では、（返しぬいスイッチ）を押し続けると、返しぬいをします。
  それ以外の模様では、（返しぬいスイッチ）を押し続けると、止めぬいをします。
  詳細は、「ぬい方早見表」（P.49）を参照してください。
- （止めぬいスイッチ）を押し続けると、どの模様の場合でも、同じ場所で 3 ～ 5 針ぬいます。



① 返しぬい
② 止めぬい
③ （返しぬいスイッチ）
④ （止めぬいスイッチ）

お知らせ

- 文字／模様ぬいの場合に（止めぬいスイッチ）を押すと、模様の途中でスイッチが押されたときも、１模様をぬい終わったところで止めぬいをします。
- １模様がぬい終わるまでの間は、（止めぬいスイッチ）の右横にある緑の LED ライトが点灯します。止めぬいが終わると、LED ライトは消えます。

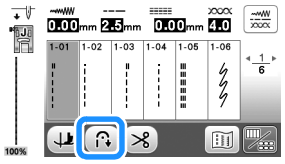
自動で返しぬい／止めぬいをする

模様を選択したときに自動返しぬい／止めぬいを設定しておくと、ぬい始めとぬい終わりに自動的に止めぬい（模様によっては返しぬい）をします。

1 模様を選択します。

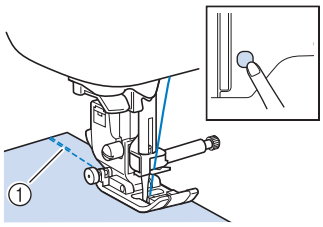
- 模様の選択については、「基本的なぬい方」（P.35）を参照してください。

2 を押して、自動返しぬい／止めぬいを設定します。



→ 表示が に変わります。

3 布地をぬい始めの位置に置き、スタート／ストップスイッチを押してぬい始めます。



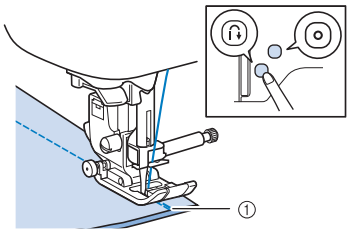
① 返しぬい（または止めぬい）

→ 自動的に返しぬい（または止めぬい）をしてぬい始めます。

お知らせ

- ぬっている途中でスタート／ストップスイッチを押すと、縫製を一時停止／再開できます。

4 ぬい終わりの位置まできたら、（返しぬいスイッチ）または（止めぬいスイッチ）を押します。



① 返しぬい（または止めぬい）

→ 自動的に返しぬい（または止めぬい）をして止まります。

それぞれのスイッチを押したときのミシンの動きは、そのとき選択している模様によって異なります。スイッチを押したときのミシンの動きについては、次の表の説明を参照してください。

	返しぬいスイッチ	止めぬいスイッチ
自動返しぬい／止めぬい＝ OFF で、返しぬい模様を選択している場合	返しぬいスイッチを押している間だけ返しぬいをします。	止めぬいスイッチを押している間 3 ～ 5 針の止めぬいをします。
自動返しぬい／止めぬい＝ OFF で、止めぬい模様を選択している場合	返しぬいスイッチを押している間だけ返しぬい（*）をします。	止めぬいスイッチを押している間 3 ～ 5 針の止めぬいをします。
自動返しぬい／止めぬい =OFF で、返しぬい模様、止めぬい模様以外の実用模様を選択している場合	返しぬいスイッチを押している間 3 ～ 5 針の止めぬいをします。	止めぬいスイッチを押している間 3 ～ 5 針の止めぬいをします。
自動返しぬい／止めぬい＝ OFF で、文字模様・飾り模様を選択している場合	返しぬいスイッチを押している間 3 ～ 5 針の止めぬいをします。	止めぬいスイッチを押すと、1 模様を完成させてから 3 ～ 5 針の止めぬいをします。
自動返しぬい／止めぬい＝ ON で、返しぬい模様を選択している場合	返しぬいスイッチを押すと、返しぬいをしてぬい終わります。（ぬい始めは自動で返しぬいをします。）	止めぬいスイッチを押すと、3 ～ 5 針の止めぬいをしてぬい終わります。（ぬい始めは自動で返しぬいをします。）
自動返しぬい／止めぬい＝ ON で、止めぬい模様を選択している場合	返しぬいスイッチを押すと、返しぬい（*）をしてぬい終わります。（ぬい始めは自動で止めぬいをします。）	止めぬいスイッチを押すと、3 ～ 5 針の止めぬいをしてぬい終わります。（ぬい始めは自動で止めぬいをします。）
自動返しぬい／止めぬい =ON で、返しぬい模様、止めぬい模様以外の実用模様を選択している場合	返しぬいスイッチを押すと、3 ～ 5 針の止めぬいをしてぬい終わります。（ぬい始めは自動で止めぬいをします。）	止めぬいスイッチを押すと、3 ～ 5 針の止めぬいをしてぬい終わります。（ぬい始めは自動で止めぬいをします。）
自動返しぬい／止めぬい＝ ON で、文字模様・飾り模様を選択している場合	返しぬいスイッチを押すと、3 ～ 5 針の止めぬいをしてぬい終わります。（ぬい始めは自動で止めぬいをします。）	止めぬいスイッチを押すと、1 模様を完成させてから 3 ～ 5 針の止めぬいをしてぬい終わります。（ぬい始めは自動で止めぬいをします。）

* 設定画面で［止めぬい優先設定］を［ON］にしている場合は、返しぬいの代わりに止めぬいを行います。

お知らせ

- 一部の模様（ボタン穴かがり、かんどめなど）では、ぬい始めに止めぬいをします。これらの模様を選択すると、自動的にこの機能が ON になります（表示が に変わります）。

自動糸切り

ぬい終わりに自動で糸を切るように設定します。

自動糸切りを設定すると、自動返しぬい／止めぬいも一緒に設定されます。

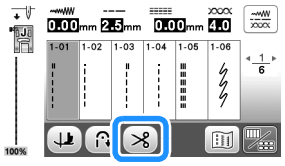
電源を切ると、自動糸切りの設定は解除されます。

1 電源を入れます。

2 模様を選択します。

- 模様の選択については、「基本的なぬい方」（P.35）を参照してください。

3 を押します。



→ 表示が と に変わり、自動糸切りと自動返しぬい／止めぬいが設定されます。

- 自動糸切りを解除するときは、 を押してください。

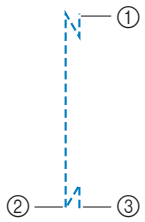
4 布地をセットし、スタート／ストップスイッチを 1 回押します。

→ 自動的に返しぬい（または止めぬい）をしてから、ぬい始めます。

5 ぬい終わりの位置まできたら、（返しぬいスイッチ）または（止めぬいスイッチ）を 1 回押します。

ボタン穴かがりやかんどめなど、止めぬいが含まれている模様を選択したときは、この操作は必要ありません。

→ 返しぬい（または止めぬい）をしてから、自動で糸を切ります。



① スタート／ストップスイッチを押した地点

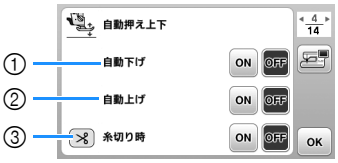
② （返しぬいスイッチ）または（止めぬいスイッチ）を押した地点

③ ここで糸が切れる。

自動押え上下機能

押えを自動的に上下させるように設定をすることで、よりスムーズにぬうことができます。

1 設定 を押して、設定を選択します。（P.16）



① ［ON］に設定されているとき、押えが上がった状態でスタート／ストップスイッチを押す（またはフットコントローラーを踏む）と、自動的に押えを下げてぬい始めます。

② ［ON］に設定されているとき、ぬい終わった後、自動的に押えを上げます。
押えは、設定画面 2 ページの［押え高さ］で設定した高さまで上がります。ピボットが設定されているときは、設定画面 3 ページの［ピボット押え高さ］で設定した高さまで上がります。

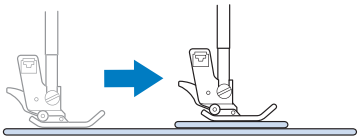
③ ［ON］に設定されているとき、押えが上がった状態で（糸切りスイッチ）を押すと、自動的に押えを下げて糸を切ります。糸切り後に押えが上がります。

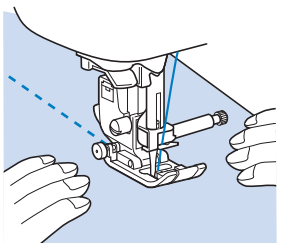
自動押え圧補正

縫製中、内蔵センサーが布地の厚さを感知し、自動的に押え圧を調節します。そのため、布地をスムーズに送ることができます。

厚地をぬうときや、キルトをぬうときに便利です。（P.16）

1 設定 を押して、［自動押え圧補正］を［ON］にします。（P.16）





ピボット

ピボット設定を選択してスタート／ストップスイッチを押すと、針が下がった（針が布に刺さった）状態でミシンは停止し、押えは自動的に設定した高さに上がります。もう一度スタート／ストップスイッチを押すと、押えは自動的に下がり、続きをぬいます。この機能は、ミシンを止めて布地を回転させるときに便利です。

⚠ 注意

- ピボット設定が選択されている場合、スタート／ストップスイッチや、フットコントローラーを押すと、（押え上下スイッチ）で押えを上げていてもミシンが作動します。事故を防ぐために、針の付近に手や物を近づけないように注意してください。

お知らせ

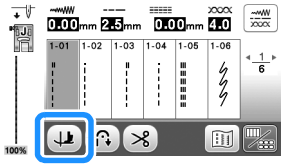
- ピボット設定が選択されている場合、使用している布地の種類に合わせて、ぬい終わりの押えの高さを変えることができます。設定を押して、3ページの［ピボット押え高さ］を表示します。－または＋を押して、高さを選びます。

お願い

- ピボット機能を使用するときは、設定画面で［針位置 - 上 / 下］を下 （↓） に設定してください。［針位置 - 上 / 下］が上に設定されていると、ピボット機能は使用できません。
- 模様を選択したときに が灰色で表示されている場合は、ピボット機能は使用できません。
- （押え上下スイッチ）で確実に押えを下げてから、スタート／ストップスイッチを押して操作を続けてください。
- ピボット設定を選択している場合は、設定画面の［押え高さ］の－と＋を設定することができません。

1. 模様を選択します。

2. を押して、ピボット設定を選択します。



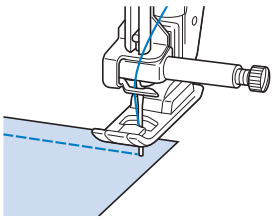
→ 表示が に変わります。

3. 布地をぬい始めの位置に合わせて、押えと針を下げ、スタート／ストップスイッチを押して、ぬい始めます。

4. スタート／ストップスイッチを押して、方向を変える位置でミシンを止めます。

→ 針が布地にささった状態でミシンが止まります。
このとき、押えは上がっています。

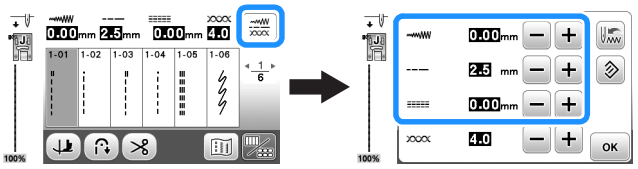
5. 布地を回転して、スタート／ストップスイッチを押します。



→ 押えが自動的に下がり、ぬい始めます。

振り幅／ぬい目の長さ／ぬい目の基線位置（L/R シフト）を調節する

模様の振り幅（ジグザグの振り幅）やぬい目の長さ、L/R シフトは、あらかじめ模様ごとの標準値に設定されています。この設定は、実用模様画面で を押すと、変更することができます。



設定を変更した後は、OK を押して実用模様画面に戻ります。

変更した設定を後で使用する場合は、 を押して設定を記憶させておくことができます。

お知らせ

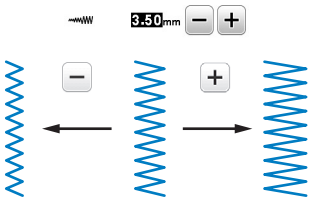
- 標準値の設定に戻すときは、 を押します。そのあとで を押すと、標準値がミシンに記憶されます。
- 直線模様または 3 重ぬいを選択した場合は、模様の幅を変更すると針の位置が移動します。振り幅を広くすると針は右に移動し、せまくすると左に移動します。（P.42）
- -.-- または -.- と表示されているときは、設定を変更することができません。

⚠ 注意

- 振り幅または L/R シフトを調節したときは、プーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。
- ぬい目がつまる場合は、ぬい目の長さをあらくしてください。ぬい目が詰まった状態でぬい続けると、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

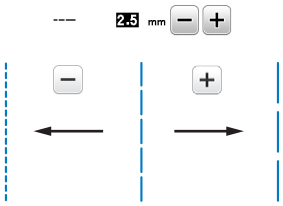
■ 振り幅を調節する

模様の振り幅（ジグザグの振り幅）を広くしたりせまくしたりすることができます。



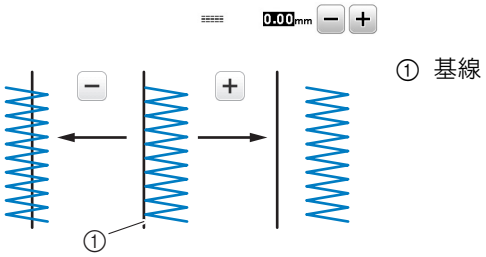
■ ぬい目の長さを調節する

ぬい目の長さを調節して、ぬい目をあらく（長く）したり細かく（短く）したりすることができます。



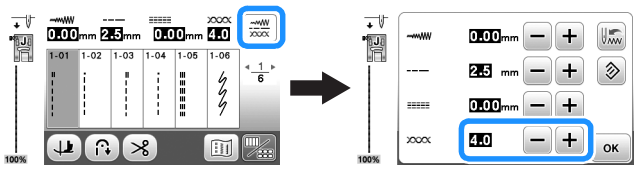
■ ぬい目の基線位置を変更する（L/R シフト設定）

ジグザグ模様のぬい目の基線位置を模様の左右に移動させることができます。



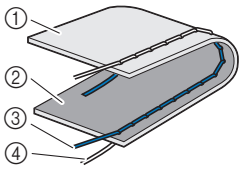
糸調子を調節する

布地や糸の種類に合わせて、糸調子を調節します。



■ 正しい糸調子

上糸と下糸が布地のほぼ中央でまじわります。布地の表に出るのは上糸だけで、布地の裏に出るのは下糸だけになります。



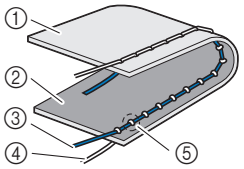
① 裏
② 表
③ 上糸
④ 下糸

■ 上糸が強いとき

布地の表に下糸が見える場合は、上糸が強すぎます。糸調子を弱くしてください。

お願い

- 下糸が正しくセットされていないと、上糸が強くなることがあります。上糸が強いときは、下糸のセットをやり直してください。「下糸をセットする」（P.23）を参照してください。



① 裏
② 表
③ 上糸
④ 下糸
⑤ 上糸が強いと上糸と下糸の重なりが表にできます。

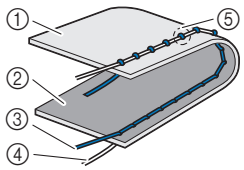
－を押すごとに、上糸が弱くなります。

■ 上糸が弱すぎるとき

布地の裏に上糸が見える場合は、上糸が弱すぎます。糸調子を強くしてください。

お願い

- 上糸が正しくセットされていないと、上糸が弱くなることがあります。上糸が弱いときは、上糸通しをやり直してください。「上糸通し」（P.25）を参照してください。



① 裏
② 表
③ 上糸
④ 下糸
⑤ 上糸が弱いと上糸と下糸の重なりが裏にできます。

＋を押すごとに、上糸が強くなります。

お願い

- 下糸セットと上糸通しが正しく行われていない場合、糸調子が合わないことがあります。糸調子を調節しても糸調子が合わないときは、下糸セットと上糸通しをやり直してください。

上手にぬうためのヒント

上手にぬうコツ

■ 試しぬいをする

作品をぬい始める前に、実際に使用する布地のはぎれと糸で試しぬいをすることをおすすめします。
布地の枚数や模様に合わせて糸調子や振り幅（ジグザグの振り幅）、ぬい目の長さを調節しながら、仕上がりを確認してください。

お願い

- 布地の厚みや接着芯などが仕上がりに影響することもありますので、実際にぬう前に試しぬいをしてください。
- 大型サテンステッチまたは7mmサテンステッチをぬうときは、ぬい縮みや目詰まりを起こすことがあるため、必ず接着芯を貼ってください。

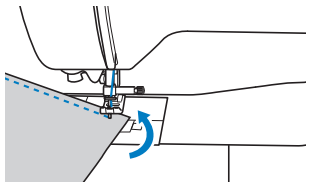
■ ぬう方向を変更する

1 角までぬったら、ミシンを停止させます。

このとき、針が下がった（布地に刺さった）状態にしておきます。針が上がっている場合は、（針上下スイッチ）を押して針を下げます。

2 押えレバーを上げ、布地を持って回転させます。

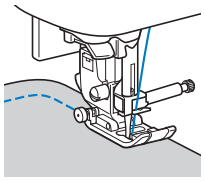
針位置を基点に回転させます。



3 押えレバーを下げ、続きをぬいます。

■ カーブをぬう

カーブの途中でミシンを停止させながら、少しずつ向きを変更してぬいます。「布端から一定の距離をぬう」（P.44）を参考にして、布端と平行になるようにぬいます。

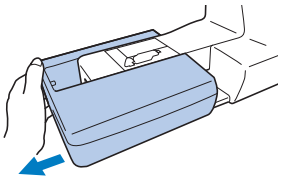


ジグザグ模様でカーブをぬうときは、ぬい目の長さを短めにするときれいに仕上がります。

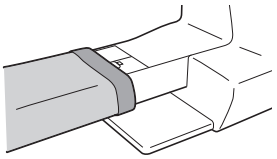
■ 筒ものをぬう

そで口やズボンのすそなどの小さな筒ものをぬうときは、補助テーブルを取り外してフリーアームにします。

1 補助テーブルを左へ引いて取り外します。



2 ぬいたい部分をアームにセットし、筒を回転させながら布地をぬっていきます。



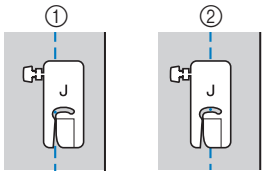
3 ぬい終わったら、補助テーブルを元に戻します。

布端から一定の距離をぬう

布端と平行に一定の幅でぬうときは、ぬいしろの端が右側になるようにぬい始め、押えの右端か針板の目盛りを基準にしてぬいます。

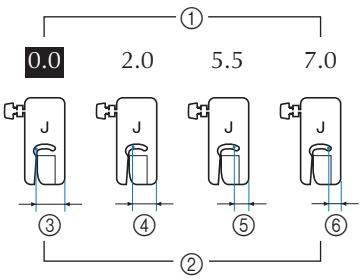
■ 針位置を変更する

直線［左］と直線［中］は、基線となる針位置が異なります。

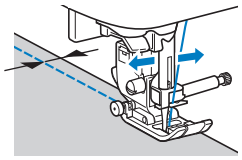


① 直線［左］
② 直線［中］

直線［左］は、ジグザグの振り幅が標準の設定（0.0mm）のときに、針位置から押えの右端まで12mm あります。振り幅を変更（0.0 ～ 7.0mm）すると、針位置を変更できます。押えの右端に布端を合わせてぬうと、一定の幅でぬうことができます。



① 振り幅
② 針位置から押え右端までの幅
③ 12.0mm
④ 10.0mm
⑤ 6.5mm
⑥ 5.0mm

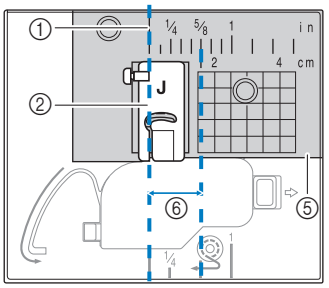


- 詳細は、「振り幅を調節する」（P.42）を参照してください。

■ 針板を基準にする

針板には、直線［左］の針位置からの長さが表示されています。針板に刻まれている目盛りと布端を合わせてぬいます。上側の目盛りは 1/8 インチ（約 3mm）単位、下側の目盛りは 5mm 単位になっています。

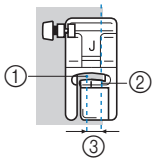
左基線の模様の場合（振り幅： 0.0mm ）



① ぬい目
② 押え
③ cm 目盛り
④ インチ目盛り
⑤ 針板
⑥ 1.6cm

■ ジグザグ押え＜J＞を基準にする

ジグザグ押え＜J＞のマーキングを使用して、布端から約 5mm の幅でぬうことができます。このとき直線模様の振り幅を 2.0mm にしてください。



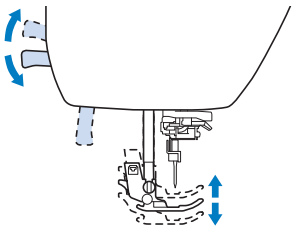
① 振り幅 2.0mm
② マーキング
③ 5mm

いろいろな素材をぬう

■ 厚い布地をぬう

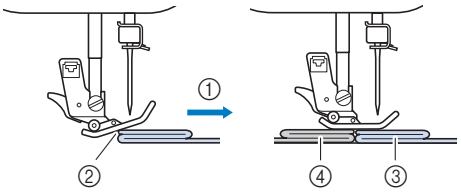
□ 押えの下に布地が入らない場合

押えレバーは 2 段階に上がります。厚地を重ねてぬう場合など布地を入れにくいときは、レバーをさらに押し上げると、押えがもう一段上がり布地を入れやすくなります。



□ 布地が送られない場合

デニムやキルトのような厚い布地をぬうとき、下図のように、押えが水平にならず、ぬい始めに布地が送られないことがあります。そのようなときは、ジグザグ押え＜J＞の左側の黒いボタンを使用すると、押えを水平に保ち、スムーズに布地を送ることができます。
押えのずれが大きいときは、厚紙または布地（実際にぬう布地と同じ厚さにしておく）を押えのかかと部分の下に置き、スムーズにぬえるようにしてください。

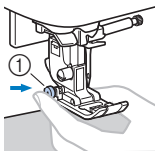


① ぬう方向
② ずれ
③ 実際にぬう布地
④ 布地または厚紙

1 押えレバーを上げます。

2 ぬい始めの位置に合わせて、布地をおきます。

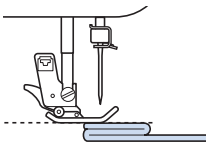
3 ジグザグ押え＜J＞を水平に保持して、左側の押え固定ピン（左側の黒いボタン）を押したまま、押えレバーを下げます。



① 押え固定ピン（黒いボタン）

4 押え固定ピン（黒いボタン）から手を離します。

→ 押えが水平に保たれ、布が送られます。



→ ぬい進めると押えは元に戻ります。

お知らせ

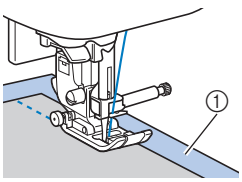
- 厚い布地をぬうときは、設定画面で［押え圧］を調整すると、ぬいやすくなることがあります。
- 設定画面で［自動押え圧補正］を［ON］にすると、センサーが布地の厚さを自動的に読み取ります。スムーズに布送りでき、きれいに仕上げることができます。

⚠ 注 意

- **6mm 以上の厚地をぬったり、無理に布地を押しこんだりすると、針が折れたり曲がったりするおそれがあります。**

■ 薄い布地をぬう

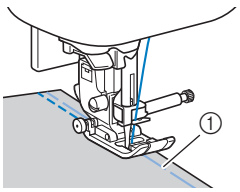
シフォンのような薄い布地をぬうと、ぬい縮みを起こしたり、布がうまく送られないことがあります。
状態の良い針を使用し、針位置をいちばん左か右に設定すると、布地が送り歯の中に巻き込まれるのを防ぎやすくなります。布地が巻き込まれたり、ぬい縮みが起きる場合、布地の下に水溶性シート（不織布タイプ）をしいて、布地と一緒にぬいます。



① 水溶性シート（不織布タイプ）

■ 伸びる布地をぬう

あらかじめしつけをして、布地を引っ張らないようにぬいます。ぬい目がつれる場合、布地の下に水溶性シート（不織布タイプ）をしいて、布地と一緒にぬいます。



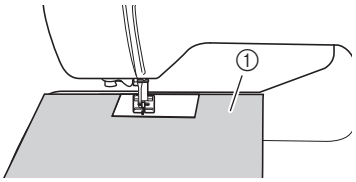
① しつけ

ニット生地をぬうときは、伸縮ぬいを使用すると、きれいにぬうことができます。また、ニット用針（先端が丸い、金色の針）を使用してください。推奨する模様は以下の模様です。

番号	1-05	1-06	1-13	1-14	2-13
模様					

■ ビニールや皮革をぬう

テーブル面にビニールコーティングや皮革などが貼りつく場合は、テーブルの上にコピー用紙やトレーシングペーパーをしいてぬうと、滑りやすくなります。
このとき、針板にかからないように紙を置くと、紙が布と一緒にぬわれません。



① コピー用紙やトレーシングペーパー

■ 面ファスナー（マジックテープ®）をぬう

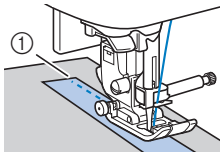
⚠ 注 意

- **面ファスナーは、のりが付いていない縫製用のものを使用してください。のりが針や内かまに付着すると、故障の原因となります。**
- **面ファスナーを細い針（9 ～ 11 番）でぬうと、針が折れたり曲がったりするおそれがあります。**

お願い

- ミシンでぬう前に、しつけをして面ファスナーと布地をぬい合わせておいてください。

プーリーを手で回して面ファスナーに針を刺し、針がスムーズに通ることを確認してから、面ファスナーの端を低速でぬいます。針が通らない場合は、厚地用の針と糸に交換してください。詳細は、「布地と糸の種類による針の使い分け」（P.29）を参照してください。



① 面ファスナーの端

ニーリフターを使用する

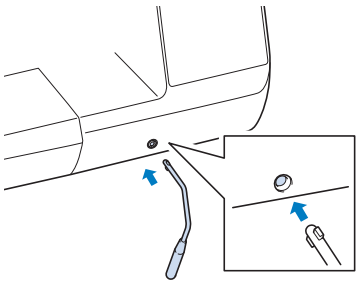
ニーリフターを使うと、ひざで押えの上げ下げができ、両手が使え便利です。

■ニーリフターを取り付ける

1 電源を切ります。

2 ニーリフターを、ミシン本体の前面にある差し込み口に差し込みます。

ニーリフターの先端の突起部を差し込み口のミゾに合わせ、ニーリフターをしっかり奥まで差し込みます。



お願い

- ニーリフターは差し込み口の奥までしっかりと差し込んでください。正しく差し込まれていないと、使用中に外れることがあります。

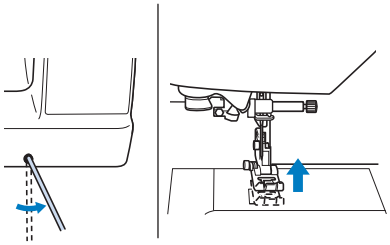
■ニーリフターを使用する

1 ミシンを止めます。

- ミシンの作動中にニーリフターを使用しないでください。

2 ニーリフターをひざで右に押します。

右に押したまま維持してください。



→ 押えが上がります。

3 ニーリフターからひざを離します。

→ 押えが下がります。

⚠ 注 意

- 縫製中は、ニーリフターにひざが触れないように注意してください。縫製中にニーリフターを押すと、針が折れたり、ミシンが故障する可能性があります。

第3章　いろいろなぬい方

ぬい方早見表

■ 実用模様

この表では、それぞれの模様について、用途、使用する押え、振り幅やぬい目の長さの設定、２本針を使用できるかどうかなどを紹介しています。

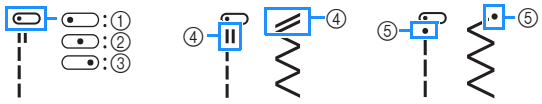
お知らせ

- 以下の模様を選択したときに、(返しぬいスイッチ) を押すと、返しぬいをします。

番号	1-01	1-02	1-03	1-04
模様				
番号	1-09	1-10	1-11	1-12
模様				
番号	1-13	1-14	1-29	1-30
模様				
番号	1-31	1-33		
模様				

それ以外の模様を選択したときに、(返しぬいスイッチ) を押すと、止めぬいをします。

- 模様のイメージ記号は以下のことを表しています。



① 左基線
② 中基線
③ 右基線
④ 返しぬい模様
⑤ 止めぬい模様

*1 フリーモーションキルトをするときは、オープントゥキルト押え＜O＞を使用します。
*2 フリーモーションキルトをするときは、フリーモーションキルト押え＜C＞（別売）またはオープントゥキルト押え＜O＞を使用します。
*3 ２本針が使用できます。２本針の場合、押えはジグザグ押え＜J＞を使用します。

模様 (押え)	番号	名前／主な用途	振り幅 [mm] 自動 手動	ぬい目の長さ [mm] 自動 手動
(J*1)	1-01	**直線（左基線）** *3 地ぬい、ギャザー、ピンタックなどに使用します。	**0.0** 0.0 - 7.0	**2.5** 0.2 - 5.0
(J*1)	1-02	**直線（左基線）** *3 地ぬい、ギャザー、ピンタックなどに使用します。	**0.0** 0.0 - 7.0	**2.5** 0.2 - 5.0
(J*1)	1-03	**直線（中基線）** *3 地ぬい、ギャザー、ピンタックなどに使用します。	**3.5** 0.0 - 7.0	**2.5** 0.2 - 5.0
(J*1)	1-04	**直線（中基線）** *3 地ぬい、ギャザー、ピンタックなどに使用します。	**3.5** 0.0 - 7.0	**2.5** 0.2 - 5.0
(J*1)	1-05	**3 重ぬい** *3 丈夫なぬい目なので、袖つけや股下をぬうときに便利です。 また、伸びる布地をぬうときやステッチをかけるときに使用します。	**0.0** 0.0 - 7.0	**2.5** 0.4 - 5.0
(J*1)	1-06	**伸縮ぬい** *3 伸縮性のあるぬい目なので、伸びる布地をぬうときに使用します。また、飾りぬいとしても使用します。	**1.0** 0.0 - 7.0	**2.5** 0.4 - 5.0
(N*1)	1-07	**飾りぬい** *3 飾りぬいに使用します。	**0.0** 0.0 - 7.0	**2.5** 0.4 - 5.0
(J*1)	1-08	**しつけぬい** しつけに使用します。 しつけ糸が布から落ちる場合は、ぬう前に下糸を引き出し、上糸とそろえて押えの下を通し、ミシンの後ろ側へ引き出しておいてください（P.28）。ぬい始めには上糸と下糸を持ち、ぬい終わったら、糸を長めに切ります。また、ぬい始めるときは、上糸と下糸を持ちながら布をととのえます。	**0.0** 0.0 - 7.0	**20** 5 - 30
(J*1)	1-09	**ジグザグ（中基線）** *3 たち目かがりやアップリケなどに使用します。	**3.5** 0.0 - 7.0	**1.4** 0.0 - 5.0
(J*1)	1-10	**ジグザグ（中基線）** *3 たち目かがりやアップリケなどに使用します。	**3.5** 0.0 - 7.0	**1.4** 0.0 - 5.0
(J*1)	1-11	**ジグザグ（右基線）** *3 右の針位置からぬい始まります。	**3.5** 2.5 - 5.0	**1.4** 0.3 - 5.0
(J*1)	1-12	**ジグザグ（左基線）** *3 左の針位置からぬい始まります。	**3.5** 2.5 - 5.0	**1.4** 0.3 - 5.0

模様(押え)	番号	名前／主な用途	振り幅 [mm] 自動 手動	ぬい目の長さ [mm] 自動 手動
(J*1)	1-13	**2点ジグザグ** *3 普通地、伸びる布地のたち目かがりやゴムひもつけ、つくろいぬいなど幅広い用途に使用します。	**5.0** 0.0 - 7.0	**1.0** 0.2 - 5.0
(J*1)	1-14	**3点ジグザグ** *3 普通地、厚地、伸びる布地のたち目かがりやゴムひもつけ、つくろいぬいなど幅広い用途に使用します。	**5.0** 0.0 - 7.0	**1.0** 0.2 - 5.0
(G)	1-15	**たち目かがり** 薄地、普通地のたち目かがりに使用します。	**3.5** 2.5 - 5.0	**2.0** 0.4 - 5.0
(G)	1-16	**たち目かがり** 厚地のたち目かがりに使用します。	**5.0** 2.5 - 5.0	**2.5** 0.4 - 5.0
(G)	1-17	**たち目かがり** 厚地のたち目かがりや飾りぬいに使用します。	**5.0** 3.5 - 5.0	**2.5** 0.4 - 5.0
(J*1)	1-18	**たち目かがり** *3 伸びる布地のたち目かがりに使用します。	**5.0** 0.0 - 7.0	**2.5** 0.4 - 5.0
(J*1)	1-19	**たち目かがり** *3 普通地、厚地のたち目かがりや飾りぬいに使用します。	**5.0** 0.0 - 7.0	**2.5** 0.4 - 5.0
(J*1)	1-20	**たち目かがり** *3 伸びる布地のたち目かがりや飾りぬいに使用します。	**4.0** 0.0 - 7.0	**4.0** 0.4 - 5.0
(J*1)	1-21	**たち目かがり** 伸びる布地のたち目かがりに使用します。	**5.0** 0.0 - 7.0	**4.0** 0.4 - 5.0
(J*1)	1-22	**たち目かがり** *3 伸びる布地のたち目かがりに使用します。	**6.0** 0.0 - 7.0	**3.0** 0.4 - 5.0
(J*1)	1-23	**たち目かがり** *3 伸びる布地のたち目かがりに使用します。	**6.0** 0.0 - 7.0	**1.8** 0.4 - 5.0
(S)	1-24	**サイドカッター** 布を切りながら直線ぬいをします。	**0.0** 0.0 - 2.5	**2.5** 0.2 - 5.0
(S)	1-25	**サイドカッター** 布を切りながらジグザグぬいをします。	**3.5** 3.5 - 5.0	**1.4** 0.0 - 5.0
(S)	1-26	**サイドカッター** 布を切りながらたち目かがりをします。	**3.5** 3.5 - 5.0	**2.0** 0.4 - 5.0
(S)	1-27	**サイドカッター** 布を切りながらたち目かがりをします。	**5.0** 3.5 - 5.0	**2.5** 0.4 - 5.0
(S)	1-28	**サイドカッター** 布を切りながらたち目かがりをします。	**5.0** 3.5 - 5.0	**2.5** 0.4 - 5.0
(J*1)	1-29	**ピーシング直線（右基線）** ピーシング用の直線です。押えの右端に布地を合わせてぬうと、ぬいしろの幅が7.0mm でぬえるように針位置が設定されています。	**5.0** 0.0 - 7.0	**1.6** 0.2 - 5.0

模様(押え)	番号	名前／主な用途	振り幅 [mm] 自動 手動	ぬい目の長さ [mm] 自動 手動
(J*2)	1-30	**ピーシング直線（中基線）** ピーシング用の直線です。	**—**	**1.6** 0.2 - 5.0
(J*1)	1-31	**ピーシング直線（左基線）** ピーシング用の直線です。押えの左端に布地を合わせてぬうと、ぬいしろの幅が7.0mm でぬえるように針位置が設定されています。	**2.0** 0.0 - 7.0	**1.6** 0.2 - 5.0
(J*1)	1-32	**手ぬい風直線** 上糸にナイロン透明糸、下糸にキルトに合った色の糸を使用すると、手ぬい風のキルト直線がぬえます。下糸が布地の表側に見えるように、糸調子を強くしてぬいます。 14 番または 16 番の針を使用してください。	**0.0** 0.0 - 7.0	**2.5** 0.4 - 5.0
(J*1)	1-33	**ジグザグ** アップリケキルトやフリーモーションキルト、サテンぬいなどに使用します。	**3.5** 0.0 - 7.0	**1.4** 0.0 - 5.0
(J*1)	1-34	**アップリケ** アップリケやバインディングをするときに使用します。	**1.5** 0.0 - 7.0	**1.2** 0.4 - 5.0
(J*1)	1-35	**キルティング模様** キルトで背景を埋めるときに使用します。	**7.0** 0.0 - 7.0	**1.6** 0.4 - 5.0
(R)	2-01	**まつりぬい** 普通地のまつりぬいに使用します。 * 振り幅設定の単位は、mm ではありません。	**00** 3← - →3	**2.0** 0.4 - 5.0
(R)	2-02	**まつりぬい** 伸びる布地のまつりぬいに使用します。 * 振り幅設定の単位は、mm ではありません。	**00** 3← - →3	**2.0** 0.4 - 5.0
(J)	2-03	**アップリケ** *3 アップリケに使用します。	**3.5** 0.0 - 7.0	**2.5** 0.4 - 5.0
(J*1)	2-04	**シェルタック** *3 シェルタックは貝殻を直線状にならべたような円弧状のひだを作るもので、ふち取りなどに用いるほか、ブラウス、ワンピースなどの胸元や袖に飾りぬいとして使用します。	**4.0** 0.0 - 7.0	**2.5** 0.2 - 5.0
(N*1)	2-05	**サテンスカラップ** *3 スカラップは半月状の丸いカーブの連続した波形の模様をいいます。ブラウスやハンカチなどのふち飾りに使用します。	**5.0** 0.0 - 7.0	**0.5** 0.1 - 5.0
(N*1)	2-06	**スカラップ** スカラップは半月状の丸いカーブの連続した波形の模様をいいます。ブラウスやハンカチなどのふち飾りに使用します。	**7.0** 0.0 - 7.0	**1.4** 0.4 - 5.0

模様(押え)	番号	名前／主な用途	振り幅[mm] 自動 手動	ぬい目の長さ[mm] 自動 手動
(J*1)	2-07	**つきあわせ** *3 パッチワークや飾りぬいに使用します。	**4.0** 0.0 - 7.0	**1.2** 0.2 - 5.0
(J*1)	2-08	**つきあわせ** *3 パッチワークや飾りぬいに使用します。	**5.0** 0.0 - 7.0	**2.5** 0.4 - 5.0
(J*1)	2-09	**つきあわせ** *3 コードなどを使った飾りぬいに使用します。	**5.0** 0.0 - 7.0	**1.2** 0.2 - 5.0
(J*1)	2-10	**スモッキング** *3 スモッキングや飾りぬいに使用します。	**5.0** 0.0 - 7.0	**1.6** 0.4 - 5.0
(J*1)	2-11	**ファゴティング** *3 ファゴティングは布地と布地の間を離して糸でかがる方法をいい、ブラウスや子供服などに使用します。また、飾りぬいとしても使用します。	**5.0** 0.0 - 7.0	**2.5** 0.4 - 5.0
(J*1)	2-12	**ファゴティング** *3 ファゴティングは布地と布地の間を離して糸でかがる方法をいい、ブラウスや子供服などに使用します。また、飾りぬいとしても使用します。	**5.0** 0.0 - 7.0	**2.5** 0.4 - 5.0
(J*1)	2-13	**ゴムひもつけ** *3 伸びる布地にゴムひもをつけるときに使用します。	**4.0** 0.0 - 7.0	**1.0** 0.2 - 5.0
(N*1)	2-14	**飾りぬい** 飾りぬいに使用します。	**4.0** 0.0 - 7.0	**3.0** 0.4 - 5.0
(J*1)	2-15	**飾りぬい** *3 飾りぬいに使用します。	**4.0** 0.0 - 7.0	**2.5** 0.4 - 5.0
(J*1)	2-16	**飾りぬい** *3 飾りぬいに使用します。	**5.5** 0.0 - 7.0	**1.6** 0.4 - 5.0
(N*1)	2-17	**飾りぬい** *3 飾りぬいやゴムひもつけに使用します。	**5.0** 0.0 - 7.0	**1.0** 0.2 - 5.0
(N*1)	2-18	**飾りぬい** *3 飾りぬいやアップリケに使用します。	**6.0** 0.0 - 7.0	**1.0** 0.2 - 5.0
(N*1)	2-19	**飾りぬい** 飾りぬいに使用します。	**7.0** 0.0 - 7.0	**1.6** 0.4 - 5.0
(J*1)	2-20	**アップリケ** *3 アップリケに使用します。	**2.5** 0.0 - 7.0	**2.5** 0.4 - 5.0
(N*1)	3-01	**飾りぬい** *3 左基線の３重ぬいで、すそ飾りなどに使用します。	**1.0** 0.0 - 7.0	**2.5** 0.4 - 5.0
(N*1)	3-02	**飾りぬい** *3 中基線の３重ぬいで、すそ飾りなどに使用します。	**3.5** 0.0 - 7.0	**2.5** 0.4 - 5.0

模様(押え)	番号	名前／主な用途	振り幅[mm] 自動 手動	ぬい目の長さ[mm] 自動 手動
(N*1)	3-03	**飾りぬい** *3 ふち飾りなどに使用します。	**6.0** 0.0 - 7.0	**3.0** 0.4 - 5.0
(N*1)	3-04	**飾りぬい** レースつけやふち飾りなどに使用します。	**3.5** 0.0 - 7.0	**2.5** 0.4 - 5.0
(N*1)	3-05	**飾りぬい** ふち飾りなどに使用します。	**3.0** 0.0 - 7.0	**3.5** 0.4 - 5.0
(N*1)	3-06	**飾りぬい** ふち飾りなどに使用します。	**6.0** 0.0 - 7.0	**3.0** 0.4 - 5.0
(N*1)	3-07	**飾りぬい** ふち飾りなどに使用します。薄地、普通地の平織りの布に適しています。	**5.0** 0.0 - 7.0	**3.5** 0.4 - 5.0
(N*1)	3-08	**飾りぬい** ふち飾りなどに使用します。薄地、普通地の平織りの布に適しています。	**5.0** 0.0 - 7.0	**3.5** 0.4 - 5.0
(N*1)	3-09	**飾りぬい** *3 ふち飾りなどに使用します。薄地、普通地の平織りの布に適しています。	**5.0** 0.0 - 7.0	**3.5** 0.4 - 5.0
(N*1)	3-10	**飾りぬい** *3 ふち飾りなどに使用します。薄地、普通地の平織りの布に適しています。	**5.0** 0.0 - 7.0	**4.0** 0.4 - 5.0
(N*1)	3-11	**飾りぬい** *3 ふち飾りなどに使用します。薄地、普通地の平織りの布に適しています。	**4.0** 0.0 - 7.0	**2.5** 0.4 - 5.0
(N*1)	3-12	**飾りぬい** *3 ふち飾りなどに使用します。薄地、普通地の平織りの布に適しています。	**5.0** 0.0 - 7.0	**2.5** 0.4 - 5.0
(N*1)	3-13	**飾りぬい** *3 ふち飾りなどに使用します。薄地、普通地の平織りの布に適しています。	**6.0** 0.0 - 7.0	**3.5** 0.4 - 5.0
(N*1)	3-14	**飾りぬい** *3 ふち飾りなどに使用します。薄地、普通地の平織りの布に適しています。	**6.0** 0.0 - 7.0	**1.6** 0.4 - 5.0
(N*1)	3-15	**飾りぬい** ふち飾りなどに使用します。薄地、普通地の平織りの布に適しています。	**6.0** 0.0 - 7.0	**3.0** 0.4 - 5.0
(N*1)	3-16	**飾りぬい** *3 ふち飾りなどに使用します。薄地、普通地の平織りの布に適しています。	**6.0** 0.0 - 7.0	**4.0** 0.4 - 5.0
(N*1)	3-17	**飾りぬい** ふち飾りなどに使用します。薄地、普通地の平織りの布に適しています。	**4.0** 0.0 - 7.0	**2.5** 0.4 - 5.0
(N*1)	3-18	**飾りぬい** *3 ふち飾りなどに使用します。薄地、普通地の平織りの布に適しています。	**5.0** 0.0 - 7.0	**2.0** 0.4 - 5.0
(N*1)	3-19	**飾りぬい** *3 つき合わせや飾りぬいに使用します。	**6.0** 0.0 - 7.0	**2.0** 0.4 - 5.0

模様(押え)	番号	名前／主な用途	振り幅[mm] 自動 手動	ぬい目の長さ[mm] 自動 手動
(N*1)	3-20	**飾りぬい** *3 ふち飾りやぬった後にリボンを通して飾りとして使用します。	**5.0** 0.0 - 7.0	**3.0** 0.4 - 5.0
(N*1)	3-21	**飾りぬい** 飾りぬいやスモッキングに使用します。	**6.0** 0.0 - 7.0	**1.6** 0.4 - 5.0
(N*1)	3-22	**飾りぬい** 飾りぬいやスモッキングに使用します。	**5.0** 0.0 - 7.0	**1.6** 0.4 - 5.0
(A)	4-01	**ボタン穴かがり** ねむり穴、横穴用。薄地から普通地のボタン穴かがりに使用します。ブラウス、シャツなどに使用します。	**5.0** 3.0 - 6.0	**0.4** 0.2 - 1.0
(A)	4-02	**ボタン穴かがり** 横穴用。ウエストベルトなど力がかかるところに使用します。	**5.0** 3.0 - 6.0	**0.4** 0.2 - 1.0
(A)	4-03	**ボタン穴かがり** 横穴用。厚地のボタン穴かがりに使用します。	**5.0** 3.0 - 6.0	**0.4** 0.2 - 1.0
(A)	4-04	**ボタン穴かがり** 両止めボタン穴かがり。麻、木綿など、ある程度腰のある素材に適しています。ホームウェアやブラウスなど手軽にぬえるものに使用します。	**5.0** 3.0 - 6.0	**0.4** 0.2 - 1.0
(A)	4-05	**ボタン穴かがり** 伸びる布地や編み地のボタン穴かがりに使用します。芯ひもを入れてぬいます。	**6.0** 3.0 - 6.0	**1.0** 0.5 - 2.0
(A)	4-06	**ボタン穴かがり** 伸びる布地のボタン穴かがりに使用します。芯ひもを入れてぬいます。	**6.0** 3.0 - 6.0	**1.5** 1.0 - 3.0
(A)	4-07	**ボタン穴かがり** 玉ぶち穴かがり（バウンドボタンホール）を作るときに使用します。	**5.0** 0.0 - 6.0	**2.0** 0.2 - 4.0
(A)	4-08	**ボタン穴かがり** はとめ穴。厚地や毛足の長い布のボタン穴かがりに使用します。ブレザー、スーツ、コートなどに使用します。	**7.0** 3.0 - 7.0	**0.5** 0.3 - 1.0
(A)	4-09	**ボタン穴かがり** はとめ穴。普通地から厚地のボタン穴かがりに使用します。 ジーンズ、ズボンなどに使用します。	**7.0** 3.0 - 7.0	**0.5** 0.3 - 1.0
(A)	4-10	**ボタン穴かがり** はとめ穴。厚地や毛足の長い布の横穴ボタン穴かがりに使用します。厚手のコートなどに使用します。	**7.0** 3.0 - 7.0	**0.5** 0.3 - 1.0
(A)	4-11	**ダーニング** 普通地のつくろいぬいに使用します。	**7.0** 2.5 - 7.0	**2.0** 0.4 - 2.5
(A)	4-12	**ダーニング** 厚地のつくろいぬいに使用します。	**7.0** 2.5 - 7.0	**2.0** 0.4 - 2.5

模様(押え)	番号	名前／主な用途	振り幅[mm] 自動 手動	ぬい目の長さ[mm] 自動 手動
(A)	4-13	**かんどめ** ぬい目がほどけやすい箇所やポケット口などのあき止まり部分の力の加わる部分を補強したい場合に用います。	**2.0** 1.0 - 3.0	**0.4** 0.3 - 1.0
(M)	4-14	**ボタンつけ** ボタンつけに使用します。	**3.5** 2.5 - 4.5	—
(N)	4-15	**アイレット** ベルトの調節用の穴をかがるときなどに使用します。普通地に使用します。	**7.0** 7.0 6.0 5.0	**7.0** 7.0 6.0 5.0
(N)	5-01	**横送り直線** でき上がった服の袖やズボンのすそにワッペンをつけるときに使用します。	—	—
(N)	5-02	**横送り直線** でき上がった服の袖やズボンのすそにワッペンをつけるときに使用します。	—	—
(N)	5-03	**横送り直線** でき上がった服の袖やズボンのすそにワッペンをつけるときに使用します。	—	—
(N)	5-04	**横送り直線** でき上がった服の袖やズボンのすそにワッペンをつけるときに使用します。	—	—
(N)	5-05	**横送りジグザグ** でき上がった服の袖やズボンのすそにワッペンをつけるときに使用します。	—	—
(N)	5-06	**横送りジグザグ** でき上がった服の袖やズボンのすそにワッペンをつけるときに使用します。	—	—
(N)	5-07	**横送りジグザグ** でき上がった服の袖やズボンのすそにワッペンをつけるときに使用します。	—	—
(N)	5-08	**横送りジグザグ** でき上がった服の袖やズボンのすそにワッペンをつけるときに使用します。	—	—

■飾り模様

押えは、模様ぬい押え＜ N ＞を使用してください。
2 本針を使用できるのは、7mm サテンステッチ の場合のみです。
2 本針の場合、押えはジグザグ押え＜ J ＞を使用します。

飾り模様						
6-01	6-02	6-03	6-04	6-05	6-06	6-07
6-08	6-09	6-10	6-11	6-12	6-13	6-14
6-15	6-16	6-17	6-18	6-19	6-20	6-21
6-22	6-23	6-24	6-25	6-26	6-27	6-28
6-29	6-30	6-31	6-32	6-33	6-34	6-35
6-36	6-37	6-38	6-39	6-40	6-41	6-42
6-43	6-44	6-45	6-46	6-47	6-48	6-49
6-50	6-51	6-52	6-53	6-54	6-55	6-56
6-57	6-58	6-59	6-60	6-61	6-62	6-63
6-64	6-65	6-66	6-67	6-68	6-69	6-70
6-71	6-72	6-73	6-74	6-75	6-76	6-77
6-78	6-79	6-80	6-81	6-82	6-83	6-84

大型サテンステッチ						
7-01	7-02	7-03	7-04	7-05	7-06	7-07
7-08	7-09	7-10	7-11	7-12	7-13	7-14
7-15	7-16	7-17	7-18			

7mm サテンステッチ						
8-01	8-02	8-03	8-04	8-05	8-06	8-07
8-08	8-09	8-10	8-11	8-12	8-13	8-14
8-15	8-16	8-17				

クロスステッチ						
9-01	9-02	9-03	9-04	9-05	9-06	9-07
9-08	9-09	9-10	9-11	9-12	9-13	9-14

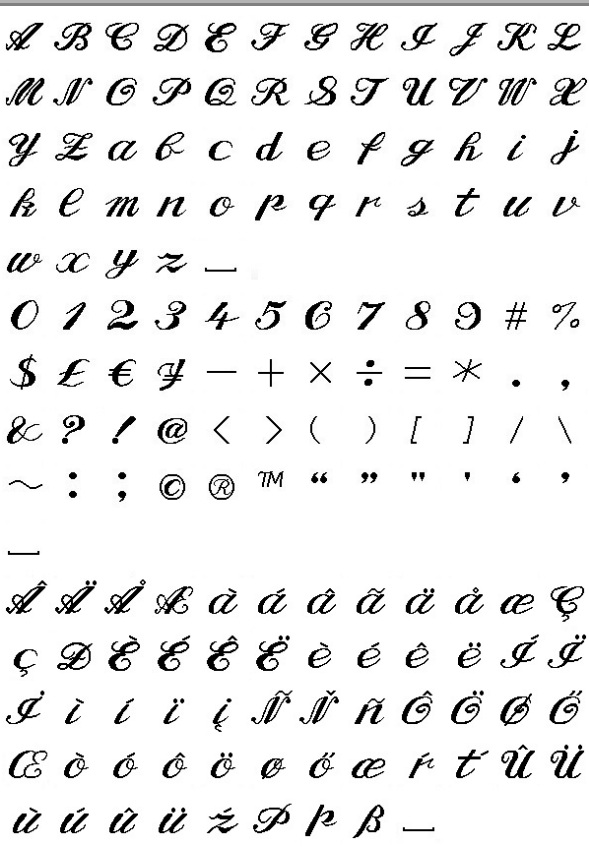
実用飾り模様						
10-01	10-02	10-03	10-04	10-05	10-06	10-07
10-08	10-09	10-10	10-11	10-12	10-13	10-14
10-15	10-16	10-17	10-18	10-19	10-20	10-21
10-22	10-23	10-24	10-25	10-26	10-27	10-28
10-29	10-30	10-31	10-32	10-33	10-34	10-35
10-36	10-37	10-38	10-39	10-40	10-41	10-42
10-43	10-44	10-45	10-46	10-47	10-48	10-49
10-50	10-51	10-52	10-53	10-54	10-55	10-56
10-57	10-58					

■ 文字模様

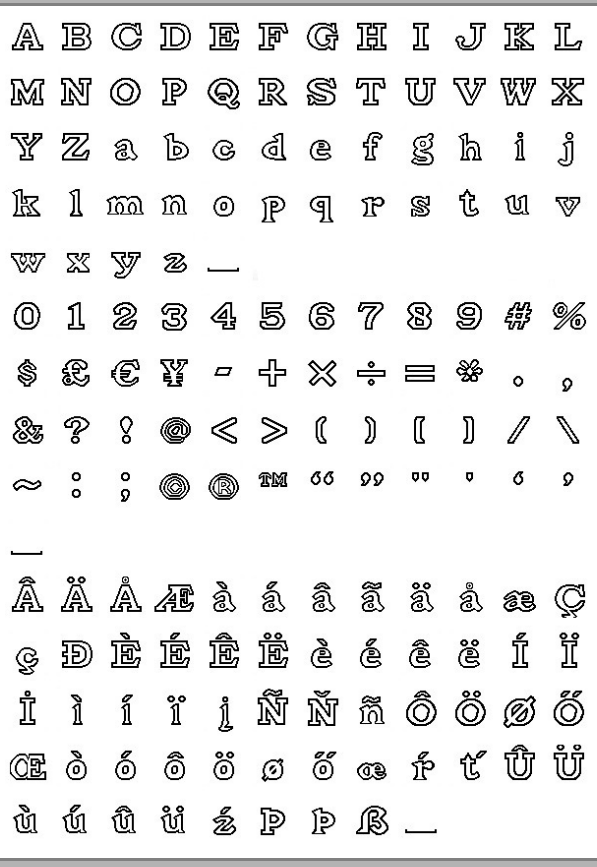
押えは、模様ぬい押え＜ N ＞を使用してください。
２本針は使用できません。

文字模様（ゴシック体）

文字模様（筆記体）



文字模様（アウトライン文字）



文字模様（キリル文字）

文字模様（ひらがな／カタカナ／数字／漢字）

あいうえおぁぃぅぇぉ
かきくけこがぎぐげご
さしすせそざじずぜぞ
たちつてとだぢづでどっ
なにぬねのはひふへほ
ばびぶべぼぱぴぷぺぽ
まみむめもやゆよゃゅょ
らりるれろわをん＿
アイウエオァィゥェォヴ
カキクケコガギグゲゴ
サシスセソザジズゼゾ
タチツテトダヂヅデドッ
ナニヌネノハヒフヘホ
バビブベボパピプペポ
マミムメモヤユヨャュョ
ラリルレロワヲン＿
０１２３４５６７８９
〇一二三四五六七八九十
＆？！（）ー＿
生年月日才保育幼稚園小中
学校組部火水木金土＿

実用ぬい

注意

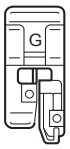
- 押えを交換する前に、必ず操作パネルの（針・押え交換キー）を押して、すべてのキーとスイッチをロックしてください。万一、スタート／ストップスイッチまたは他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。
  押えの交換については、「押えの交換」（P.31）を参照してください。

布端を始末する

裁断した布端がほつれないように、たち目かがりをします。

■ たち目かがり押え＜G＞を使用する

1 たち目かがり押え＜G＞を取り付けます。



2 模様を選択します。

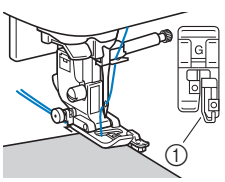
番号	1-15	1-16	1-17
模様			

- 詳細は、「ぬい方早見表」（P.49）を参照してください。

注意

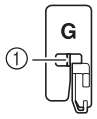
- たち目かがり押え＜G＞を使用するときは、必ずたち目かがり押え＜G＞用の模様を選んでください。間違った模様でぬうと、針が押えに当たり、針が折れたり、押えが破損したりするおそれがあります。

3 押えのガイドに布端を当て、押えレバーを下げます。



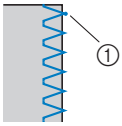
① ガイド

4 プーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認します。



① 針が当たらないように注意してください。

5 布端をガイドに当てながら、ガイドにそってぬいます。



① 針落ち位置

⚠ 注 意

- ぬい終わった後は、布地を後ろに引いてください。前方向や横方向に布地を引っ張ると、押えのピンが破損するおそれがあります。
- 押えに糸がからみついた場合は、からんだ糸を取り除いてから、押えレバーを上げて押えを取り外してください。糸がからんだまま、押えレバーを上げると、押えが破損するおそれがあります。

6 ぬい終わりの位置まできたら、スタート／ストップスイッチを押してミシンを止め、針と押えを上げて、布地を後ろに引いて取り出します。

■ ジグザグ押え＜J＞を使用する

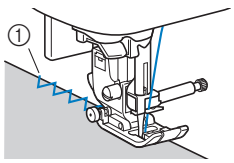
1 ジグザグ押え＜J＞を取り付けます。

2 模様を選択します。

番号	1-09	1-10	1-11	1-12
模様				
番号	1-13	1-14	1-18	1-19
模様				
番号	1-20	1-21	1-22	1-23
模様				

- 詳細は、「ぬい方早見表」（P.49）を参照してください。

3 針が布端右側に落ちるよう布端にそってぬいます。



① 針落ち位置

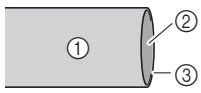
すそ上げをする

スカートやズボンのすそをまつります。

お知らせ

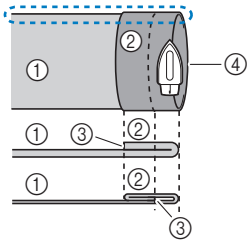
- 筒の大きさがアームに入らないほど小さいときや、筒の長さが短いときは、布地がうまく送られず、きれいに仕上がらないことがあります。

1 すそ上げをするスカートやズボンを裏返します。



① 裏
② 表
③ 布端

2 できあがり線で布を表に返し、アイロンをかけます。

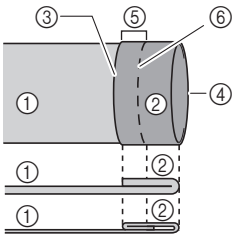


① 裏
② 表
③ 布端
④ できあがり線

＜厚い布地＞
＜普通地＞

＜ を横から見た図＞

3 布端から約 5mm のところにチャコペンで印をつけ、しつけをします。

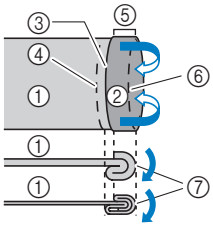


① 裏
② 表
③ 布端
④ できあがり線
⑤ 5mm
⑥ しつけ

＜厚い布地＞
＜普通地＞

＜横から見た図＞

4 しつけをしたところから、内側へ折り込みます。

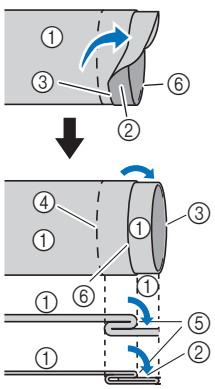


① 裏
② 表
③ 布端
④ できあがり線
⑤ 5mm
⑥ しつけ
⑦ しつけの位置

＜厚い布地＞
＜普通地＞

＜横から見た図＞

5 布端を開いて裏返します。

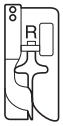


① 裏
② 表
③ 布端
④ できあがり線
⑤ しつけの位置
⑥ しつけ

＜厚い布地＞
＜普通地＞

＜横から見た図＞

6 まつりぬい押え＜R＞を取り付けます。



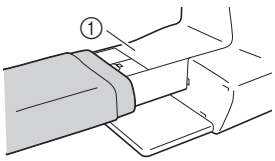
7 模様を選択します。

番号	2-01	2-02
模様		

- 詳細は、「ぬい方早見表」（P.49）を参照してください。

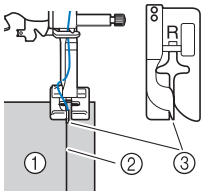
8 補助テーブルを外して、ミシンをフリーアームにします。

9 下図のように布地をアームにセットし、布地をを回転させられることを確認して、ミシンをスタートさせます。



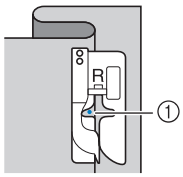
① アーム

10 押えのガイドと布地の折り山が合うように布地をセットし、押えレバーを下げます。



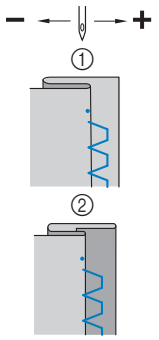
① 裏
② 折り山
③ ガイド

11 針が折り山に少しかかるよう、振り幅を調節します。(P.42)



① 針落ち位置

針落ち位置を変更するときは、針を上げてから振り幅を変更します。
＊振り幅を調整することで針の落ち位置の微調整ができます。(振り幅の設定の数値の単位は mm ではありません。)



① 厚い布地
② 普通地

お知らせ

- 左側の針落ち位置が折り山にかかっていないと、まつりぬいをすることができません。
  また、針があまり折り山のほうにかかりすぎると、折りを広げることができず布地の表側にぬい目が大きく出て、きれいに仕上がりません。

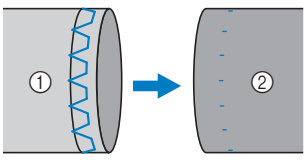
12 折り山に押えのガイドを沿わせてぬいます。

13 ぬい終わったらミシンを止め、針と押えを上げて、布地を後ろに引いて取り出します。

お願い

- ぬい終わった後は、布地を後ろに引いてください。前方向や横方向に布地を引っ張ると、押えが破損するおそれがあります。

14 しつけをほどき、布地を表に返します。

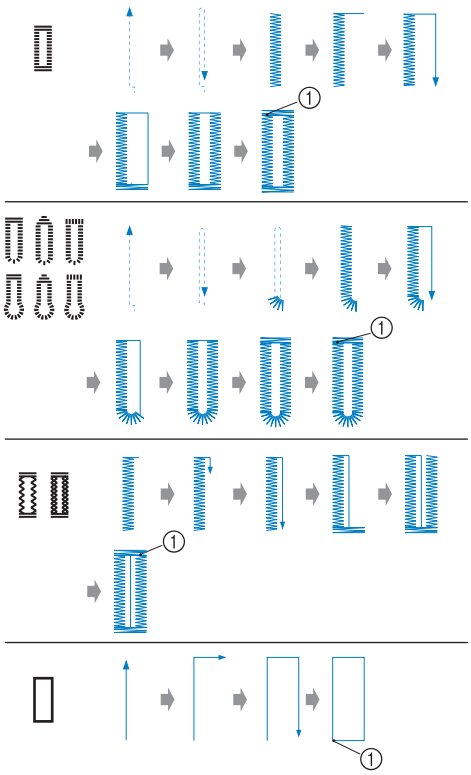


① 裏
② 表

ボタン穴かがり

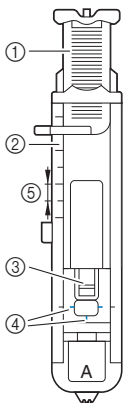
「ボタンの直径＋厚み」が 28mm までのボタン穴を作ることができます。

ボタン穴かがりは、図のように押えの手前から後ろに向かってぬいます。



① 止めぬい

ボタン穴かがりで使用するボタン穴かがり押え＜A＞の各部の名称は以下のとおりです。

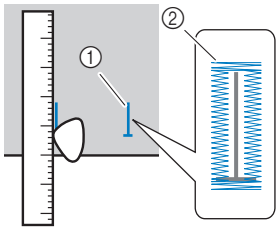


① 台皿
② 押えスケール
③ ピン
④ しるし
⑤ 5mm

お願い

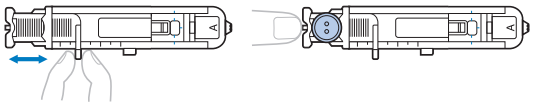
- ボタン穴かがりをする前に、ぬい目の長さと振り幅を確認するために、実際に使用する布のはぎれを使用して試しぬいをしてください。

1 布地の穴かがりをする位置に、ボタン穴の長さのしるしをつけます。



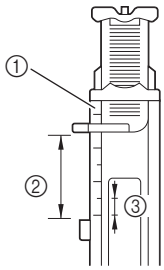
① しるし
② ボタン穴かがり（出来上がり）

2 ボタン穴かがり押え＜A＞の台皿を引き出し、ボタン穴に通すボタンをのせてはさみます。



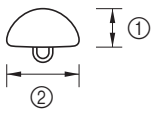
■ ボタンが台皿にのらない場合

押えスケールの目盛りを使用して、穴かがりの大きさを設定します。押えスケールは1目盛り5mmです。押えスケールの目盛りをボタンの直径＋厚みの寸法に合わせてください。



① 押えスケール
② でき上がり寸法（直径＋厚み）
③ 5mm

例：直径1.5cm 厚み1cmのボタンの場合、2.5cmの目盛りに合うように、台皿を引き出します。



① 厚み 1cm
② 直径 1.5cm

→ ボタン穴かがりの大きさが決まります。

3 ボタン穴かがり押え＜A＞を取り付けます。

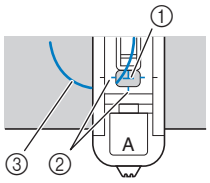
ボタン穴かがり押え＜A＞を取り付ける前に、上糸は押えの穴から押えの下に通しておきます。

4 模様を選択します。

番号	4-01	4-02	4-03	4-04	4-05
模様					
番号	4-06	4-07	4-08	4-09	4-10
模様					

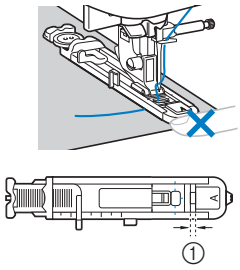
- 詳細は、「ぬい方早見表」（P.49）を参照してください。

5 ボタン穴かがり押えの赤いしるし両側と布地のしるし手前側を合わせ、押えレバーを下げます。



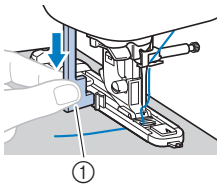
① 布地のしるし（手前）
② ボタン穴かがり押えの赤いしるし
③ 上糸

- 押えを下げるときに、押えの手前部分を押さないでください。



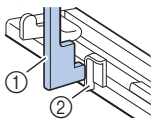
① すきまをなくさない

6 ミシン本体のボタン穴かがりレバーを一番下まで引き下げます。



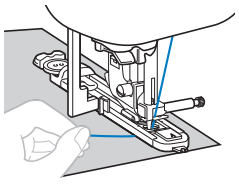
① ボタン穴かがりレバー

ボタン穴かがりレバーが、押えの突起部の後ろ側になるようにします。



① ボタン穴かがりレバー
② 突起部

7 左手で上糸を軽く持ち、ミシンをスタートさせます。



→ ぬい終わると、自動的に止めぬいをしてストップします。

8 ✂(糸きりスイッチ) を 1 回押して糸を切り、押えを上げて布地を取り出します。

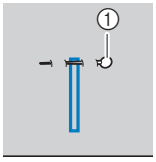
お知らせ

- ミシン左側の糸切りやはさみで糸を切る場合は、↕(針上下スイッチ) で針を上げ、押えも上げて、布を引き出してから糸を切ってください。

9 ボタン穴かがりレバーを元に戻します。

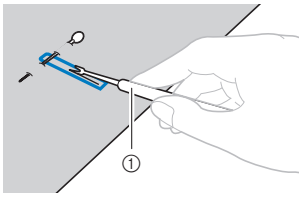
10 ぬった部分を切らないように、かんぬき止めの片方の内側にまち針を刺します。

① まち針



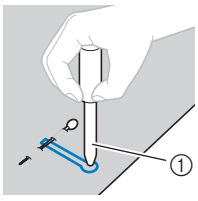
11 リッパーをまち針の方へ向けて、ボタン穴を切り開きます。

① リッパー



はとめ穴の場合は、ボタン穴の丸い側にはとめ穴パンチで穴をあけてから、リッパーで切り開きます。

① はとめ穴パンチ



- はとめ穴パンチを使用するときは、布地に穴をあける前に布地の下に厚紙や保護シートを敷いてください。

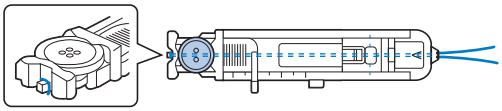
⚠ 注意

- リッパーで穴をあける方向に、手や指を置かないでください。すべったときにけがをするおそれがあります。
- リッパーは、本来の使用目的以外での使用はしないでください。

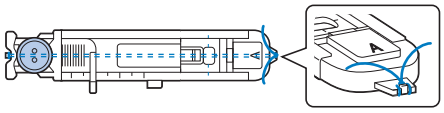
■ 伸びる布地をぬうとき

伸びる布地にボタン穴かがりをするときは、芯ひもを入れてぬいます。

1 ボタン穴かがり押え＜A＞の図の部分に芯ひもをかけます。



2 芯ひもの端を反対側のミゾにはさんで軽く結びます。



3 ボタン穴かがり押え＜A＞を取り付けます。

4 模様を選択します。

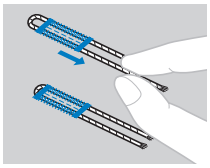
番号	4-05	4-06
模様		

- 詳細は、「ぬい方早見表」(P.49) を参照してください。

5 芯ひもの太さより大きめに振り幅を設定します。

6 押えレバーを下げ、ボタン穴かがりレバーを下げて、ミシンをスタートさせます。

7 ぬい終わったら、芯ひもを引いてたるみをなくします。



8 手ぬい針を使用して布地の裏側に芯ひもを引き出して結びます。

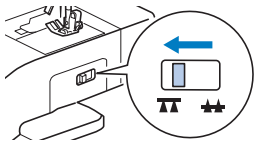
ボタンつけ

このミシンではボタンつけができます。ボタンつけができるのは、2 つ穴または 4 つ穴のボタンです。

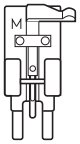
1 ぬい付けるボタンの穴の距離を測ります。

2 補助テーブルを取り外します。

3 押えレバーを上げ、ミシン本体背面下側にあるドロップレバーを背面から見て左側（⊓⊓）にします。



4 ボタン付け押え＜ M ＞を取り付けます。



5 模様を選択します。

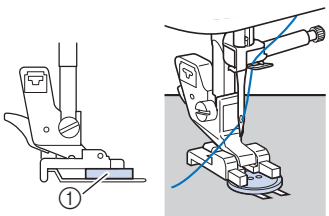
番号	4-14
模様	⊖

- 詳細は、「ぬい方早見表」（P.49）を参照してください。
- あとで糸端を結ぶので、自動糸切りは設定しないでください。

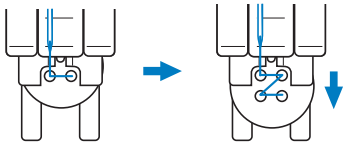
6 ジグザグの振り幅を穴の距離に合わせます。

7 ぬい付ける位置にボタンを置き、押えレバーを下げます。

① ボタン

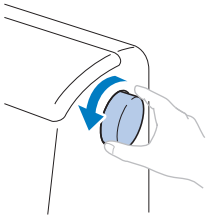


- 4 つ穴のボタンをつけるときは、手前の穴を先にぬいます。手前の穴がぬい終わったら、ボタンをずらして後ろの穴に合わせ、もう一度ぬいます。



8 プーリーを手前に回し、針がボタンに当たらずにボタン穴に交互に入るか確認します。

針がボタンに当たりそうな場合は、ボタン穴の距離を計り直し、ジグザグの振り幅を穴の距離に合わせます。

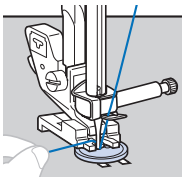


⚠ 注意

- ぬうときは、ボタンに針が当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

9 ミシンをスタートさせます。

スピードコントロールレバーを左に動かし、ぬう速さを遅くします。

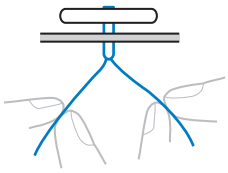


→ ぬい終わると、自動的に止めぬいをしてストップします。

- ✂（糸切りスイッチ）は使用しないでください。

10 ぬい始めの上糸と下糸を、はさみで切ります。

ぬい終わりの上糸を布地の裏に引き出し、下糸と結びます。

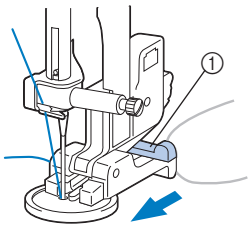


11 ボタンつけが終わったら、ドロップレバーを背面から見て右側（▲▲）にし、プーリーを回して送り歯を上げ、補助テーブルを取り付けます。

■ 足をつけるとき

ボタンの付け根に足（糸足）をつけるときは、ボタンと布地の間にすき間をあけた状態でぬい、あとで手で巻きつけます。ボタンをしっかりとつけることができます。

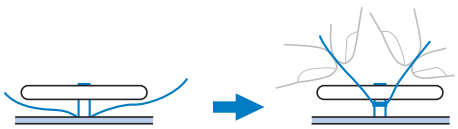
1 ボタン付け押え＜M＞にボタンを取りつけたら、足レバーを手前に引きます。



① 足レバー

2 ぬい終わったら、上糸を長めに切り、ボタンと布地の間の糸足に巻きつけて、ぬい始めの上糸と結びます。

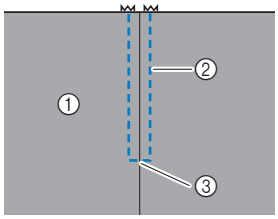
ぬい始めとぬい終わりの下糸は、布地の裏側で結びます。



3 余分な糸を切ります。

ファスナーつけ

つき合わせた布地の両方にステッチが入ります。

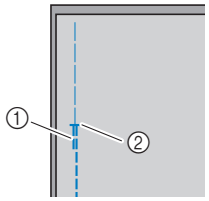


① 表
② ステッチ
③ あき止まり

1 ジグザグ押え＜J＞を取り付けます。

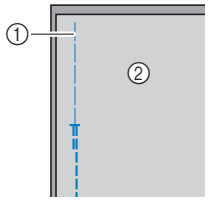
2 あき止まりから下側に地ぬいをします。

布地は中表にし、あき止まりは返しぬいをします。



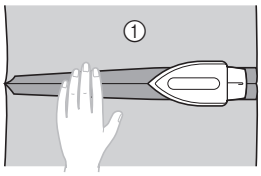
① 返しぬい
② あき止まり

3 ファスナーをつける部分のでき上がり線にしつけをします。



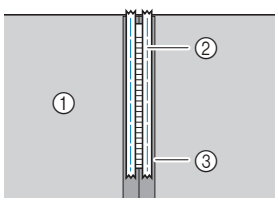
① しつけ
② 裏

4 ぬいしろを割り、裏からアイロンをかけます。



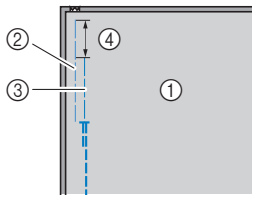
① 裏

5 ぬい目とファスナーの中央を合わせて、しつけをします。



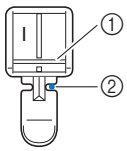
① 裏
② しつけ
③ ファスナー

6 でき上がり線のしつけを布端から5cmの位置までほどきます。



① 裏
② ファスナーのしつけ
③ でき上がり線のしつけ
④ 5cm

7 片押え＜I＞のピンの右側を押えホルダーに取り付けます。



① ピン右側
② 針落ち位置

8 模様を選択します。

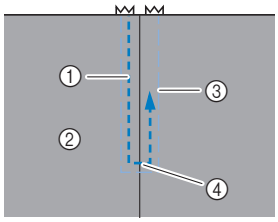
番号	1-03
模様	

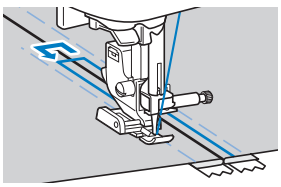
- 詳細は、「ぬい方早見表」（P.49）を参照してください。

注意

- 片押え＜I＞を使用するときは、必ず直線［中］を使用し、プーリーをゆっくりと手前に回して針が押えに当たらないことを確認してください。他の模様を使用すると、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。

9 布地の表からステッチをかけます。





① ステッチ
② 表
③ しつけ
④ あき止まり

注意

- ぬうときは、ファスナーに針が当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

お知らせ

- 押えがファスナーのスライダーに当たる場合は、針が下がった（布地に刺さった）状態にして押えを上げます。押えに当たらないようスライダーを動かしてから、押えを下げ続きをぬいます。

10 しつけをほどきます。

アップリケ／パッチワーク／キルトぬい

■ アップリケ

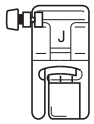
1 アップリケ布を土台用の布にしつけするか、のりづけをして固定します。

お願い

- のりでアップリケ布を土台になる布にとめる場合は、ミシンでぬう部分にのりをつけないでください。のりが針やかまに付着すると故障の原因となります。

2 ジグザグ押え＜J＞を取り付けます。

ジグザグ押え＜J＞

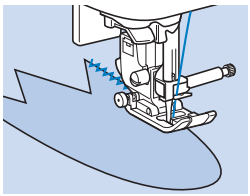


3 模様を選択します。

番号	1-33	1-34	2-03	2-20
模様				

- 詳細は、「ぬい方早見表」（P.49）を参照してください。

4 プーリーを手前に回し、アップリケ布の端から少し外側に針が刺さるようにしてぬい始めます。



急な角度をぬうときは、アップリケ布の外側に針を刺したままミシンを止め、押えレバーを上げて少しずつ方向を変更しながらぬいます。

■ パッチワーク（クレイジーキルト）

1 上側になる布地の端を折って下側の布地と重ねます。

2 ジグザグ押え＜J＞を取り付けます。

3 模様を選択します。

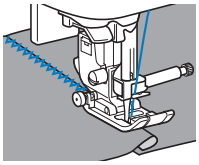
- 下記の模様は例です。お好みの模様を選択してください。

番号	1-33	2-07	2-08	2-09
模様				

- 詳細は、「ぬい方早見表」（P.49）を参照してください。

4 両方の布地に模様がまたがるようにぬいます。

必要に応じてまち針を使用してください。



⚠ 注意

- まち針をぬわないようにご注意ください。

■ ピーシング

パッチワークで布と布（ピース）をぬい合わせることを、「ピーシング」といいます。布地は、すべて 7mm のぬいしろを付けて裁断します。
ピーシング用直線は、押えの右端、または左端から 7mm のところをぬいます。

1 ピーシングする布地のぬいしろを、しつけまたはまち針で留めます。

2 ジグザグ押え＜J＞を取り付けます。

3 模様を選択します。

番号	1-29	1-31
模様		

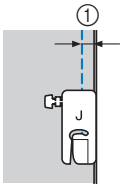
- 詳細は、「ぬい方早見表」（P.49）を参照してください。

4 押えの端に布端を合わせてぬいます。

□ ぬいしろが右側のとき

押えの右端に布端を合わせ、 の模様でぬいます。

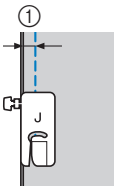
① 7mm



□ ぬいしろが左側のとき

押えの左端に布端を合わせ、 の模様でぬいます。

① 7mm



お知らせ

- ぬいしろの幅を変更する（針位置を変更する）場合は、「振り幅を調節する」（P.42）、「布端から一定の距離をぬう」（P.44）を参照してください。

■ フリーモーションキルト

フリーモーションキルトでは、フットコントローラーを取り付けて、一定の速度でぬうことをおすすめします。ぬう速度は、ミシンのスピードコントロールレバーで調節できます。

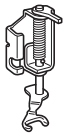
⚠ 注 意

- フリーモーションキルトでは、ぬう速度に合うように布を動かしてください。無理に速く布地を動かすと、針が折れたり、他の損傷が起きるおそれがあります。

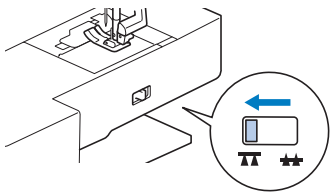
□ オープントゥキルト押え＜O＞

オープントゥキルト押え＜O＞は、ジグザグ模様や飾り模様でフリーモーションキルトをぬう場合や、厚さが均一ではない布地にフリーモーションキルトの直線ぬいをする場合に使用します。

オープントゥキルト押え＜O＞



1 補助テーブルを取り外し、ミシン本体背面下側にあるドロップレバーを背面から見て左側（▼▼）にします。



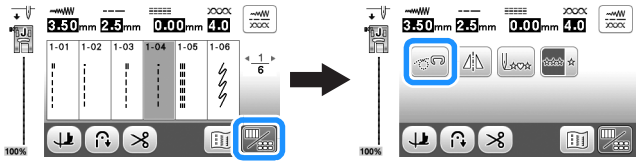
→ 送り歯が下がります。

2 模様を選択します。

番号	1-04	1-33
模様		

- 詳細は、「ぬい方早見表」（P.49）を参照してください。

3 を押して模様編集画面を表示し、を押して、ミシンをフリーモーションモードに設定します。

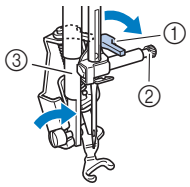


→ 表示がに変わり、押えはフリーモーションぬいに必要な高さに上がります。

4 押えホルダーを取り外します。

- 詳細は、「押えホルダーを取り外す／取り付ける」（P.32）を参照してください。

5 キルト押えのピンを針のとめネジの上に配置して、左下を押え棒に合わせて、キルト押えを取り付けます。

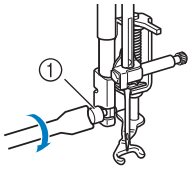


① ピン
② 針のとめネジ
③ 押え棒

お願い

- キルト押えが傾斜していないことを確認してください。

6 右手でキルト押えを持ちながら、左手で押えホルダーのネジをドライバーでしめます。

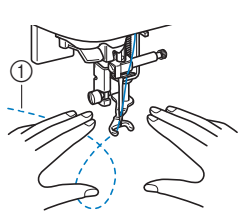


① 押えホルダーのネジ

⚠ 注 意

- ネジをしめるときは、必ず付属のドライバーを使用してください。ネジを確実にしめないと針がキルト押えに当たり、曲がったり折れたりするおそれがあります。

7 両手で布地をしっかりと張り、一定の速度で布地を送り、ぬい目の長さが均一に約 2.0 ～ 2.5mm になるようにぬいます。



8 ぬい終わったら、ドロップレバーを背面から見て右側（▲▲）にし、プーリーを回して送り歯を上げて、補助テーブルを取り付けます。

9 を押して、フリーモーションモードを解除します。

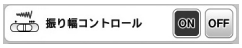
■ スピードコントロールレバーを使用したサテンぬい

サテン模様でジグザグの振り幅を変化させて、飾り模様をぬうことができます。スピードコントロールレバーの設定を変更して、振り幅の調節が手もとでできるようにします。

1 フットコントローラーを取り付けます。

2 ジグザグ押え＜J＞を取り付けます。

3 設定を押して、設定画面 1 ページの［振り幅コントロール］を［ON］にします。



→ 模様の振り幅がスピードコントロールレバーで調節できるように設定されました。

4 模様を選択します。

番号	1-33
模様	

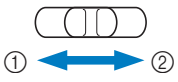
- 詳細は、「ぬい方早見表」（P.49）を参照してください。

お知らせ

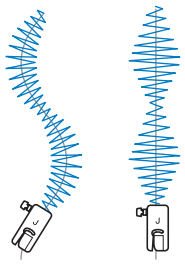
- 仕上がりは、布地の種類や糸の太さによっても変わりますが、ぬい目の長さを 0.3 ～ 0.5mm に設定すると、きれいにぬうことができます。

5 ぬいながら、スピードコントロールレバーを動かし、振り幅を調節します。

- ぬう速さは、フットコントローラーで調節します。



① 振り幅がせまくなります。
② 振り幅が広くなります。



6 ぬい終わったら、［振り幅コントロール］を［OFF］に戻します。

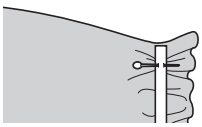
その他のぬい方

■ ゴムテープつけ

そでロやウエストなどにゴムテープをぬいつける場合、ゴムテープが縮んでいる状態ができ上がり寸法になります。必要な長さのゴムテープを用意します。

1 まち針で布地の裏側にゴムテープを留めます。

布地とゴムテープが均等になるようにまち針で数か所留めます。



2 ジグザグ押え＜J＞を取り付けます。

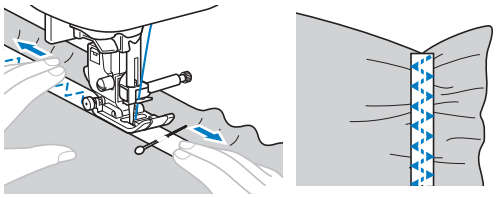
3 模様を選択します。

番号	1-13	1-14	2-13
模様			

- 詳細は、「ぬい方早見表」（P.49）を参照してください。

4 ゴムテープが布地と同じ長さになるように伸ばしながらぬいます。

左手で後ろ側の布地を引っ張り、右手で押えに一番近いまち針のところを引っ張ります。



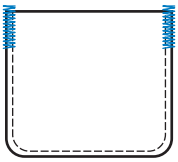
注意

- ぬうときは、まち針などが針に当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

■ かんどめ

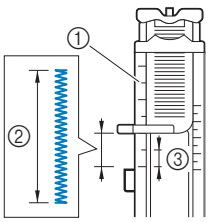
かんどめは、ポケット口やあき止まりなど、力のかかる部分を補強するときに使用します。

ここでは、ポケット口にかんどめをする場合を例に説明します。



1 かんどめの長さを決めます。

ボタン穴かがり押え＜ A ＞の押えスケールの目盛り（1 目盛り 5mm）を合わせて、長さを決めます。



① 押えスケール
② かんどめのでき上がり寸法
③ 5mm

- 最大約 28mm のかんどめができます。

2 ボタン穴かがり押え＜ A ＞を取り付けます。

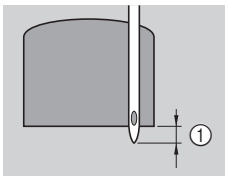
ボタン穴かがり押え＜ A ＞を取り付ける前に、上糸は押えの穴から押えの下に通しておきます。

3 模様を選択します。

番号	4-13
模様	

- 詳細は、「ぬい方早見表」（P.49）を参照してください。

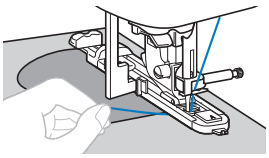
4 ポケット口が手前になる向きに布地を置き、ポケット口より 2mm 手前に針が刺さる位置で押えレバーを下げます。



① 2mm

5 ミシン本体のボタン穴かがりレバーを一番下まで引き下げます。

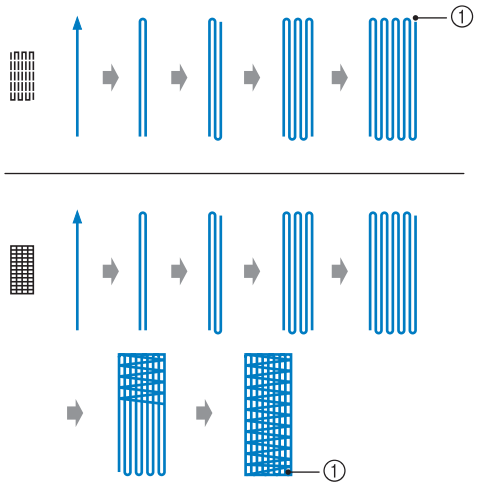
6 左手で上糸の端を軽く持ち、ミシンをスタートさせます。



7 ぬい終わったら押えレバーを上げ、布地を取りだしてから、糸を切ります。

8 ボタン穴かがりレバーを上げて、元に戻します。

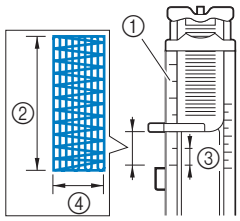
■ ダーニング（つくろいぬい）



① 止めぬい

1 つくろいぬいをする長さを決めます。

ボタン穴かがり押え＜ A ＞の押えスケールの目盛り（1 目盛り 5mm）を合わせて、長さを決めます。



① 押えスケール
② ダーニングのでき上がり寸法
③ 5mm
④ 7mm

- 最大約 28mm のダーニングができます。

→ ぬい終わると、自動的に止めぬいをしてストップします。

2 ボタン穴かがり押え＜ A ＞ を取り付けます。

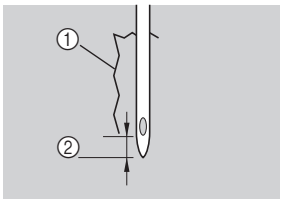
ボタン穴かがり押え＜ A ＞を取り付ける前に、上糸は押えの穴から押えの下に通しておきます。

3 模様を選択します。

番号	4-11	4-12
模様		

- 詳細は、「ぬい方早見表」（P.49）を参照してください。

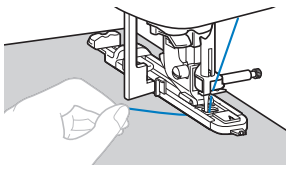
4 やぶれた箇所から 2mm 手前に針が刺さるように布地を置き、押えを下げます。



① やぶれた箇所
② 2mm

5 ミシン本体のボタン穴かがりレバーを一番下まで引き下げます。

6 左手で上糸の端を軽く持ち、ミシンをスタートさせます。



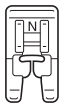
7 ぬい終わったら、押えレバーを上げ、布地を取りだしてから、糸を切ります。

8 ボタン穴かがりレバーを上げて、元に戻します。

■ はとめ穴を作る

ベルトの穴などに使用するはとめ穴（アイレット）を作ります。

1 模様ぬい押え＜ N ＞を取り付けます。



2 模様を選択します。

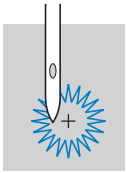
番号	4-15
模様	

- 詳細は、「ぬい方早見表」（P.49）を参照してください。

3 ジグザグの振り幅、またはぬい目の長さのいずれかを調節して、穴の大きさを選択します。

- 詳細は、「振り幅を調節する」（P.42）および「ぬい目の長さを調節する」（P.42）を参照してください。

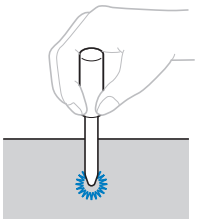
4 ぬい始めの位置に針を刺し、押えレバーを下げます。



5 ミシンをスタートさせます。

→ ぬい終わると、自動的に止めぬいをしてストップします。

6 布地を取りだした後、はとめ穴パンチで中心部に穴をあけます。



- はとめ穴パンチを使用するときは、布地に穴をあける前に布地の下に厚紙や保護シートを敷いてください。

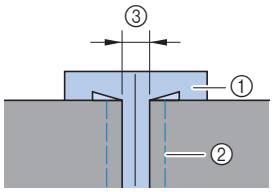
■ファゴティング

布地と布地の間を離して糸でかがるぬい方を「ファゴティング」といいます。ブラウスや子供服などに使用します。太い糸を使用するときれいに仕上がります。

1 布地をでき上がり線で折って、アイロンをかけておきます。

2 ハトロン紙などの薄い紙（または刺しゅう用接着芯）に 4mm の間隔をあけて、布地をしつけします。

ハトロン紙（または刺しゅう用接着芯）の中央に線を書いておくとぬいやすくなります。



① ハトロン紙（または刺しゅう用接着芯）
② しつけ
③ 4mm

3 ジグザグ押え＜J＞を取り付けます。

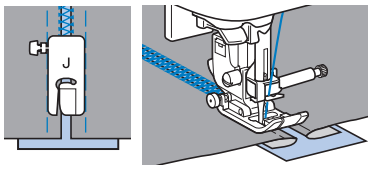
4 模様を選択します。

番号	2-11	2-12
模様		

- 詳細は、「ぬい方早見表」（P.49）を参照してください。

5 ジグザグの振り幅を 7.0mm に設定します。

6 押えの中心を布地と布地の中心に合わせてぬいます。



7 ぬい終わったら、紙を取り除きます。

■スカラップ

貝殻を並べたような連続した波形の模様を「スカラップ」といいます。ブラウスの衿やふち飾りなどに使用します。

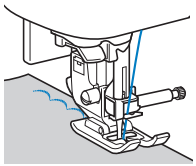
1 模様ぬい押え＜N＞を取り付けます。

2 模様を選択します。

番号	2-05
模様	

- 詳細は、「ぬい方早見表」（P.49）を参照してください。

3 模様が布端にかからないように、布端から少し離してぬいます。



4 ぬい目にそって布端を切ります。

- ぬい目を切らないように注意してください。

■スモッキング

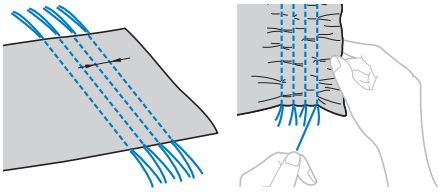
ギャザーの上に飾りぬいまたは刺しゅうをすることを「スモッキング」といいます。ブラウスの胸もとやそで口の飾りなどに使用します。
布地に模様を施すと同時に伸縮性もつけられる、飾りと実用を兼ねたぬい方です。

1 ジグザグ押え＜J＞を取り付けます。

2 直線を選択し、ぬい目の長さを 4.0mm、上糸調子を弱めに設定します。

3 1cm の間隔をあけて、平行に数本ぬい、下糸を引いてギャザーをよせます。

アイロンでギャザーを整えておきます。

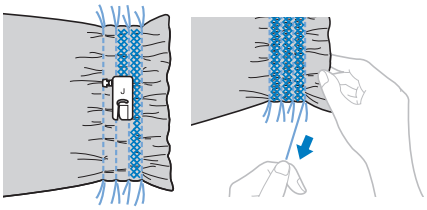


4 模様を選択します。

番号	2-10	2-11	2-12
模様			

- 詳細は、「ぬい方早見表」（P.49）を参照してください。

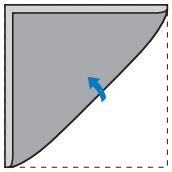
5 直線ぬいの間をぬい、直線ぬいの糸を抜き取ります。



■ シェルタック

貝殻を並べたような連続したひだを作ることを「シェルタック」といいます。ふちどりや、ブラウスの胸もと、そで口の飾りなどに使用します。薄い布地を使用します。

1 布地をバイアスに折ります。



2 ジグザグ押え＜J＞を取り付けます。

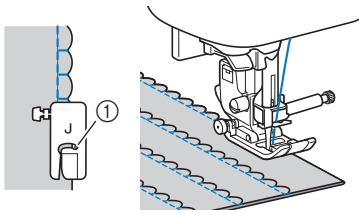
3 模様を選択し、糸調子を強めにします。

番号	2-04
模様	

- 詳細は、「ぬい方早見表」（P.49）を参照してください。

4 針が布端から少し外に落ちるようにぬいます。

① 針落ち位置



5 ぬい終わったら、布地を取りだします。布地を開き、折り山を片側に倒してアイロンをかけます。

■ つき合わせ

つき合わせたぬいしろ部分の上から飾り模様をぬいます。クレイジーキルトなどに使用します。

1 ジグザグ押え＜J＞を取り付けます。

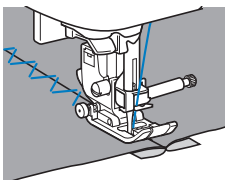
2 直線ぬいを選択し、布地を中表にしてぬい合わせ、ぬいしろを開きます。

3 模様を選択します。

番号	2-07	2-08	2-09
模様			

- 詳細は、「ぬい方早見表」（P.49）を参照してください。

4 布地を表に返し、押えの中心と布地と布地の中心を合わせてぬいます。



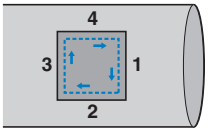
■ 横送り（直線・ジグザグ）

袖やズボンなどの筒状の布地にワッペンなどをつける場合などに使います。

番号	5-01	5-02	5-03	5-04
模様				
番号	5-05	5-06	5-07	5-08
模様				

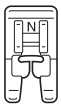
- 詳細は、「ぬい方早見表」（P.49）を参照してください。

筒状の布地をフリーアームに通し、図のようにぬいます。



1 補助テーブルを外してフリーアームにします。

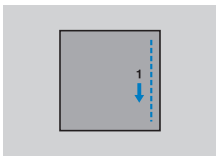
2 模様ぬい押え＜N＞を取り付けます。



3 模様 を選択します。

4 ぬい始めの位置に針をさし、ミシンをスタートさせます。

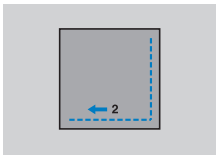
右上の角に針をさします。



→ 布地は通常どおり、奥へ送られます。

5 角までぬったら、ミシンを止め、模様 を選択します。

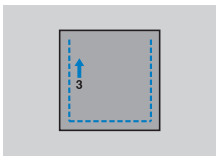
6 ミシンをスタートさせます。



→ 布地は右へ送られます。

7 角までぬったら、ミシンを止め、模様 を選択します。

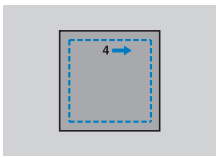
8 ミシンをスタートさせます。



→ 布地は手前に送られます。

9 角までぬったら、ミシンを止め、模様 を選択します。

10 ミシンをスタートさせます。



→ 布地は左へ送られます。

11 角までぬったら、ミシンを止め、ふたたび模様 を選択します。

12 ぬい始めの位置で3～5針ぬってから、ミシンを止めます。

お知らせ

- 布地が送られる方向は、選択する模様によって変わります。布地が曲がらないように手で軽く押さえながらぬってください。

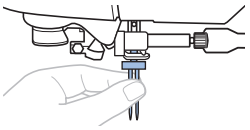
■ 2本針を使用する

2本針を使用すると、2色の上糸で同じ模様をぬうことができます。上糸は同質で同じ太さのものを用意します。

注意

- 2本針は、必ずブラザー専用2本針を使用してください。
- 糸通し装置を使用して2本針に上糸を通すことはできません。無理に使用すると故障の原因となります。

1 を押して、2本針を取り付けます。

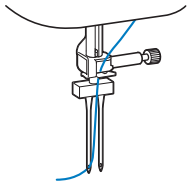


- 詳細は、「針の交換」（P.30）を参照してください。

2 「上糸通し」（P.25）の 1 から 9 を参照し、1本目の上糸を針棒糸かけに通します。

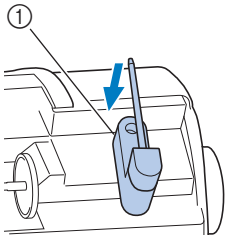
3 1本目の上糸を手で左側の針に通します。

針穴の手前から後ろへ糸を通します。



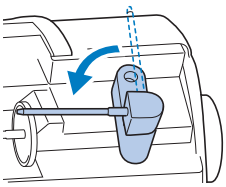
4 補助糸たて棒を下糸巻き軸に差し込みます。

下糸巻き軸に対して垂直になるように差し込みます。



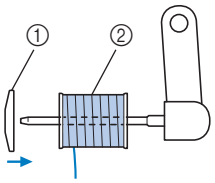
① 下糸巻き軸

5 糸たて棒の先を左側に向けます。



6 2本目の上糸の糸こまと糸こま押えを補助糸たて棒に差し込みます。

糸が正面下から出るように差し込みます。

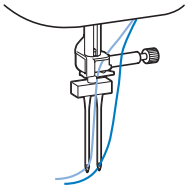


① 糸こま押え
② 糸こま

7 1本目の上糸と同様に、2本目の上糸をミシンに通します。

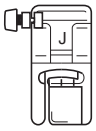
8 針棒糸かけにはかけずに、2本目の上糸を手で右側の針に通します。

針穴の手前から後ろへ糸を通します。



9 ジグザグ押え＜J＞を取り付けます。

- 押えの交換については、「押えを交換する」（P.31）を参照してください。



⚠ 注意

- 2本針を使用するときは、必ずジグザグ押え＜J＞を使用してください。ぬい目がつまるようなら、＜N＞押えを使用するか、接着芯をつけてぬってください。

10 を押して、すべてのキーとスイッチのロックを解除します。

11 設定を押して、設定画面1ページの「2本針」を「ON」に設定します。

⚠ 注意

- 2本針を使用するときは、必ず2本針の設定をしてください。設定せずに2本針を使用すると、針折れや故障の原因となります。

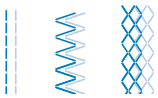
12 模様を選択します。

- 2本針を使用できる模様については、「ぬい方早見表」（P.49）を参照してください。7mmサテンステッチをぬうときにも、2本針を使用することができます。その場合は、ジグザグ押え＜J＞を使用ください。

⚠ 注意

- 2本針を使用するときは、必ず2本針が使用できる模様を選択してください。2本針が使用できない模様を選択すると、針折れや故障の原因となります。

13 ミシンをスタートさせます。



⚠ 注意

- 布地に2本針が刺さったまま布地を回転させると、針折れや故障の原因となります。

■ ヘアルーム

ウィングニードルを使用し、針穴を大きくあけてレース風の飾り模様をぬいます。すその飾りやテーブルクロスなどに使用します。薄地または普通地で、張りのある平織りの布地を用意します。

1 ウィングニードル（130/705H 100/16）を取り付けます。

- この特殊な針はミシンに付属されていません。ご購入の際は、お買い上げの販売店にご相談ください。
- 針の取り付け方の詳細は、「針の交換」（P.30）を参照してください。
- ウィングニードルを取り付けたときは、糸通し装置は使用できません。糸通し装置を使用すると、故障の原因となります。針穴の手前から向こう側に手で糸を通してください。

2 模様ぬい押え＜N＞を取り付けます。

3 模様を選択します。

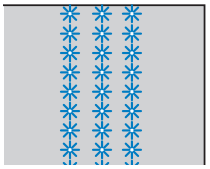
番号	3-04	3-06	3-9	3-10
模様				
番号	3-12	3-18	3-20	3-21
模様				
番号	3-22			
模様				

- 詳細は、「ぬい方早見表」（P.49）を参照してください。

⚠ 注意

- ウィングニードルを使用するときは、ジグザグの振り幅は、6.0mm 以下に設定してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。
- ジグザグの振り幅を調節したときは、プーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

4 ミシンをスタートさせます。



ステップ模様を作る

模様の位置がステップ状になった模様を、ステップ模様といいます。

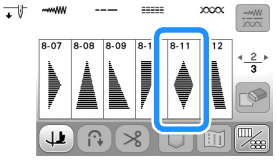
を使って、ステップ模様を作ることができます。

これらのキーで、模様の幅の半分の長さ分、右や左に移動させます。

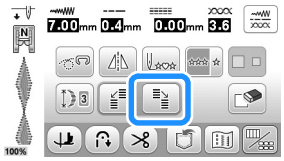
□ 例：

1 を押します。

2 模様を選択します。



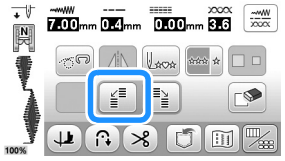
3 を押して模様編集画面を表示し、 を押します。



→ 次に選ぶ模様が、右へ移動します。

4 を押して元の画面に戻ってから、もう一度同じ模様を選択します。

5 を押して模様編集画面を表示し、を押します。



→ 次に選ぶ模様が、左へ移動します。

6 を押します。

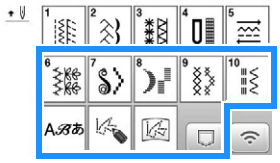
→ 組み合わせた模様が連続ぬいになります。

模様の調整をする

布地の種類、厚さ、接着芯の種類、ぬう速さなどによっては、模様がくずれる場合があります。模様がくずれた場合は、実際にぬうときと同じ条件で試しぬいをし、次のように調整してください。以下で説明する模様の調整を行っても模様がくずれる場合は、個々の模様で調整を行ってください。

お知らせ

- この調整は (1-35 キルティング模様) と (4-15 アイレット模様)、以下のカテゴリの模様に対して有効です。



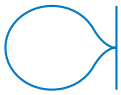
1 を押して、(6-80) を選択します。

2 模様ぬい押え＜ N ＞を取り付け、模様をぬいます。

お願い

- 必ず、模様ぬい押え＜ N ＞を使用してください。他の押えでは、模様の調整が正しくできないことがあります。

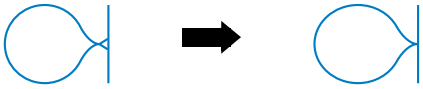
3 ぬい上がりを次の正しい模様と比較します。



4 設定 を押し、設定画面 1 ページの［模様調整たて］または［模様調整よこ］で模様を調整します。

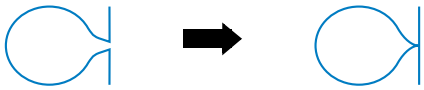
□ 模様がつまっているとき：
［ 模様調整たて ］の + を押します。

→ このキーを押すごとに表示値が大きくなり、模様が伸びます。



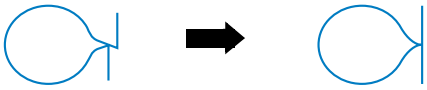
☐ 模様にすきまがあるとき：
[模様調整たて] の − を押します。

→ このキーを押すごとに表示値が小さくなり、模様がつまります。



☐ 模様が左にずれているとき：
[模様調整よこ] の + を押します。

→ このキーを押すごとに表示値が大きくなり、模様が右にずれます。



☐ 模様が右にずれているとき：
[模様調整よこ] の − を押します。

→ このキーを押すごとに表示値が小さくなり、模様が左にずれます。

5 もう一度ぬいます。

- 模様がくずれている場合はもう一度調整します。正しい模様がぬえるようになるまで調整してください。

6 OK を押して、元の画面に戻ります。

模様の記憶

■ データに関する注意

☐ 使用可能なデータの種類

文字・飾りぬいモードでは、拡張子が「.pmv」「.pmx」「.pmu」のファイルを読み込むことができます。
「.pmu」「.pmx」ファイルは読み込むことはできますが、このミシンで記憶し直したときは「.pmv」ファイルとして記憶されます。
このミシン、または「.pmv」、「.pmx」、「.pmu」に対応したミシンで作成された模様以外のデータを扱うと、ミシンが誤作動するおそれがあります。

☐ USB メモリー

市販の USB メモリーをご使用ください。一部の USB メモリーは、このミシンで使用できない場合があります。詳しくは、ブラザーのサポートサイト（http://s.brother/cphak/）で掲載される情報を参照してください。

☐ パソコンでデータを保存するときの注意

ファイルおよびフォルダーの名前には、アルファベット 26 文字（A ～ Z、a ～ z）、0 ～ 9 の数字、「-」もしくは「_」を使用してください。半角文字を使用してください。

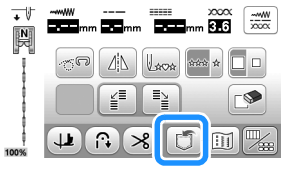
模様を記憶させる

組み合わせた模様をミシンもしくは USB メモリーに記憶させることができます。

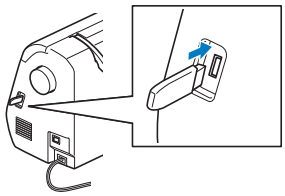
お願い

- [記憶中…] のメッセージが表示されているときは、電源スイッチを切らないでください。記憶されている模様データが消えるおそれがあります。

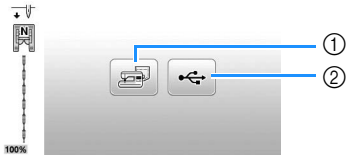
1 を押します。



2 USB メモリーに模様を記憶する場合は、ミシンの USB ポートコネクタに USB メモリーを差し込みます。



3 記憶先を押して、模様を記憶させます。



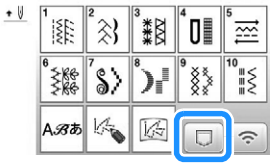
① ミシンに記憶します。
② USB メモリーに記憶します。
模様は「bPocket」フォルダーに記憶されます。

模様を呼び出す

ミシンもしくは USB メモリーに記憶させた模様を呼び出します。

1 USB メモリーから模様を呼び出す場合は、ミシンの USB ポートコネクタに USB メモリーを差し込みます。

2 を押します。

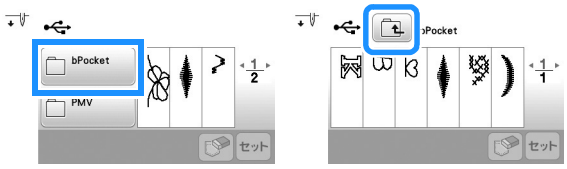


3 呼び出し先を押します。

① ミシンから呼び出します。
② USB メモリーから呼び出します。

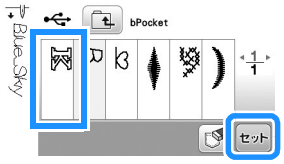
お知らせ

- 呼び出したい模様が USB メモリー内のフォルダーに格納されている場合は、そのフォルダーのキーを押します。1 つ前の画面に戻るには を押してください。



- ミシンでフォルダーを作成することはできません。

4 模様を選択して、セットを押します。



お知らせ

- を押すと、模様は完全に消去され、復元できません。

マイイラスト機能

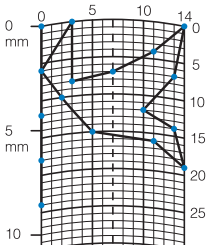
■イラストデザイン

マイイラスト機能を使用して、オリジナルの模様を登録できます。マイイラスト機能で作成したデザインと他の内蔵模様を組み合わせたデザインをぬうこともできます。(P.35)

お知らせ

- マイイラスト機能を使用して作成できる模様の大きさは、最大 7mm（幅）×37mm（長さ）です。

1 マイイラスト用紙に模様のデザインを描きます。目盛りと交差するポイントを直線で結びます。

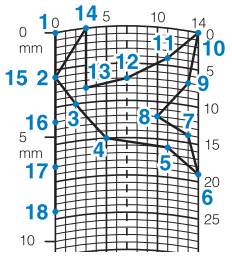


お知らせ

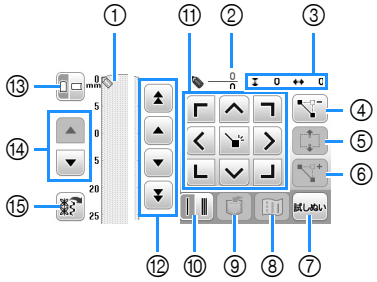
- ぬうときに途切れないような、簡単なデザインにしてください。模様を閉じるように線を交差させると、よりきれいに仕上がります。

繰り返して、つなげるデザインの場合、線の始めと終わりの高さが同じになるように描きます。

2 各ポイントの X 座標と Y 座標を決めます。



■マイイラスト機能画面



① ここに作成中の模様が表示されます。

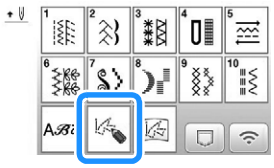
② 模様の総ポイント数の上に、現在セットされているポイントの数を表示します。

③ の座標を表示します。

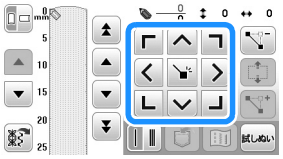
番号	画面表示 名称	はたらき	参照ページ
④	ポイント削除キー	選択したポイントを削除することができます。	−
⑤	ブロック移動キー	ポイントをグループにまとめて、いっしょに移動することができます。	78
⑥	ポイント挿入キー	模様のデザインに新しいポイントを挿入することができます。	78
⑦	試しぬいキー	模様の試しぬいができます。	−
⑧	イメージキー	模様のイメージを表示することができます。	−
⑨	記憶キー	作成中の模様を記憶することができます。	78
⑩	1 針ぬい／3 重ぬいキー	2 つのポイントの間で 1 針ぬいをするか、3 重ぬいをするかを選択します。	78
⑪	矢印キーとセットキー	矢印キーでを移動し、中央のセットキーでその場所にポイントをセットします。	78
⑫	ポイント移動キー	を模様の上でポイントからポイントに移動したり、最初に入力されたポイントや最後に入力されたポイントに移動することができます。	78
⑬	グリッド方向キー	マイイラスト用紙の方向を変更することができます。	−
⑭	ページスクロールキー	マイイラスト用紙を上下にスクロールすることができます。	−
⑮	サンプル模様呼び出しキー	サンプル模様を呼び出して編集することができます。	−

■ ポイントを入力する

1 を押します。



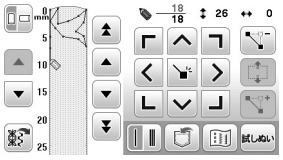
2 を押して、をマイイラスト用紙の最初のポイントの座標に移動させます。
を押して、が示すポイントを追加します。



3 最初の 2 つのポイント間で、1 針ぬいをするか、3 重ぬいをするかを選択します。

- 3 重ぬいをするときは、1 針ぬい／3 重ぬいキーを押して、の状態にします。

4 マイイラスト用紙にデザインしたとおりになるまで、これまでの手順を繰り返します。



5 模様データの入力が終わったら、を押して模様を記憶させます。

■ ポイントを移動させる

1 または を押して、を移動させたいポイントに合わせます。

2 を押して、ポイントを移動させます。

3 を押して、位置を決定します。

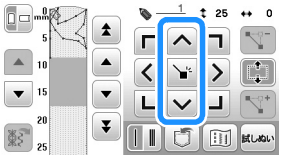
■ イラストの一部または全部を移動させる

1 または を押して、を移動させたいイラスト部分の最初のポイントに合わせます。

2 を押します。

→ 選択したポイントと、そのあとで入力したすべてのポイントが選択されます。

3 または を押して、選択されたポイントすべてを移動させて、を押します。



→ 選択したイラストの部分が移動します。

■ 新しいポイントを挿入する

1 または を押して、新しいポイントを追加したい場所にを移動させます。

2 を押して、新しいポイントを挿入します。

3 を押して、ポイントを移動させます。

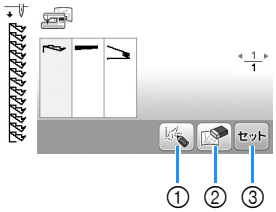
4 を押して、ポイントを挿入します。

■ 記憶させた模様を呼び出す

1 を押して、呼び出したい模様が記憶されている場所を選択します。

2 模様を選択します。

3 セットを押して、模様を呼び出します。

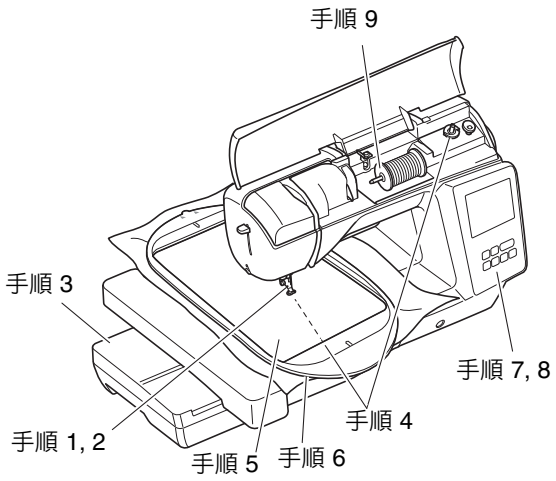


① 模様を編集します。
② 模様を削除します。
③ 模様を呼び出します。

第4章 刺しゅう

刺しゅうの準備

刺しゅうの手順は次のとおりです。



手順	目的	操作	参照ページ
1	押えの取り付け	刺しゅう押え＜U＞を取り付けます。	81
2	針の確認	刺しゅう用の針を使用します。	30
3	刺しゅう機の取り付け	刺しゅう機を取り付けます。	82
4	下糸のセット	刺しゅう用下糸を巻いて下糸をセットします。	21
5	布地の準備	接着芯を貼った布地を刺しゅう枠に張ります。	84
6	刺しゅう枠の取り付け	刺しゅう枠を刺しゅう機にセットします。	86
7	模様の選択	刺しゅう模様を選択します。	87
8	レイアウトの確認	刺しゅうの大きさと位置を確認します。	90
9	上糸のセット	模様に合わせて上糸をセットします。	90

刺しゅう押えを取り付ける

⚠ 注 意

- 刺しゅうをするときは、刺しゅう押えを使用してください。誤った押えを使用すると、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあり、けがの原因となります。

1 (針上下スイッチ) を押して針を上げます。

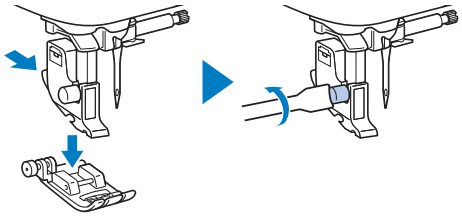
2 を押します。

- 画面に「押えが自動で下がります。よろしいですか？」というメッセージが表示されたら、OK を押して続行します。

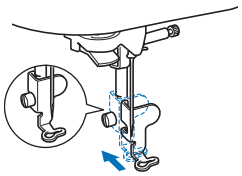
→ 画面表示が変わり、以外の操作キーと操作スイッチがすべてロックされます。

3 押えと押えホルダーを取り外します。

- 詳細は、「押えを交換する」(P.31) を参照してください。

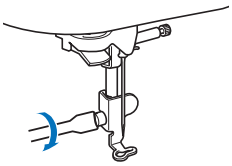


4 押えホルダーのネジに刺しゅう押え＜U＞のミゾを合わせて取り付けます。



- 刺しゅう押えが垂直になるようにして取り付けてください。

5 刺しゅう押えを右手で押さえながら、付属のドライバーでネジをしめて取り付けます。



⚠ 注意

- 付属のドライバーを使用して、刺しゅう押えのネジをしっかりしめてください。ネジがゆるむと、針が押えに当たったりしてけがをするおそれがあります。

6 を押して、すべてのキーとスイッチのロックを解除します。

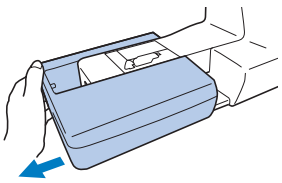
刺しゅう機を取り付ける

⚠ 注意

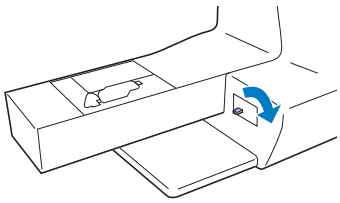
- 刺しゅう機は、必ず電源を切ってから取り付けてください。誤って操作スイッチが押されたときに、ミシンが刺しゅうをはじめてけがをするおそれがあります。
- 刺しゅう機を本体に取り付けたまま、持ち運ばないでください。刺しゅう機が落下するおそれがあり、けがの原因となります。
- 刺しゅう機のキャリッジや刺しゅう枠が動いているときに、手や物を近づけないでください。けがの原因となります。

1 電源を切ります。

2 補助テーブルを左に引いて取り外します。



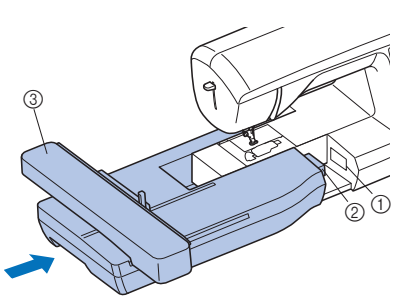
3 刺しゅう機の差し込み口のつまみを矢印の方向へスライドさせ、ふたを開けます。



お願い

- 刺しゅう機を使用しないときは、差し込み口のふたを閉じてください。

4 コネクタを差し込み口に差し込み、カチッと音がするまで刺しゅう機を軽く押し、ぴったり収まるようにします。



お願い

- 刺しゅう機と本体の間にすき間ができないようにしてください。すき間があると、模様くずれの原因となります。コネクタは差し込み口にしっかりと差し込んでください。
- 刺しゅう機を取り付けるときは、キャリッジを押さないでください。キャリッジを動かすと、刺しゅう機の故障の原因となります。
- 刺しゅう機のコネクタには触らないでください。コネクタピンの破損の原因になります。
- 刺しゅう機のキャリッジを持って持ち上げたり、キャリッジに強い力を加えたりしないでください。故障の原因となります。

5 電源を入れます。

→ 画面にメッセージが表示されます。

お願い

- 設定画面で［オープニング］が［ON］のときは、画面を押してメッセージを表示してください。

6 刺しゅう機の近くに手や物を置いていないことを確認し、OK を押します。

→ キャリッジが初期設定の位置へ移動します。

→ 刺しゅう模様の選択画面が表示されます。

お知らせ

- 刺しゅう機が取り付けられているときは、実用ぬいはできません。

■ 刺しゅう機の取り外し方

ミシンが動いていないことを確認し、次の手順で刺しゅう機を取り外します。

1 刺しゅう枠を取り外します。

- 刺しゅう枠を取り外すときは、「刺しゅう枠の取り外し方」（P.87）を参照してください。

2 を押して、次に OK を押します。

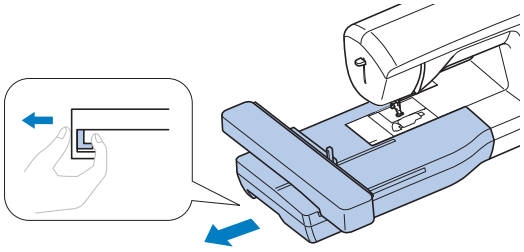
→ 刺しゅう機のキャリッジが収納位置へ移動します。

3 電源を切ります。

⚠ 注 意

- 必ず電源スイッチを切って刺しゅう機を取り外してください。ミシンの電源が入っているときに取り外すと、故障の原因となります。

4 取り外しレバーを押しながら、刺しゅう機をゆっくりと左側へ抜きます。



きれいに刺しゅうするために

刺しゅうをきれいに仕上げるためには、いくつかのポイントがあります。接着芯の貼り方（P.84）や布地の刺しゅう枠への張り方（P.84）は、大きなポイントです。もう 1 つのポイントは、適切な針と糸を使用することです。次の糸の説明を参照してください。

■ 刺しゅう糸

上糸	ブラザー純正の刺しゅう糸を使用してください。他の糸を使用した場合、刺しゅうがきれいに仕上がらないことがあります。
下糸	ブラザー純正刺しゅう下糸を使用してください。

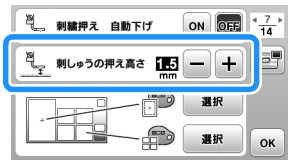
刺しゅう枠に布地を張る

⚠ 注 意

- 布地の厚さは 2 mm より薄いものを使用してください。2 mm 以上の厚さの布地を使用すると、針が折れるおそれがあります。
- 伸びる布地や薄地、目の粗い織物、模様が縮む布地を刺しゅうするときは、必ず刺しゅう用接着芯を使用してください。接着芯を使用しないと、針が折れ、けがをするおそれがあります。

お願い

- 設定 を押して、刺しゅう設定画面の [刺しゅうの押え高さ] の − ＋ で押えの高さを調節してください。



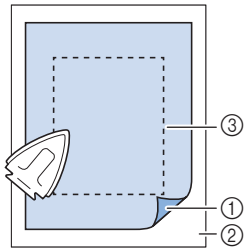
- 押えを高くするときは、設定値を大きくします（通常は 1.5 mm に設定されています）。

■ 接着芯の貼り方

刺しゅうをきれいに仕上げるために、必ず刺しゅう用接着芯を使用してください。接着芯を使用するときは、接着芯の説明書をお読みください。

1 布地の裏側に接着芯をアイロンをかけて貼ります。

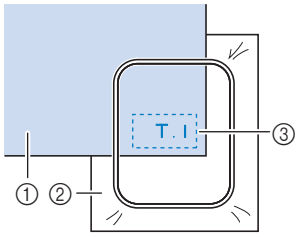
接着芯は、刺しゅう枠よりも大きいものを使用してください。



① 接着芯の接着面
② 布地（裏面）
③ 刺しゅう枠の大きさ

お知らせ

- 刺しゅう枠に張ることができない小さい布地に刺しゅうをする場合は、接着芯を土台にします。軽くアイロンで布地を接着芯に貼り、刺しゅう枠に張ります。アイロンで布地を接着芯に貼ることができない場合は、しつけをします。接着芯は刺しゅうが終わってからていねいに取り除きます。



① 布地
② 接着芯
③ しつけ

- オーガンジーやローンなど薄手の素材やタオル、コーデュロイなど起毛している布地に刺しゅうをするときは、水で溶ける刺しゅう用水溶性シート（別売）を使用してください。水で洗うとシートが溶け、固くならずきれいに仕上がります。
- 厚地のパイル織りのタオルには、水溶性シートをタオルの表面に置いて布と一緒に枠に張ることをおすすめします。タオル地の毛足がカバーされて、よりきれいに仕上がります。
- アイロンがかけられない布地（タオルなどの起毛している布地）やアイロンのかけにくい場所に刺しゅうをするときは、接着せずに、布地の下に接着芯を重ねて刺しゅう枠に張ってください。別売のブラザー接着芯については、お買い上げの販売店にご相談ください。

■ 布地の張り方

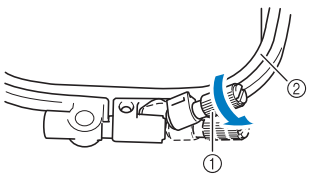
⚠ 注 意

- 模様の大きさよりも小さい刺しゅう枠を使用すると、刺しゅうの途中で刺しゅう枠が押えに当たり、けがの原因やミシンが破損するおそれがあります。

お願い

- 布地の張り方がゆるいと、模様くずれの原因となります。次の手順に従って、布地は平らな場所で、たるまないよう、しっかりと張ってください。

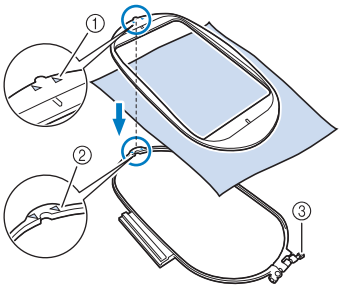
1 枠調節ネジを引き起こしてネジをゆるめ、内枠を外します。



① 枠調節ネジ
② 内枠

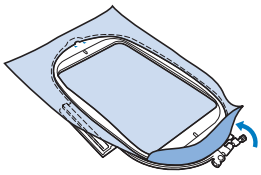
2 布地の表側を上にして外枠の上にのせ、布地を内枠ではさみます。

必ず内枠の△と外枠の▽が合うように、内枠を差し込みます。



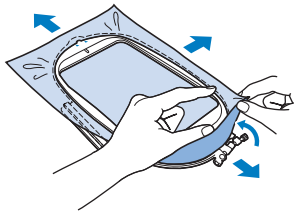
① 内枠の△
② 外枠の▽
③ 調節ネジ

3 調節ネジを軽くしめ、布地の端を引っ張りながらたるみをなくします。このとき、ネジを緩めないようにします。

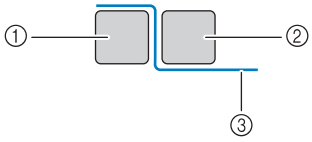


4 布地をしっかりと引っ張ります。布地がたるまないように調節ネジをしめます。

- 布地を引っ張った後に、ピンと張っていることを確認してください。



- 刺しゅうを始める前に、内枠と外枠の高さが同じになるようにしてください。

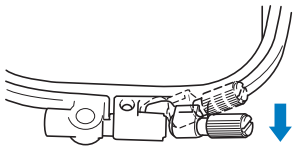


① 外枠
② 内枠
③ 布地の裏

お知らせ

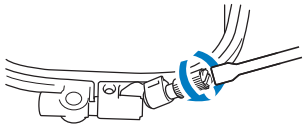
- 布地の 4 辺を引っ張ります。布地を引っ張りながら、調節ネジをしめます。
- 布地を軽くたたくと、太鼓のような音がするくらいが目安です。

5 調節ネジを元の位置に戻します。



お知らせ

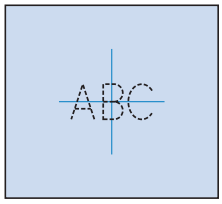
- 付属のドライバーを使用して、調節ネジをゆるめたり、しめたりすることができます。



■ 刺しゅうシートの使い方

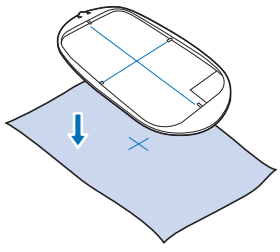
刺しゅうする場所が決まっているときは、刺しゅうシートを使用して枠にはめます。

1 チャコペンで布地の刺しゅうする位置に印を付けます。



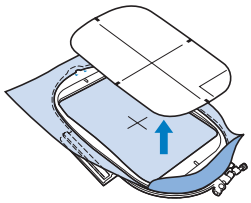
2 刺しゅうシートを内枠にのせます。

3 刺しゅうシートの基準線と布地の印を合わせます。



4 布地をのせた外枠に内枠をはめ、必要であれば布地の印と刺しゅうシートの基準線を合わせます。

5 刺しゅうシートを取り出します。



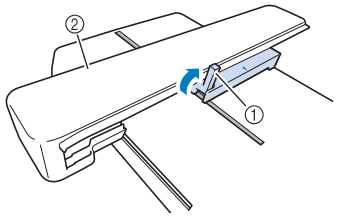
刺しゅう枠をセットする

お願い

- 刺しゅう枠をセットする前に、ボビンに下糸を巻いてセットしてください。ボビンに糸が十分にあることを確認してください。

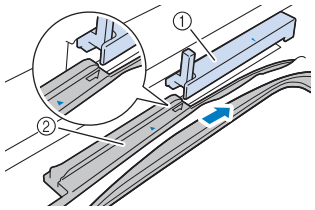
1 (押え上下スイッチ) を押して、押えを上げます。

2 枠固定レバーを上げます。



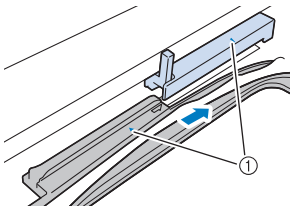
① 枠固定レバー
② キャリッジ

3 刺しゅう枠のガイドを刺しゅう枠ホルダーの右側面に合わせます。



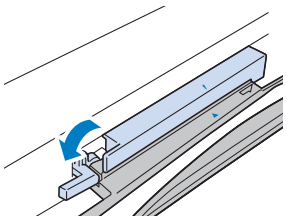
① 刺しゅう枠ホルダー
② 刺しゅう枠のガイド

4 刺しゅう枠の矢印マークがホルダーの位置まで来るように、刺しゅう枠をスライドさせます。



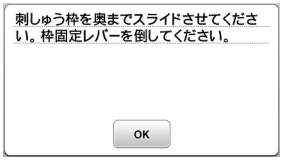
① 矢印マーク

5 枠固定レバーを枠に平行になるまで下げて、刺しゅう枠を刺しゅう枠ホルダーに固定します。



⚠ 注 意

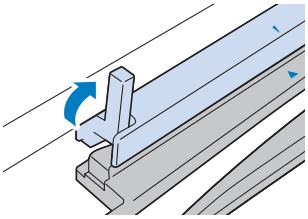
- 枠固定レバーを下げずに刺しゅうを始めようとすると、以下の画面が表示されます。枠固定レバーを上げたままで刺しゅうすることはできません。



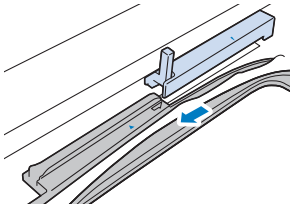
■刺しゅう枠の取り外し方

1 (押え上下スイッチ) を押して、押えを上げます。

2 枠固定レバーを上げます。



3 刺しゅう枠を手前に引いて取り外します。

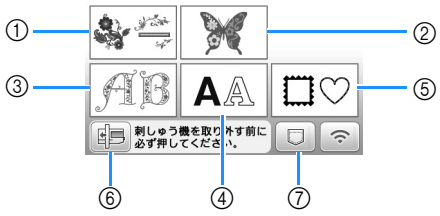


刺しゅうする

■著作権について

ミシンに内蔵されている模様は、一般家庭用としてのみお楽しみいただけます。営利または業務目的での使用は著作権法上固く禁じられておりますのでご注意ください。

■刺しゅう模様の種類



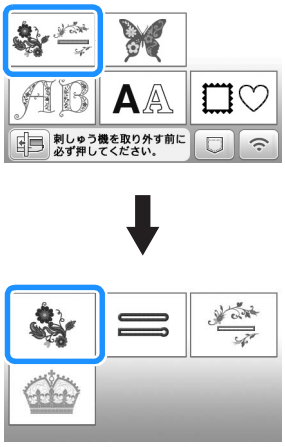
① ワンポイント
② バラエティ
③ 花アルファベット
④ 文字模様
⑤ 枠模様
⑥ 刺しゅう機を取り外す前に必ずこのキーを押してください。
⑦ ミシンに記憶させた模様、USB メモリーからの模様、または無線 LAN で転送した模様 (P.104)

- 各カテゴリーの刺しゅう模様については、「模様一覧」を参照してください。

刺しゅう模様を選択する

1 模様選択画面で を押し、次に を押します。

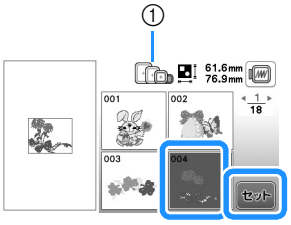
- 模様選択画面が表示されていないときは、刺しゅう を押して表示させてください。



2 ◀と▶を押して、お好みの模様を表示させます。

3 お好みの刺しゅう模様を押し、セットを押します。

- 使用できる刺しゅう枠は、画面上に表示されます。



① 白：選択した模様で使用できる枠
グレー：選択した模様で使用できない枠

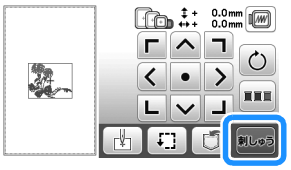
→ 模様編集画面が表示されます。

4 編集終了を押します。

- 模様編集画面については、「編集のしかた」（P.98）を参照してください。模様の移動や大きさの変更、その他のさまざまな編集ができます。
- 模様を指でドラッグすることで、動かすこともできます。

→ 縫製設定画面が表示されます。

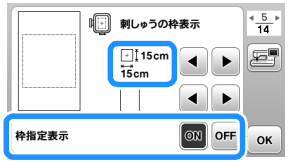
5 刺しゅうを押します。

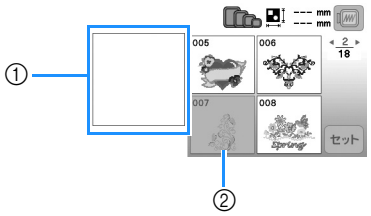


- 縫製設定画面については、「縫製設定画面で編集する」（P.100）を参照してください。
- 刺しゅうする位置を確認する方法については、「刺しゅう位置を確認する」（P.90）を参照してください。

お知らせ

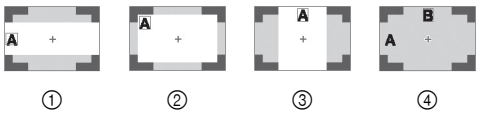
- 設定画面で［枠指定表示］を［ON］に設定すると、刺しゅう枠を取り付けたイメージで刺しゅう模様の編集ができます。





① 選択した枠に合わせて、刺しゅう範囲が表示されます。
② 選択した枠に収まらない模様はグレー表示され、選択することができません。

- 刺しゅう枠（S）（別売）には 3 つの刺しゅう範囲があります。
［枠指定表示］を［ON］に設定すると、刺しゅう枠（S）で模様を配置できる範囲がわかりやすくなります。刺しゅう範囲外はグレー表示となります。



① 刺しゅう範囲は、縦 2cm × 横 6cm です。
② 刺しゅう範囲は、縦 3cm × 横 5cm です。
③ 刺しゅう範囲は、縦 4cm × 横 3cm です。
④ 模様が刺しゅう範囲外に配置されています。

■ 文字模様を選択する

1 AA を押します。

2 お好みの書体のキーを押します。

3 タブを押して選択画面を切り替え、文字を入力します。

① 現在の行数
② タブ

- スペースを入力するときは、␣を押します。
- 文字の大きさを変更するときは、文字を選択してから を押します。このキーを押すたびに、大きさが大から中、小へと変わります。文字の大きさを変更すると、同じ行にある文字は同じ大きさになります。
- 間違えて文字を入力したときは、を押してください。
- 改行したときなどに、入力したすべての文字を確認するときは、ABCを押します。
- 改行をするときは、↵を押します。
- 日本語フォントを選択したときは、で縦書き、横書きを選択できます。

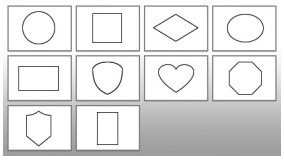
4 セットを押します。

- 編集のしかたについては、「編集のしかた」(P.98) を参照してください。

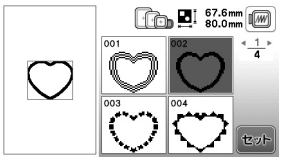
■ 枠模様を選択する

1 を押します。

2 お好みの枠の形を選択します。



3 お好みの枠模様を選択します。



4 セットを押します。

- 編集のしかたについては、「編集のしかた」(P.98) を参照してください。

■ 模様を組み合わせる

例：アルファベットと刺しゅう模様を組み合わせる場合

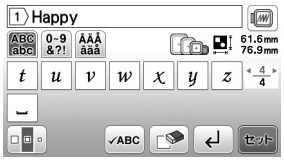
1 模様を選択してセットを押します。

2 必要に応じて模様を編集して、追加を押します。

- 模様の編集のしかたについては、「模様編集画面」(P.98) を参照してください。

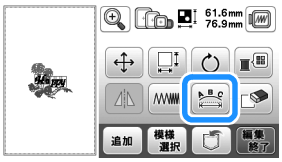
3 AAを押して、アルファベットを入力します。

4 ABCを押して、「Happy」と入力します。



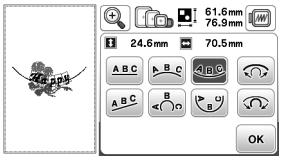
5 セットを押します。

6 を押して、次にを押します。



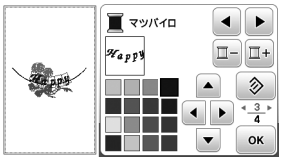
- 文字の編集のしかたについては、「文字編集画面」(P.99) を参照してください。

7 文字の配列を変更し、OKを 2 回押して、模様編集画面に戻ります。



8 を押して文字の色を選択します。

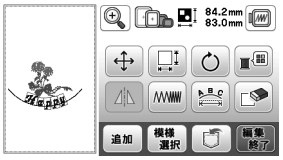
9 文字の色を変更してから、[OK]を押します。



- 色の変更については、「模様編集画面」(P.98)を参照してください。

10 模様の位置を整えます。

- 模様を指で選択し、ドラッグすることで、動かすこともできます。重なっている模様を選択するときは、画面に触れても選択できないので、[模様選択]を使用します。
- 模様の位置を移動するときは、[移動]を押してください。
- 組み合わせた模様イメージを確認するときは、[プレビュー]を押してください。

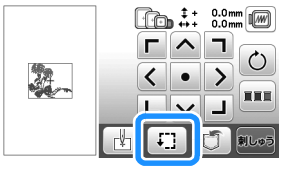


11 [編集終了]を押します。

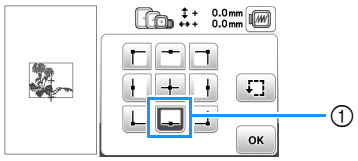
■ 刺しゅう位置を確認する

刺しゅう枠が動いて刺しゅう範囲を示します。刺しゅう枠の動きを見て、刺しゅう位置を確認してください。

1 縫製設定画面で[刺しゅう枠]を押します。



2 [位置確認]を押して、刺しゅう位置を確認します。

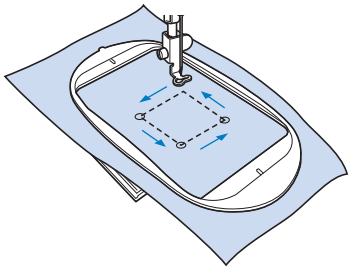


① 選択した位置

→ キャリッジが動いて選択した位置を示します。

お知らせ

- 刺しゅう範囲全体を見たいときは[全体]を押します。刺しゅう枠が動いて、刺しゅうの範囲全体を示します。



注意

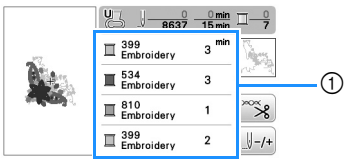
- 刺しゅう枠が動いている最中は、針が上がった状態にしてください。針が下がると、針が折れ、けがの原因となります。

3 [OK]を押し、次に[刺しゅう]を押します。

模様を刺しゅうする

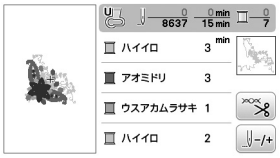
刺しゅう模様は一色ごとに糸色を替えてぬいます。

1 画面に表示されている色の刺しゅう糸を用意します。



① 色替えの順番

- 画面に表示されている糸番号表示を糸色名に変更することができます。[設定]を押して設定を変更します。詳細は、「刺しゅうの糸の表示を変更する」(P.92)を参照してください。



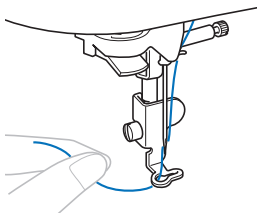
- 自動糸切り機能を使用すると、各色の刺しゅう終わりに自動的に糸を切ります。この機能はあらかじめ設定されています。設定を解除するときは、[自動糸切り]を押してから[自動糸切り]を押してください。

2 刺しゅう糸をセットし、針に糸を通します。

- 詳細は、「上糸を通す」(P.25)を参照してください。

3 押えレバーを上げ、刺しゅう押えの穴に糸を入れて、少しミシンの後ろへ出して、左手で軽く押さえます。

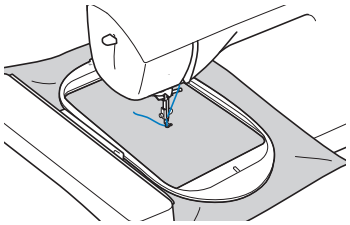
糸は少したるませておきます。



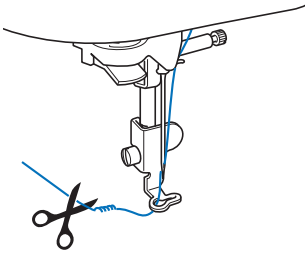
⚠ 注意

- 刺しゅう中に手や物がキャリッジに当たらないようにしてください。模様がくずれるおそれがあります。
- ジャケットなどのような厚地の大きなものに刺しゅうする場合は、布地をミシンを置いた台に垂らさないようにしてください。
  布地の重みで、キャリッジの動きが制限され、刺しゅう枠が針に当たり、針が折れたり曲がったりして、けがをするおそれがあります。
  布地は台から離して置いたり、引きずらないように持ち上げたりしてください。

4 押えを下げ、スタート／ストップスイッチを押して刺しゅうを始めます。5 ～ 6 針ぬった後、もう一度スタート／ストップスイッチを押して、ミシンを止めます。



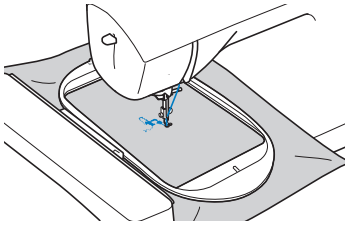
5 ぬい目のきわで余分な糸を切ります。押えの下にぬい目が隠れているときは、押えを上げてから余分な糸を切ります。



- ぬい初めの余分な糸を残したまま刺しゅうを続けると、模様の中に糸がぬい込まれて、刺しゅうがぬい終わった後では余分な糸を取り除きにくくなります。ぬい始めの糸は、1 色ごとにはさみで切ってください。

6 スタート／ストップスイッチを押してぬい始めます。

→ 1 色目の刺しゅうが終わると、自動的に止めぬいをして止まります。自動糸切りを設定しているときは、糸が切れます。



7 1 色目の糸を取り外します。

8 残りの色も同じ手順で刺しゅうします。

→ 最後の色が刺しゅうされると、刺しゅうが完了したことを知らせる画面が表示されます。OK を押して、元の画面に戻ってください。

9 余分な渡り糸を切ります。

■ 刺しゅうの糸の表示を変更する

糸色表示は、糸色名と糸番号のどちらかを選択することができます。

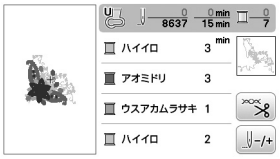
お知らせ

- 液晶画面に表示される色は、実際の糸こまの色と異なる場合があります。
- 糸ブランドの初期値は［オリジナル］に設定されています。刺しゅうデータを取り込んでいる場合、データ作成ソフトウェアで指定した糸のブランドで表示されます。

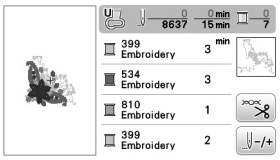
1 設定を押し、◀か▶で次の設定画面を表示します。

2 #123 ABC の◀か▶を押して、［糸色名］または［#123］（糸番号）を選択します。

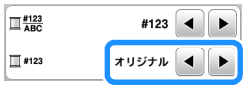
- ［糸色名］を選択すると、糸色名が表示されます。



- ［#123］を選択すると、刺しゅう糸番号が表示されます。



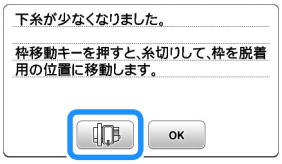
3 #123 の◀か▶を押して、糸ブランドを選択します。



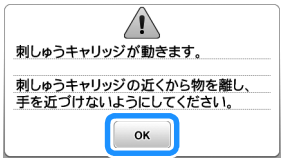
4 OKを押します。

■ 下糸が少なくなったら

ぬっている途中で下糸が少なくなると、ミシンが止まり、次のようなメッセージが表示されます。を押し、以下の手順に従って下糸を交換してください。残りわずかで完成する場合は、OKを押して、10 目ほどそのままぬえます。10 目ほどぬい終わると、ミシンが自動的に止まります。



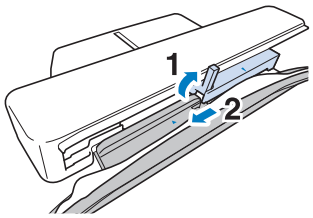
1 OKを押します。



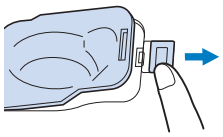
→ 自動的に糸が切れた後、キャリッジが移動します。

2 枠固定レバーのロックを解除して、刺しゅう枠を外します。

- このとき、布地に無理な力をかけないよう注意してください。枠に張った布地がたるむことがあります。

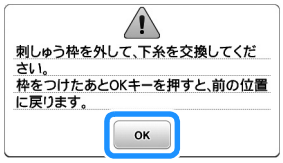


3 下糸を巻いたボビンと交換します。(P.23)

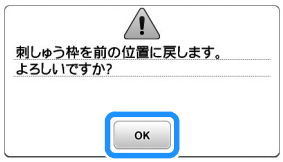


4 刺しゅう枠をセットします。

5 OKを押します。



6 [OK]を押します。



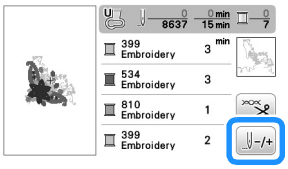
7 刺しゅうを中止した位置に戻る場合は、次項「途中で糸が切れたときは」の 3 から 6 の手順を参照して、針を戻します。

■ 途中で糸が切れたときは

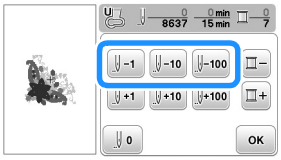
1 スタート／ストップスイッチを押して、ミシンを止めます。

2 上糸が切れた場合は、上糸をかけ直します。下糸が切れた場合は、[下糸]を押して、前項の 1 から 6 の手順に従って下糸をセットし直します。

3 [-/+]を押します。



4 [-1]、[-10]、または[-100]を押して、糸が切れた位置から、2 ～ 3 針多く針を戻します。



お知らせ

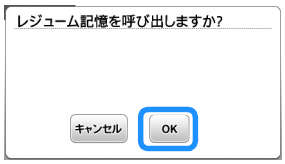
- 糸が切れたところまで戻れないときは、[色-]を押して色を選び、その色のぬい始めの位置に戻ってから[+1]、[+10]、または[+100]を押して、糸が切れたところより少し手前まで進めます。

5 [OK]を押して、元の画面に戻ります。

6 [押え上下]（押え上下スイッチ）を押して押えを下げ、スタート／ストップスイッチを押して、刺しゅうを続けます。

■ 電源を切った後、刺しゅうを再開する

刺しゅうが中断されたときは、操作中の色と針数が記憶されます。次にミシンに電源を入れると、中断された操作を続けるかどうかを選択できます。

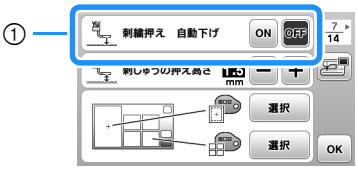


自動押え下げ

ぬい始めに自動的に押えを下げるように設定することができます。

1 [設定]を押して設定画面を表示し、◀／▶を押して 7 ページを表示します。

2 [刺しゅう押え自動下げ] を [ON] に設定します。



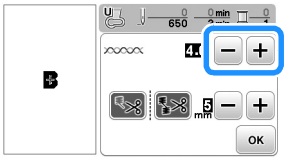
① [ON] に設定されているとき、押えが上がった状態でスタート／ストップスイッチを押すと、自動的に押えを下げてぬい始めます。

糸調子を整える

上糸の糸調子は調整できます。

1 を押します。

2 を押して、上糸を弱めます（押すごとに糸調子の数値が小さくなります）。
を押して、上糸を強めます（押すごとに糸調子の数値が大きくなります）。



3 を押します。

■ 正しい糸調子

布地の裏側に、少し上糸が見えるくらいに調節します。

① 表
② 裏

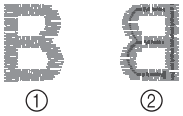
■ 上糸が強すぎるとき

布地の表側に下糸が出ます。このときは、糸調子を弱くしてください。

① 表
② 裏

■ 上糸が弱すぎるとき

上糸がたるみます。このときは、糸調子を強くしてください。



① 表
② 裏

お願い

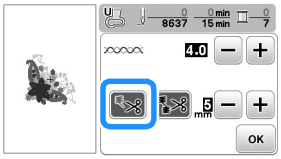
- 下糸セットと上糸通しが正しく行われていない場合、糸調子が合わないことがあります。糸調子を調節しても糸調子が合わないときは、下糸セットと上糸通しをやり直してください。
- 設定画面の「刺しゅうの糸調子調整」で刺しゅうのときの上糸調子を調整できます。ここでの設定は、すべての模様に適用されます。
刺しゅうのとき、上糸調子が全体的に強すぎたり弱すぎたりするときに、設定画面で調整してください。を押すと上糸が強くなり、を押すと上糸が弱くなります。さらに、模様ごとに細かい調整が必要な場合は、「糸調子を整える」（P.94）を参照してください。

自動糸切り機能

自動糸切り機能を使用すると、各色の縫い終わりに自動的に糸を切ります。刺しゅうのときは、この機能は、あらかじめ設定されています。設定を解除するときは、を押してからを押します。

1 を押します。

2 を押して、自動糸切りを解除します。



→ キーの表示が、に変わります。

- ミシンは、次のぬい目に進む前に糸を切りません。

3 を押して、元の画面に戻ります。

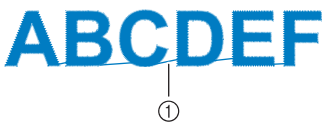
渡り糸切り機能

渡り糸切り機能は、余分な渡り糸を自動的に切ります。刺しゅう枠（S）（別売）は使用できません。この機能はあらかじめ設定されています。設定を解除するときは、を押してからを押します。

- ミシンの電源を切っても設定は保存されます。

⚠ 注 意

- 刺しゅうキャリッジが動きます。刺しゅうキャリッジの近くに手などを近づけないでください。
  けがをするおそれがあります。



① 渡り糸

お願い

- アルファベットのように、短い渡り糸を自動糸切り機能を設定して刺しゅうするときは、刺しゅう用ボールポイント針（別売）を使用してください。

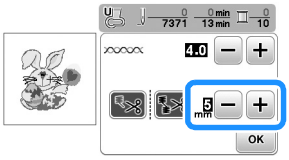
■渡り糸の長さを調整して糸切り機能を選択する

糸切り機能が設定されている場合、残しておく渡り糸の長さを選ぶことができます。設定した長さより短い糸は切りません。この機能は、刺しゅうの途中で設定／設定解除できます。

- ミシンの電源を切っても設定は保存されます。

＋または－を押して、渡り糸の長さを選択します。

例：＋を押して 25mm を選ぶと、ミシンは次のぬい目に移動する前に、25mm 以下の渡り糸を切らずに残します。



お知らせ

- 糸切りの多い模様の場合は、布地の裏面に残る糸の量を減らすために、渡り糸の長さ調節を長めに設定することをお勧めします。
- 渡り糸の長さに選ぶ数値が大きければ大きいほど、糸を切る回数が減ります。この場合、布地にはより多くの渡り糸が残ることになります。

刺しゅう模様を使用してアップリケをする

色替え表示の部分に［（アップリケピース）］、［（アップリケノイチ）］、または［（アップリケ）］と表示された場合は、以下の手順で刺しゅうします。

用意するもの

- アップリケピース用の布
- アップリケ土台用の布
- 刺しゅう用接着芯
- 手芸用ののりまたは布用スプレーのり
- 刺しゅう糸

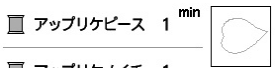
お願い

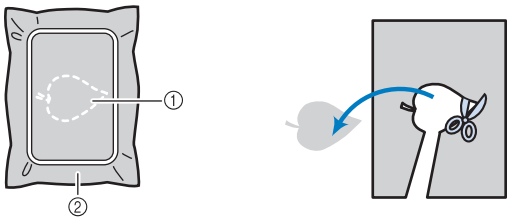
- 使用する糸色名と糸番号は表示されません。アップリケ模様に合った色糸を選択してください。

■1. アップリケピースを作る

1 アップリケピースの布地の裏に接着芯を貼ります。

2 アップリケピースの切り取り線をぬいます。アップリケピースの布地を刺しゅう枠から取り外し、ぬい目の上をていねいに切り取ります。





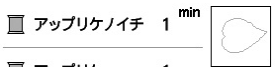
① アップリケピースの切り取り線
② アップリケピースの布地

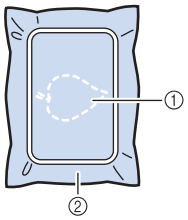
お願い

- ぬい目よりも内側を切るとアップリケをぬうときに布地に糸がかからなくなりますので、必ずぬい目の上をていねいに切り取ってください。
- アップリケピースを切り取った後、残った糸はきれいに取り除いてください。

■ 2. 土台の布地にアップリケの位置をぬう

1 アップリケの位置をぬいます。





① アップリケの位置
② 土台の布地

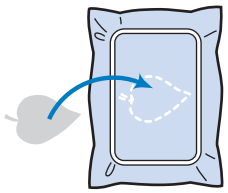
2 刺しゅう枠を刺しゅう機から取り外します。

お願い

- 土台用の布は、模様をすべてぬい終わるまで刺しゅう枠から外さないでください。

■ 3. アップリケピースを土台用の布地に貼り付ける

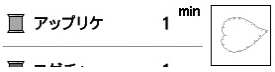
1 アップリケピースの裏側に薄くのりまたは布用スプレーのりを付け、「2. 土台の布地にアップリケの位置をぬう」の 1 でぬったアップリケの位置の輪かく線に合わせてしっかり貼り付けます。

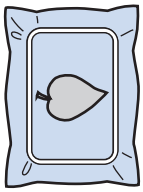


お願い

- 手芸用のりでアップリケピースを土台布にしっかり固定できない場合は、しつけ糸で仮止めぬいをしてピースを固定してください。
- アップリケピースに薄い布地を使用するときは、アイロン接着シートで布地の補強と位置合わせをしてください。アップリケしたい場所にアイロンで接着できます。

2 アップリケピースを貼り付けたら、刺しゅう枠をミシンにセットします。
刺しゅう糸をセットし、押えレバーを下げ、スタート／ストップスイッチを押して、アップリケ部分を刺しゅうします。





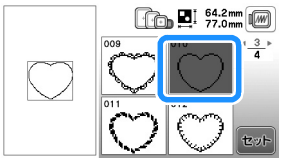
3 残りのパーツを刺しゅうします。

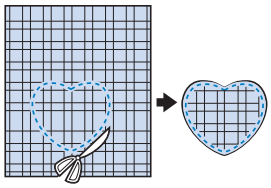
枠模様を使用してアップリケをする

大きさと形が同じ枠模様を使用して、アップリケを作ることができます。直線ぬいで 1 つの模様をぬい、サテンぬいでもう 1 つの模様をぬいます。

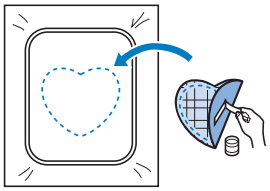
■ 方法 1

1 直線ぬいの枠模様を選択します。アップリケ布に模様を刺しゅうして、ぬい目の外側をていねいに切り取ります。

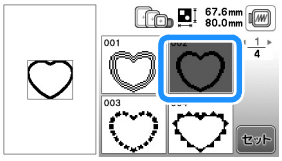


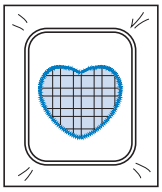


2 ❶ と同じ模様を土台布に刺しゅうします。❶ で作ったアップリケ布の裏側に、薄くのりまたは布用スプレーのりを付け、土台布のぬい目に合わせて、アップリケを貼り付けます。



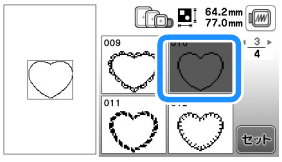
3 同じ形のサテンぬいの枠模様を選択します。❷ のアップリケ布と土台布の上に刺しゅうをして、アップリケを作ります。





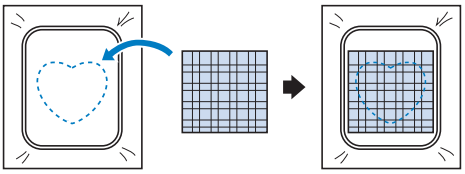
■ 方法 2

1 直線ぬいの枠模様を選択し、土台布に刺しゅうします。

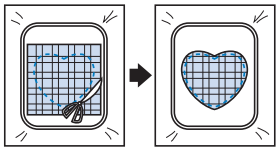


2 ❶ の刺しゅうの上にアップリケ布を置き、アップリケ布の上からもう一度同じ枠模様を刺しゅうします。

- このとき、ぬい目がアップリケ布からはみでないようにしてください。



3 刺しゅう機から刺しゅう枠を外し、ぬい目の外側を切り取ります。



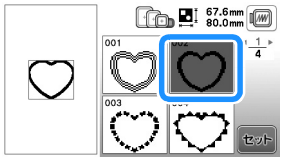
お願い

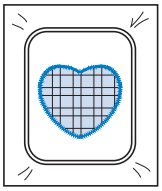
- 布地は刺しゅう枠にはめたまま切ってください。また、布地に無理な力をかけないでください。枠に張った布地がたるむことがあります。

4 刺しゅう枠をミシンにセットします。

5 同じ形のサテンぬいの枠模様を選択し、サテンぬいの模様を刺しゅうしてアップリケを作ります。

- 模様の大きさや位置は変更しないでください。





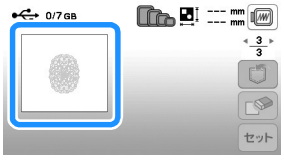
分割模様をぬう

刺しゅう PRO バージョン 7 以降で作成した分割模様を刺しゅうすることができます。分割模様は、1 つの模様が複数のパーツに分かれています。すべてのパーツの刺しゅうが終わると、刺しゅう枠のサイズを超える大型模様が完成します。

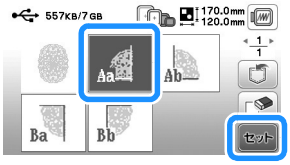
分割模様の作成および、より詳しいぬい方については、刺しゅう PRO に付属している取扱説明書を参照してください。

1 作成した分割模様が保存された USB メモリーをミシンに接続し、刺しゅうしたい分割模様を選択します。

- 模様の呼び出しについては、「刺しゅう模様を呼び出す」（P.104）を参照してください。

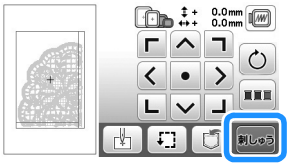


2 刺しゅうするパーツ（Aa）を選択して、セットを押します。



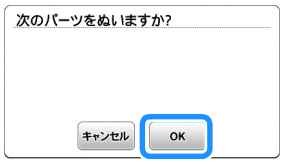
- パーツは、アルファベット順に選択します。

3 編集終了を押して、次に刺しゅうを押します。



4 スタート／ストップスイッチを押して、パーツの刺しゅうを始めます。

5 刺しゅうが終わったら、次の画面が表示されます。OK を押します。



→ 分割模様のパーツを選択するための画面が表示されます。

6 手順 2 から 5 を繰り返し、模様の残りのパーツを刺しゅうします。

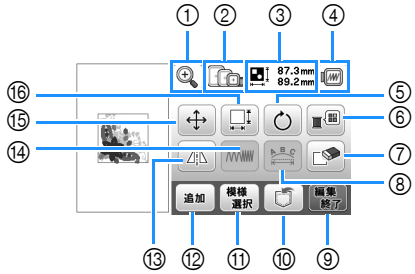
編集のしかた

模様選択画面で模様を選択して、セットを押すと、模様編集画面が表示されます。各キーを押して模様を編集したら、OK を押して元の画面に戻ります。すべての編集が完了したら、編集終了を押して、縫製設定画面に進んでください。

⚠ 注意

- 模様を編集したときは、画面の刺しゅう枠表示を確認し、模様にあった刺しゅう枠を使用してください。表示で使用できない刺しゅう枠を使用すると、刺しゅう枠が押えに当たり、けがや故障の原因となります。

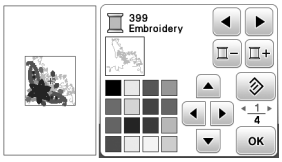
■ 模様編集画面



お知らせ

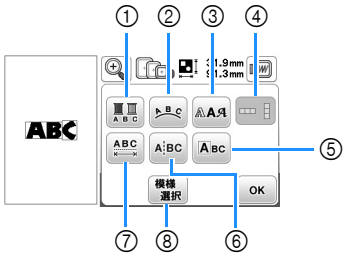
- キーが灰色で表示されている場合は、選択した模様にその機能を使用することはできません。

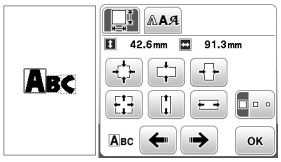
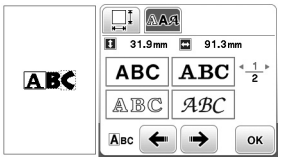
番号	画面表示 名称	はたらき
①	 拡大キー	模様の画面表示を拡大できます。
②	 刺しゅう枠表示	使用できる刺しゅう枠を表示します。 (P.88)
③	61.6mm 76.9mm 模様サイズ	組み合わせた模様の全体のサイズを表示します。
④	 プレビューキー	実際の仕上がりイメージを表示します。 を押して、枠の大きさを選択します。 • ：刺しゅう枠（LL）縦 26cm× 横 16cm • ：刺しゅう枠（L）縦 18cm× 横 13cm (別売) • ：刺しゅう枠（M）縦 10cm× 横 10cm • ：刺しゅう枠（S）縦 2cm× 横 6cm (別売) を押すと、模様のイメージが拡大表示されます。

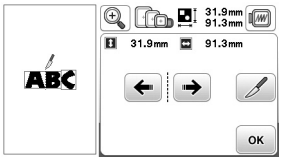
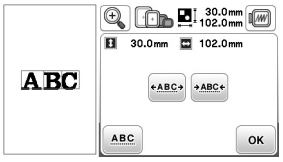
番号	画面表示 名称	はたらき
⑤	 回転キー	模様を回転することができます。 を押すと元の角度に戻ります。
⑥	 糸パレットキー	表示されている模様の色を変更できます。  または を押して、糸の種類を選択します。 または を押して、糸色を変更したい部分を選択します。 新しい色を選択するときは、 を使用するか、カラーパレットで直接選択します。 元の色に戻るときは、 を押します。
⑦	 削除キー	選択した模様（赤い四角の枠で囲まれている模様）を削除します。
⑧	 文字編集キー	文字編集画面を表示します。(P.99)
⑨	 編集終了キー	編集を終了し、縫製確認画面に進みます。(P.100)
⑩	 模様記憶キー	模様をミシンまたは USB メモリーへ記憶させます。無線 LAN でパソコンに転送することもできます。(P.103)
⑪	 模様選択キー	模様を組み合わせているときは、このキーを使用して、編集する部分を選択します。選択した模様は、赤い四角で囲まれます。
⑫	 追加キー	編集中の模様に、別の模様を追加することができます。
⑬	 左右反転キー	模様を左右に反転することができます。
⑭	 糸密度キー	枠模様や文字模様の密度を変更することができます。
⑮	 移動キー	矢印の方向に模様のぬう位置を移動することができます。 を使用して、矢印の方向へ模様を移動させます。 を押すと、中心に戻ります。
⑯	 大きさキー	模様の大きさを変更することができます。 : 模様が均等に大きくなります。 : 模様が均等に小さくなります。 : 模様が横方向に大きくなります。 : 模様が横方向に小さくなります。 : 模様が縦方向に大きくなります。 : 模様が縦方向に小さくなります。 : 元の大きさに戻ります。 : 文字模様の大きさが変わります。

■ 文字編集画面

模様編集画面で を押すと、文字編集画面が表示されます。



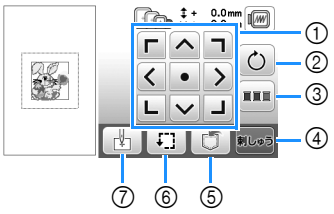
番号	画面表示 名称	はたらき
①	 色替えキー	文字を刺しゅうするときに、文字の色を 1 文字ずつ変更することができます。ミシンは 1 文字ぬい終えると止まるので、上糸を刺しゅうしたい色に変更してください。このキーをもう一度押すと、設定が解除されます。
②	 配列キー	文字の配列を変更することができます。 曲線（ ）を選択した場合は、 と を使用すると、曲線の角度が変わります。 : ゆるやかな曲線にします。 : 急な曲線にします。 を選択したときはと は、 と に変わり、傾斜を増加、または減少させることができます。 を押すと、文字模様を 1 列に整えます。
③	 フォント変更キー	文字のフォントを一括で変更します。 フォントによっては、種類の変更ができないことがあります。
④	 縦書き / 横書き切り替えキー	日本語の文字の横書き／縦書きが切り替わります。欧文フォントは、縦書きにすることはできません。
⑤	 1 文字編集キー	1 文字ずつ編集することができます。   を押したときは、 でサイズを変更したい文字を選択して、大きさを変更することができます。 を押したときは、 でフォントを変更したい文字を選択して、フォントを変更することができます。

番号	画面表示 名称	はたらき
⑥	 文字間分割キー	文字と文字の間を分割し、別々に編集できるようにします。  押して、切り離す場所を選択し、 を押して切り離します。 一度切り離した模様は、再度組み合わせることはできません。
⑦	 文字間キー	文字の間隔を変更することができます。  / を押して、文字間隔を変更します。 を押すと、元の状態に戻ります。
⑧	 模様選択キー	模様を組み合わせているときは、このキーを使用して、編集する部分を選択します。選択した模様は、赤い四角で囲まれます。文字入力中に改行キーを使用したときは、1 行単位で選択されます。

縫製設定画面で編集する

模様編集画面で を押すと縫製設定画面が表示されます。縫製設定画面での編集が終わったら、 を押して縫製画面へ進みます。

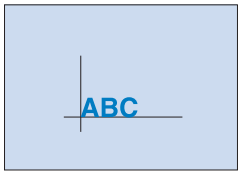
■ 縫製設定画面



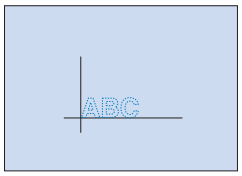
番号	画面表示 名称	はたらき
①	 矢印キー	矢印の方向に模様を移動させることができます。（模様を縫製範囲の中央に戻すときは、中央のキーを押します。）（P.101）
②	 回転キー	模様を回転することができます。 を押すと元の角度に戻ります。
③	 カラーソートキー	組み合わせた模様の縫製順を糸色ごとに並び替えます。
④	 刺しゅうキー	縫製画面を表示します。
⑤	 記憶キー	模様をミシンまたは USB メモリーに記憶させます。無線 LAN でパソコンに転送することもできます。（P.103）
⑥	 位置確認キー	模様の位置を確認することができます。（P.90）
⑦	 ぬいはじめの位置キー	ぬい始めの位置を移動して、模様の位置に針を合わせることができます。（P.101）

模様と針の位置をあわせる

例：模様の左下と針を合わせる場合

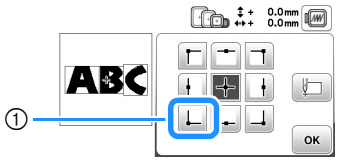


1 次のように、刺しゅうを始める位置に印をつけます。



2 を押します。

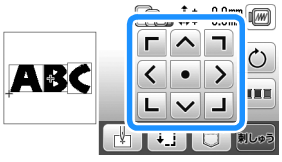
3 を押して、OK を押します。

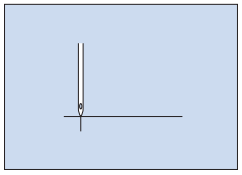


① ぬい始めの位置

→ 針が模様の左下に移動します（刺しゅう枠の針が模様の左下にくるように動きます）。

4 を使用して針がしるしの位置にくるように移動させ、刺しゅうを押して刺しゅうを始めます。





文字をつなげて刺しゅうする

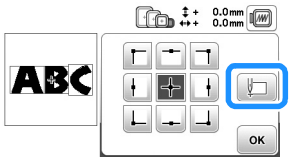
組み合わせた文字が刺しゅう枠に入らないときは、以下の手順で刺しゅうします。

例：刺しゅう枠 M（10cm×10cm）を使って「ABC」の後に「DEF」をつなげる場合

1 「ABC」の文字模様を選択し、セットを押し、次に編集終了を押します。

2 を押します。

3 を押し、OK を押します。



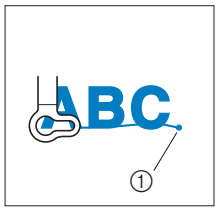
→ ぬい始めが、模様の左下に設定されます。設定した位置に針が落ちるように刺しゅう枠が動きます。

4 刺しゅうを押します。

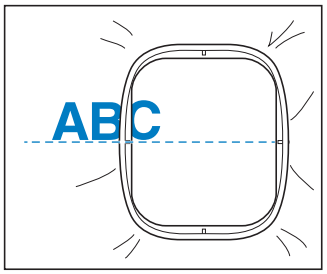
5 刺しゅう押えを下げ、スタート／ストップスイッチを押してぬい始めます。

6 文字模様の刺しゅうが終わったあと、糸を長めに残して切り、刺しゅう枠を取り外します。[ぬい終わりました] と表示された画面の OK を押します。

① ぬい終わり位置



7 「C」の文字の右側部分が刺しゅう枠の内側に入るようにして、布地をもう一度刺しゅう枠に張ります。このとき文字が水平になるように注意します。残りの文字（「DEF」）が刺しゅうできるように、刺しゅう枠をもう一度ミシンに取り付けます。



8 刺しゅうを押して、現在の文字模様を取り消します。

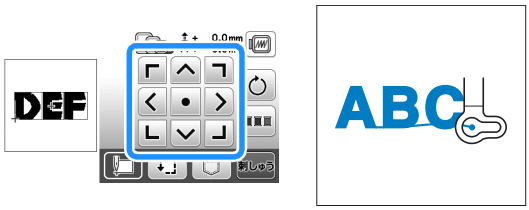
9 「DEF」の文字模様を選択し、セットを押し、次に編集終了を押します。

10 を押します。

11 を押し、OKを押します。

→ ぬい始めが、模様の左下に設定されます。設定した位置に針が落ちるように刺しゅう枠が動きます。

12 を押して、先に刺しゅうした模様のぬい終わり位置からぬい始めるように、針落ち位置を合わせます。



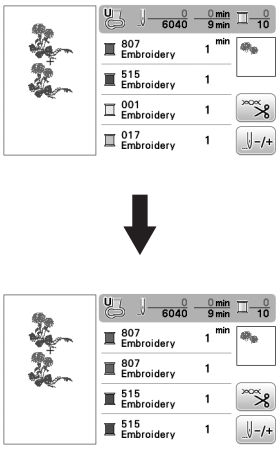
13 刺しゅうを押します。

14 刺しゅう押えを下げ、スタート／ストップスイッチを押して残りの文字模様をぬい始めます。

糸色ごとに並べ替える

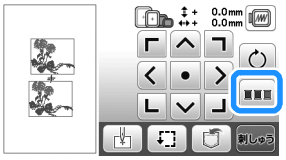
糸こまを交換する回数を最小にすることができます。

刺しゅうを始める前に、縫製設定画面で を押すと、糸色ごとに並べ替えられて、刺しゅうの順番が変わります。



1 を押します。

* を押すと、並び替えた糸色を確認することができます。



糸色ごとに並べ替えられて、刺しゅうの順番が変わります。

再度、縫製設定画面でを押すと、糸色の並び替えを解除して、元の糸色順で刺しゅうすることができます。

お知らせ

- 糸色ごとに並び替える機能は、模様が重なっていると使用することができません。

刺しゅう模様の記憶

■ 刺しゅうデータに関する注意

⚠ 注 意

- 当社正規の模様以外の刺しゅうデータを使用する際は、糸密度が細かすぎる場合や 3 回以上の重ねぬいをする場合があり、糸切れや針折れが発生するおそれがあります。そのような場合は、当社正規のデータ作成機（刺しゅう PRO など）で、刺しゅうデータを修正して使用してください。

☐ 使用可能な刺しゅうデータの種類

このミシンで扱える刺しゅうデータは、.pes、.phc、.pen、および .dst ファイルのみです。上記以外の形式のデータを扱うと、ミシンが誤動作するおそれがあります。

☐ 刺しゅう模様のサイズ

このミシンは最大で 26cm×16cm までの刺しゅう模様に対応しています。

☐ USB メモリー

一部の USB メモリーは、このミシンで使用できない場合があります。詳しくは、ブラザーのサポートサイト（http://s.brother/cphak/）で掲載される情報を参照してください。

☐ パソコンでデータを作成・保存するときの注意

ファイルおよびフォルダーの名前には、アルファベット 26 文字（A ～ Z、a ～ z）、0 ～ 9 の数字、「-」もしくは「_」を使用してください。

☐ Tajima（.dst）刺しゅうデータ

- .dst データは、模様を一覧する画面にファイル名で表示されます（実際のイメージは表示されません）。
- Tajima（.dst）データには、具体的な糸色の情報が含まれていないため、標準的な糸色で表示されます。プレビューを確認し、必要に応じて糸色を選択します。

刺しゅう模様を記憶させる

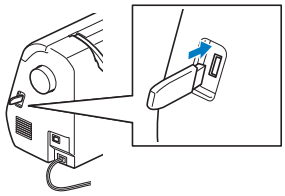
編集した刺しゅう模様をミシンまたは USB メモリーに記憶させることができます。
また、無線 LAN を通して、お使いのパソコンに転送することができます。

☼ お願い

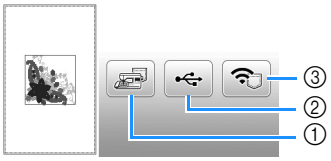
- [記憶中…] のメッセージが表示されているときは、電源を切らないでください。記憶されている模様データが消えるおそれがあります。

1 編集画面または縫製設定画面に模様が表示されているときに を押します。

2 USB メモリーに刺しゅう模様を記憶する場合は、ミシンの USB ポートコネクタに USB メモリーを差し込みます。



3 記憶先を押して、刺しゅう模様を記憶します。



① ミシンに記憶します。

② USB メモリーに記憶します。
刺しゅう模様は「bPocket」フォルダーに記憶されます。

③ 無線 LAN 機能用ポケットに一時的に記憶します。
詳しい手順は、刺しゅう PRO（バージョン 11 以降）の取扱説明書を参照ください。

* 無線 LAN 機能用ポケットに記憶した刺しゅう模様は、ミシンの電源を切るとポケットから削除されます。ミシンの電源を切る前に、刺しゅう PRO（バージョン 11 以降）にインポートしてください。

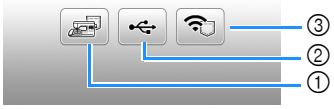
刺しゅう模様を呼び出す

ミシン、USB メモリーに記憶させた模様、または無線 LAN で転送した模様を呼び出します。

1 USB メモリーから模様を呼び出す場合は、ミシンの USB ポートコネクタに USB メモリーを差し込みます。
無線 LAN 経由で模様を呼び出す場合は、刺しゅう PRO（バージョン 11 以降）または Design Database Transfer を使用して、あらかじめ模様を転送しておきます。転送方法については、刺しゅう PRO または Design Database Transfer の取扱説明書を参照ください。

2 を押します。

3 呼び出し先を押して、刺しゅう模様を選択します。

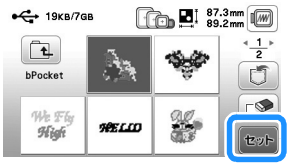


① ミシンから呼び出します。
② USB メモリーから呼び出します。
③ 無線 LAN 経由で無線 LAN 機能用ポケットにアップロードした刺しゅう模様を呼び出します。
詳しい手順は、刺しゅう PRO（バージョン 11 以降）または Design Data Transfer のマニュアルを参照してください。
* 無線 LAN 経由でアップロードした刺しゅう模様は、ミシンの電源を切るとミシンから削除されます。必要に応じて、ミシンに刺しゅう模様を保存してください。（P.103）

お知らせ

- 呼び出したい刺しゅう模様が USB メモリー内のフォルダーに格納されている場合は、そのフォルダーのキーを押します。1 つ前の画面に戻るには を押してください。

4 セット を押します。



お知らせ

- を押すと、模様は完全に消去され、復元できません。
- 呼び出した模様を記憶させるときは、以下の手順で行います。
  1. を押す。

  2. 目的に応じて、キーを押してください。
  ：ミシンに記憶します。
  ：USB メモリーに記憶します。
  ：無線 LAN 機能用ポケットに一時的に記憶します。
  USB や無線 LAN 経由で呼び出した模様をミシンに記憶させる場合は、を押してください。

第5章　付録

お手入れのしかた

⚠ 注 意

- ミシンの掃除は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。けがまたは感電の原因となります。

画面の汚れの掃除

液晶画面が汚れた場合は、乾いたやわらかい布等で軽くふき取ってください。

本体表面の掃除

本製品の汚れをふき取るときは、水かぬるま湯を含ませた、やわらかい布を固く絞ってふいてください。

ふいた後は、乾いたやわらかい布で水分をふき取ってください。

注油に関して

お客様ご自身による本製品への注油は行わないでください。故障の原因となります。本製品の動作に必要な油はあらかじめ十分に塗布されて出荷されていますので、定期的に注油する必要はありません。万一、プーリーを回すと重い、異常な音がするなどの症状が発生した場合は、ただちに使用をやめて、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン119番）」にご相談ください。

ミシンを保管するときのご注意

以下の場所にミシンを保管しないでください。

結露によるさびの発生など、故障の原因となります。

- 温度が著しく高くなる場所
- 温度が著しく低くなる場所
- 急激に温度が変化する場所
- 湿気、湯気が多い場所
- 火気や熱器具、冷暖房機器などに近い場所
- 屋外や直射日光の当たる場所
- ほこり、油煙の多い場所

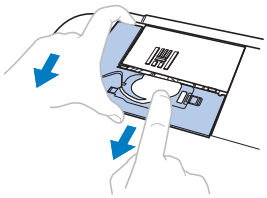
お願い

- 本製品を末永くご愛用いただくために、ときどき電源を入れて、縫製してください。
長期間保管したまま使用しない状態が続くと、ミシンの性能を損なうおそれがあります。

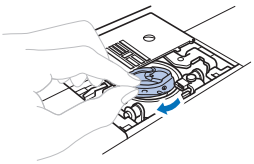
かまの掃除

かまには糸くずやほこりがたまりやすく、縫製不良の原因になる場合があります。定期的に掃除してください。

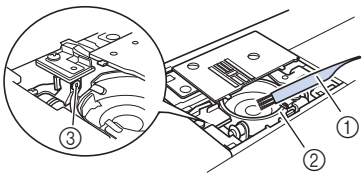
1. (針上下スイッチ) を押して針を上げます。
2. 電源を切ります。
3. 電源プラグをコンセントから抜きます。
4. 押えを上げて、針と押えを外します。
   - 詳細は、「針の交換」(P.30) および「押えの交換」(P.31) を参照してください。
5. 補助テーブルまたは刺しゅう機を取り付けている場合は外します。
6. 針板ふたを外します。
7. 針板カバーを外します。
   針板カバーを手前に引いて外します。



8. 内かまをつかみ、取り出します。



9 ミシンブラシや掃除機で、外かまと下糸センサーの周辺の糸くずやほこりを取り除きます。

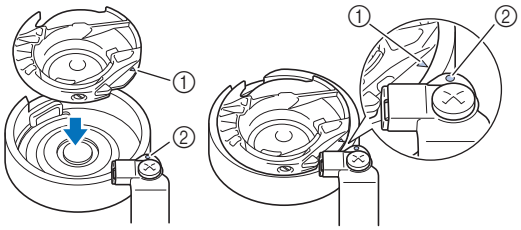


① ミシンブラシ
② 外かま
③ 下糸センサー

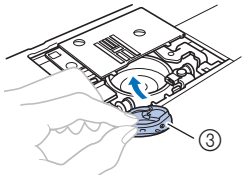
お願い

- 内かまに油をささないでください。

10 内かまの▲印とミシンの●印が合うように、内かまを取り付けます。



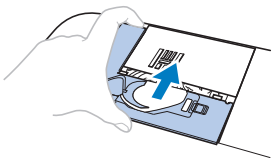
- ▲印と●印を合わせます。



① ▲印
② ●印
③ 内かま

- 合わせる位置を確認してから、取り付けを行ってください。

11 針板カバーの突起を針板に差し込み、そのままミシンに取り付けます。
針板ふたを元に戻します。



⚠ 注意

- 傷やバリがある内かまは使用しないでください。万一使用すると、上糸がからみ、針折れや縫製不良の原因となります。新しい内かまが必要な場合は、最寄りの販売店でお買い求め下さい。
- 内かまは正しい位置に取り付けてください。針折れの原因となります。

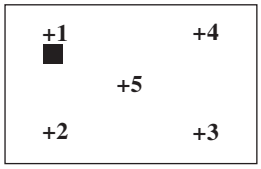
タッチパネルが反応しない

液晶画面のキーを押しても反応しない（キー入力ができない、またはキーがずれている）場合、以下の手順に従ってください。

1 電源スイッチを切り、画面（どの部分でもよい）を指で押しながら電源スイッチを入れます。

→ タッチパネル調整画面が表示されます。

2 画面に表示されている＋印の中心を 1 から 5 まで順番に軽く押します。



3 電源スイッチを切り、もう一度電源を入れます。

困ったとき

ミシンが思いどおりに動かないときは、修理を依頼する前に次の項目およびブラザーのサポートサイト（http://s.brother/cphak/）の「よくあるご質問(Q&A)」を確認してください。

それでも改善されない場合は、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

■ よくあるご相談

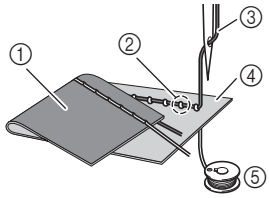
以下のよくあるご相談については、詳しい原因と対処方法を記載しております。お問い合わせの前にご確認ください。

上糸がつる	P.107 参照
布裏で糸がからまる	P.107 参照
糸調子が合わない	P.108 参照
布がミシンに入り込んでとれなくなった	P.109 参照
ボビン受け座の下に糸がからまってしまった	P.111 参照

上糸がつる

■ こんなとき

- 上糸がピンと一本線になっている。
- 布地の上側の面に下糸がポツポツと出ている。(下図参照)
- 上糸がつっていて、引くと抜けてしまう。
- 上糸がつっていて、布にしわがよってしまう。
- 上糸が強く、糸調子を調節してぬい直してもまったく変わらない。



① 布地の下側の面
② 布地の上側の面に下糸が出ている
③ 上糸
④ 布地の上側の面
⑤ 下糸

■ 原因

下糸のセットがまちがっている
下糸のセットがまちがっていると、下糸に適正な張力が加わらず、上糸が引き上げられる際に布地まで一緒に引っぱられてしまいます。そのため、布地の上に糸が出てしまいます。

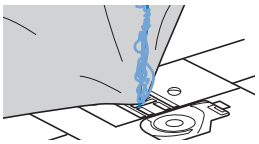
■ 対処方法／確認内容

下糸を正しくセットします（P.23 参照）。

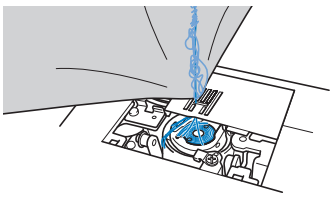
布裏で糸がからまる

■ こんなとき

- 布の下側で糸がグチャグチャにからんでしまう。



- ぬい始めるとすぐにガタガタと音がして進まなくなる。
- 布地の下側を見ると、かまの中まで糸が何重にもからまっている。



■ 原因

上糸のセットがまちがっている
上糸のセットがまちがっていると、布地を貫通した上糸をしっかりと引き上げることができず、かまの中に上糸がたまり、グチャグチャにからんでしまい、ガタガタと音がします。

■ 対処方法／確認内容

からんだ糸を取り除き、上糸をセットし直します。

1 からんだ糸を取ります。取れない場合は、はさみで糸を切ります。

- 「かまの掃除」（P.105）を参照してください。

2 いったん上糸をミシンから取り外します。

3 「上糸を通す」（P.25）の手順に従って、正しく上糸をセットします。

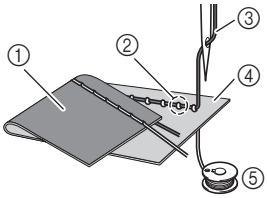
- ボビンを内かまから取り出した場合は、「下糸をセットする」（P.23）を参照して、正しくボビンをセットしてください。

糸調子が合わない

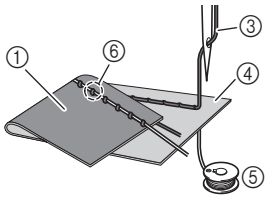
■ こんなとき

- 症状① 布地の上側にポツポツと下糸が出ている。（下図参照）
- 症状② 布地の上側で上糸が直線になる。
- 症状③ 布地の下側にポツポツと上糸が出ている。（下図参照）
- 症状④ 布地の下側で下糸が直線になる。
- 症状⑤ 布地の下側のぬい目がゆるい、またはたるむ。

☐ 症状①



☐ 症状③



① 布地の下側の面
② 布地の上側の面に下糸が出ている
③ 上糸
④ 布地の上側の面
⑤ 下糸
⑥ 布地の下側の面に上糸が出ている

■ 原因／対処方法／確認内容

☐ 原因 1

糸が正しくミシンにセットされていない。

＜症状①、②に該当する場合＞
下糸が正しくセットされていません。
上糸調子を初期設定（反転表示）にしてから、「下糸をセットする」（P.23）を参照してセットし直します。

＜症状③～⑤に該当する場合＞
上糸が正しく通っていません。
上糸調子を初期設定（反転表示）にしてから、「上糸を通す」（P.25）を参照して上糸をかけ直します。

☐ 原因 2

布地に合った糸や針を使用していない。

ミシン針は布地の種類や糸の太さによって使い分けが必要です。
布地に合った糸と針を使用しないと、糸調子が合わなかったり、布地にしわが寄ったり、目とびの原因になったりします。

- 「布地と糸の種類による針の使い分け」（P.29）の一覧表を参照して、布地に合った糸と針を使用しているか確認してください。

☐ 原因 3

上糸調子の設定値が適正でない。

適正な糸調子になるように調節します。
「糸調子を調節する」（P.43）を参照してください。
使用する布地／糸の種類やぬい方によって、適正な糸調子は異なります。

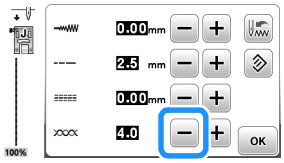
* 実際に使用する布地のはぎれで試しぬいをして、糸調子を調節してください。

お願い

- 上糸の通し方や下糸のセットが正しくされていない場合は、糸調子の調節が正しく行えません。上糸かけ、下糸セットの確認を先に行ってから、糸調子の調節を行ってください。

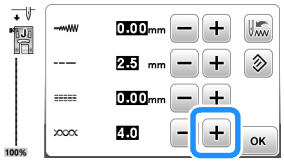
- **布地の上側に下糸が見える場合**

  調整画面の − を押して、糸調子を弱くします。



- **布地の下側に上糸が見える場合**

  調整画面の ＋ を押して、糸調子を強くします。



布がミシンに入り込んでとれなくなった

布がミシンに入り込んでとれない場合、糸が針板の下でからんでいることがあります。以下の手順で、布をミシンから取り外してください。操作が手順どおりに進まない場合は、無理に作業を続けず、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

■ 布をミシンから取り外す

1 直ちにミシンを停止させます。

2 電源を切ります。

3 針を取り外します。

針が布に刺さっている場合は、プーリーを奥側（時計回り）に回して針を布から外してから、針を取り外してください。

- 「針の交換」（P.30）を参照してください。

4 押えと押えホルダーを取り外します。

押えに糸がからみついている場合は、からんだ糸を取り除いてから、押えレバーを上げて押えを取り外してください。押えが破損するおそれがあります。

- 「押えを交換する」（P.31）を参照してください。

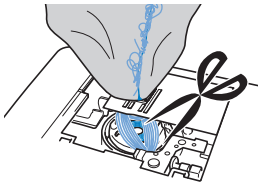
5 布を持ち上げて、布の下の糸を切ります。

ここで布を取り外すことができる場合は、取り外してください。次の手順へ進み、かまの掃除をします。

6 針板カバーを外します。

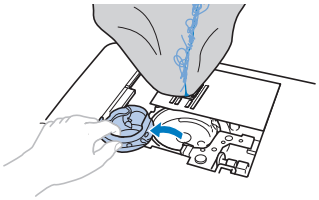
- 「かまの掃除」（P.105）を参照してください。

7 からんだ糸を切ってボビンを取り出します。

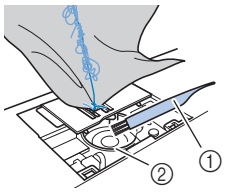


8 内かまを取り出します。

内かまに糸が残っている場合は、取り除いてください。



9 ミシンブラシや掃除機で、外かま周辺の糸くずやほこりを取り除きます。



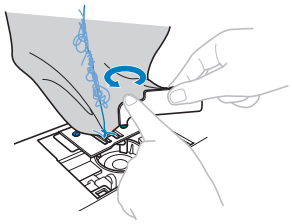
① ミシンブラシ
② 外かま

ここまでの手順で布を取り外せた場合	→ 手順 16 に進む
ここまでの手順で布が取り外せない場合	→ 手順 10 に進む

お願い

- 缶入り圧縮空気は使用しないでください。

10 付属のＬ型ネジ回し（またはネジ回し）を使用して、針板の２つのネジを取り外します。

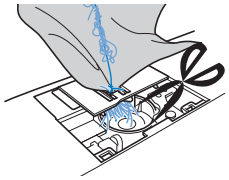


お願い

- 取り外したネジを、ミシンの中に落とさないように注意してください。

11 針板を少し持ち上げ、絡んだ糸を切って、針板を取り外します。

針板から布と糸を取ります。



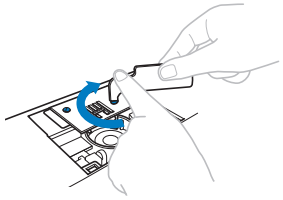
ここまでの手順を終えても布が取り外せない場合は、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

12 かまや送り歯のまわりの糸を取り除きます。

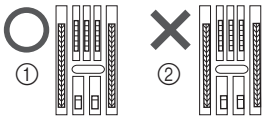
13 プーリーを回して、送り歯を上に上げます。

14 針板の 2 つのネジ穴を針板取付け部の 2 つの穴に合わせながら、ミシンに針板をはめ込みます。

15 針板の右側のネジを手で軽くしめます。次に、左側のネジを L 型ネジ回し（またはネジ回し）でしっかりしめます。最後に右のネジもしっかりしめます。



プーリーを回して、送り歯が針板のミゾの端に当たらず、スムーズに動くことを確認してください。



① 正しい送り歯の位置
② 正しくない送り歯の位置

16 「かまの掃除」（P.105）の手順 10 のように、内かまを取り付けます。

17 針板カバーを取り付けます。（「かまの掃除」（P.105）の手順 11 参照）

18 針の状態を確認して、針をミシンに取り付けます。

曲がっているなど針が悪くなっている場合は、必ず新しい針を取り付けてください。

- 「正しい針の見分け方」（P.30）および「針の交換」（P.30）を参照してください。

お知らせ

- 布がミシンに入り込んだ際に、針が損傷しているおそれがありますので、新しい針に交換することをおすすめします。

■ ミシンの動作を確認する

針板を取り外したあとは、正しく取り付けられていることを確認するために、ミシンの動作確認をしてください。

1 電源を入れます。

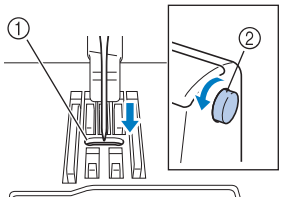
2 中基線の模様 を選択します。

お願い

- 押えと糸は、まだミシンにセットしないでください。

3 プーリーをゆっくりと手前（時計と反対回り）に回し、針が針板の穴の中央に落ちることを左右前後から見て確認します。

針が針板に当たる場合は、もう一度針板を取り外し、「布をミシンから取り外す」（P.109）の手順 13 からやり直してください。



① 針板の穴
② プーリー

4 ジグザグ模様 を選択します。このとき、ぬい目の長さとジグザグ振り幅を最大にします。

- 設定の変更については、「振り幅を調節する」（P.42）および「ぬい目の長さを調節する」（P.42）を参照してください。

5 プーリーをゆっくりと手前（時計と反対回り）に回し、針棒と送り歯が正しく動くことを確認します。

針や送り歯が針板に当たる場合は、ミシンの故障が考えられますので、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

6 電源を切ってから、ボビンと押えをセットします。

傷がついたまたは破損した押えを使用しないでください。針折れや縫製不良の原因となります。

- 「下糸をセットする」（P.23）および「押えを交換する」（P.31）を参照してください。

7 上糸をかけ直します。

- 上糸のかけ方については、「上糸通し」（P.25）を参照してください。

8 普通地で試しぬいをします。

お願い

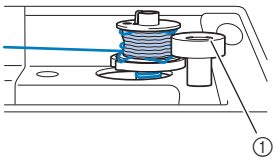
- 正しくぬえない場合、原因として、上糸が正しくセットされていないことや薄い布地を使用していることが考えられます。試しぬいの仕上がりが良くない場合は、上糸のかけ方や使用している布地を確認してください。

ボビン受け座の下に糸がからまってしまった

糸が下糸巻き案内の皿の下に確実に通っていない状態で下糸を巻くと、ボビン受け座の下に糸が巻かれてしまうことがあります。

注意

- ボビン受け座の下に糸が巻かれても、ボビン受け座は外さないでください。受け座のカッターでけがをするおそれがあります。
- ボビンホルダーのネジは外さないでください。外すと、ミシンが故障するおそれがあります。ネジを外しても、糸はほどけません。



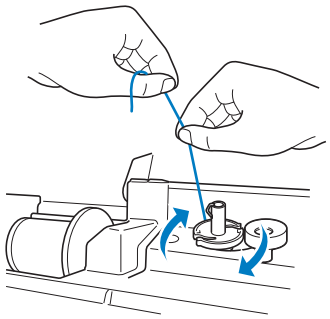
① ボビンホルダーのネジ

1 下糸巻きを停止します。

2 下糸巻き案内側で、はさみで糸を切ります。

3 ボビンを左側へ戻し、下糸巻き軸からボビンを抜きます。ボビンと軸の間で糸を切り、ボビンを軸から完全に取り外します。

4 図のように左手で糸端を持ち、右手でボビン受け座近くの糸をゆっくりと時計回りに回して、からまった糸をほどきます。



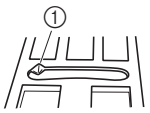
こんなときは

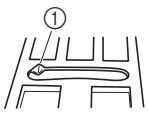
修理を依頼される前に、次の項目を点検してください。参照ページが「※」のときは、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

■ ぬう前の準備

症状、原因（対処）	ページ
糸通しができない／針穴に糸が通らない	
針が正しい位置にない。 • 針上下スイッチを押して針を上げます。	10
針の取り付け方がまちがっている。	30
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	30
上糸の通し方がまちがっている。 糸通しレバーをいっぱいまで下げていない。	25
糸通しフックが曲がっていて針穴に通っていない。	※
糸通し装置が動かない。糸通し装置が戻らない。	※
9 番の針を使用している。 • 糸通し装置に対応しない針です。手で糸を針穴に通してください。	26
押えレバーで押えを下げることができない	
押え上下スイッチを使って、押えが上げられている。	10
下糸がボビンにきれいに巻けない	
下糸巻き案内に糸がしっかりかかっていない。	22
下糸巻き案内から引き出した糸を正しくボビンに巻き付けていない。	22
ボビンが下糸巻き軸に正しくセットされていない。	21
下糸巻き中、ボビン受け座の下に下糸が巻かれた	
下糸巻き案内の皿に糸が正しく通っていない。 • からまった糸をほどき、下糸巻きをします。	21, 111
下糸を引き出すことができない	
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	30
下糸のセットのしかたがまちがっている。	23
液晶画面に何も表示されない	
電源スイッチが入っていない。	12
電源プラグがコンセントに差し込まれていない。	12
液晶画面がくもる	
液晶画面が結露している。 • 少し待つと、くもりはなくなります。	–
操作キーを押しても動かない、またはキーの反応が強すぎる	
手袋をはめた手でキーを押している。 つめでキーを押している。 静電容量式に対応していないタッチペンを使用している。 操作キーの感度が、使用される方に合っていない。	11、18
ライトが点灯しない	
設定画面で［ライト］が［OFF］に設定されている。	17
刺しゅう機が動かない	
刺しゅう機が正しくセットされていない。	82
刺しゅう枠を付けた状態で初期設定を行った。	82
無線 LAN 経由で模様を呼び出せない	
このミシンで使用できない模様は呼び出すことができません。 • 模様データとアプリに表示されたメッセージを確認してください。	–

■ ぬっているとき

症状、原因（対処）	ページ
ミシンが動かない	
スタート／ストップスイッチを押していない。	36
下糸巻きを行った後、下糸巻き軸が右側のままになっている。	21
模様が選択されていない。	35
押えが下がっていない。	36
フットコントローラーを接続したままスタート／ストップスイッチを押している。	37
スピードコントロールレバーがジグザグの振り幅を調節するように設定されている（［振り幅コントロール］が［ON］になっている）ときに、スタート／ストップスイッチを押している。	16、66
針が折れる	
針の取り付け方がまちがっている。	30
針のとめネジがゆるんでいる。	30
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	30
布地に合った針・糸を使用していない。	29
模様に合った押えを使用していない。	31
上糸調子が特に強すぎる。	43
布地を不当に引っ張っている。	–
糸こまが正しくセットされていない。	21
針板の穴の周辺にキズがある。 * 針板の穴の左端には、くぼみが設けられています。この部分はキズではありません。  ① くぼみ	※
押えの穴の周辺にキズがある。	※
内かまにキズがある。	※
本機純正のボビンを使用していない。	21
上糸の通し方がまちがっている。	25
下糸セットのしかたがまちがっている。	23
押えの取り付けがまちがっている。	31
押えホルダーのネジがゆるんでいる。	33
布地が厚すぎる。	29, 45
厚い布地などを縫製中に布地を押しこんでいる。	45

症状、原因（対処）	ページ
ぬい目が細かすぎる。	42
刺しゅうをするときに、布地に刺しゅう用接着芯を貼っていない。	84
下糸が正しく巻かれていない。	21
上糸が切れる	
上糸の通し方がまちがっている（糸こまが正しくセットされていない、糸こま押えの大きさが合っていない、糸が針棒糸かけから外れているなど）。	25
糸にこぶや結び目がある。	–
針に比べて糸が太すぎる。	29
上糸調子が強すぎる。	43
糸がからまっている。	107
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	30
針の取り付け方がまちがっている。	30
針板の穴の周辺にキズがある。 * 針板の穴の左端には、くぼみが設けられています。この部分はキズではありません。 ① くぼみ 	※
押えの穴の周辺にキズがある。	※
内かまにキズがある。	※
布地に合った針・糸を使用していない。	29
本機純正のボビンを使用していない。	21
布裏で糸がからまる	
上糸の通し方がまちがっている。	25, 107
布地に合った針・糸を使用していない。	29
上糸がつる	
下糸セットのしかたがまちがっている。	23, 107
下糸が切れる	
下糸セットのしかたがまちがっている。	23
下糸が正しく巻かれていない。	21
キズのあるボビンを使用している。	23
糸がからまっている。	109
本機純正のボビンを使用していない。	21
布地にしわがよる	
上糸の通し方、または下糸のセットのしかたがまちがっている。	21, 25
糸こまが正しくセットされていない。	21
布地に合った針・糸を使用していない。	29
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	30
薄地に対してぬい目があらすぎる。	42
糸調子が合っていない。	43, 108
模様に合った押えを使用していない。	31
布地が正しく押さえられていない。	–

症状、原因（対処）	ページ
模様が正しくぬえない	
模様に合った押えを使用していない。	31
糸調子が合っていない。	43、108
内かまなどで糸がからまっている。	107
送り歯が下がっている。 • ドロップレバーを右（▲▲）に動かします。	9、65
ぬい目が飛ぶ	
糸の通し方がまちがっている。	21、25
布地に合った針・糸を使用していない。	29
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	30
針の取り付け方がまちがっている。	30
針板の下にゴミがたまっている。	105
薄い布地や伸びる布地をぬっている。 • 布地に接着芯を貼ります。	45
ぬい目ができない	
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	30
下糸セットのしかたがまちがっている。	21
上糸の通し方がまちがっている。	25
ぬい音が高い／ガタガタと音がする	
送り歯にゴミがたまっている。	105
かまの部分に糸くずが巻きこまれている。	105
上糸の通し方がまちがっている。	25
本機純正のボビンを使用していない。	21
内かまに針が刺さった穴やスリキズがある。	※
布地を送らない	
送り歯が下がっている。 • ドロップレバーを右（▲▲）に動かします。	9、65
ぬい目が細かすぎる。	42
模様に合った押えを使用していない。	31
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	30
糸がからまっている。	107
ぬい始めに段差があって、ジグザグ押えが傾いている。	45
押え圧が布地に合っていない。	16
布地が逆方向に送られる	
送り機構が故障した。	※
針が針板に当たる	
針のとめネジがゆるんでいる。	30
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	30
布がミシンに入り込んでとれない	
糸が針板の下でからんでいる。	109

症状、原因（対処）	ページ
折れた針がミシンの中に落ちた	
• ミシンの電源を切ってから、針板を外します。ミシンの中に落ちた針が見える場合は、ピンセットなどで取り出します。針を取り出したら、針板を元に戻し、新しい針を取り付けます。 電源を入れる前に、プーリーを手でゆっくり手前に回してなめらかに回るか、新しい針が針板の穴の中央を通るか確認してください。プーリーがなめらかに回らない場合やミシンの中に落ちた針を取り出せない場合は、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	109
プーリーを回したときに重い	
糸がかまなどにからんでいる。	105、107、109

■ 仕上がり

症状、原因（対処）	ページ
糸調子が合わない	
上糸の通し方がまちがっている。	25、108
下糸セットのしかたがまちがっている。	23、108
布地に合った針・糸を使用していない。	29
押えホルダーが正しく取り付けられていない。	32
糸調子が合っていない。	43, 108
下糸が正しく巻かれていない。	21
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	30
本機純正のボビンを使用していない。	21
文字・飾り模様がくずれる	
模様に合った押えを使用していない。	31、49
模様が正しく調整されていない。	74
模様がくずれる	
模様に合った押えを使用していない。	31
薄い布地や伸びる布地をぬっている。 • 布地に接着芯を貼ります。	45
糸調子が合っていない。	43, 108
ぬっている途中で布地を引っ張ったり押さえたり、布地がずれたりしている。 • 布地がまっすぐ送られるように、布に手を軽く添えてぬいます。	36
内かまなどで糸がからまっている。	105

症状、原因（対処）	ページ
刺しゅう模様がくずれる	
糸がからまっている。	107
糸調子が合っていない。	94、108
刺しゅう枠に布地がきちんと張られていない（布地の張り方がゆるいなど）。	84
接着芯を貼っていない。 • 特に伸びる布地、薄地、目のあらい布地、ぬい縮みしやすい布地には、必ず刺しゅう用接着芯を貼ります。適切な接着芯については、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	84
キャリッジや刺しゅう枠が周辺に置いてある物に当たっている。	82
刺しゅう枠からはみ出した布地がじゃまになっている。 • 刺しゅう枠からはみ出した布地がじゃまにならないように布地を張り替え、模様を回転させて刺しゅうをします。	84
重たい衣類に刺しゅうしていて、テーブルから布地が垂れ下がっている。 • 布地がテーブルから垂れ下がった状態で刺しゅうをすると、刺しゅう機の動きが悪くなります。布地が垂れ下がらないようにしてください。	91
布地がひっかかっている、またははさみ込まれている。 • ミシンを止めて布地を正しい位置に直します。	–
刺しゅうの途中で、刺しゅう枠を取り外したり、取り付けたりしたときに、キャリッジを動かした。 • 途中でキャリッジを動かすと、模様くずれの原因となります。刺しゅう枠を取り外したり取り付けたりするときは、注意してください。	86
刺しゅう用接着芯が、刺しゅう枠よりも小さいなど、正しく貼られていない。	84
決まった場所に刺しゅうができない。	
布が刺しゅう枠内の適切な位置に置かれていない。 • 刺しゅうシートを使用します。	85
刺しゅうした布地の表側に糸のループができる	
糸調子が正しく調節されていない。	94
本製品に適した刺しゅう下糸を使用していない。	83

エラーメッセージ

誤った操作をしたときは、エラーメッセージでお知らせします。エラーメッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。

表示中のエラーメッセージは[OK]を押すか、正しい操作をすると消えます。

	エラーメッセージ	対処
1	⚠ 安全装置が働きました。 糸がからんでいませんか？ 針が曲がっていませんか？	糸がらみなどで、モーターがロックしたときに表示されます。
2	上糸を確かめ、もう一度かけ直してください。	上糸が切れたときなど、上糸が正しく通っていない状態で、スタート／ストップスイッチなどのスイッチを押したときに表示されます。
3	SSID とネットワークキーの設定が間違っています。	セキュリティー情報（SSID ／ネットワークキー（パスワード））が間違っています。 セキュリティー情報（SSID ／ネットワークキー（パスワード））を再確認してください。（P.19） 「無線 LAN のセキュリティー情報（SSID とネットワークキー）の確認方法」を参照してください。（P.117）
4	エリアをはみ出すのでその模様は読み込めません。	マイイラスト機能で追加したサンプル模様が縫製範囲をはみ出すときに表示されます。別の模様を選択するか、現在の模様（ポイント）を削除してください。
5	押えレバーを下げてください。	押えが上がった状態で、スタート／ストップスイッチなどのスイッチを押したときに表示されます。
6	この模様は使えません。	このミシンで使用できない模様を呼び出そうとしたときに表示されます。
7	この模様はデータ容量の制限を超えています。	データ容量の制限を超える模様を読み込んだり、たくさんの模様を編集したりしたときに表示されます。
8	この ＵＳＢ メディアは使用できません。	使用できないメモリーを使用しようとしたときに表示されます。
9	これ以上模様の組み合わせができません。	70 を超える飾り模様を組み合わせようとしたときに表示されます。
10	⚠ 刺しゅうキャリッジが動きます。 刺しゅうキャリッジの近くから物を離し、手を近づけないようにしてください。	刺しゅう機の初期設定をするときに表示されます。
11	下糸が少なくなりました。	下糸が少なくなったときに表示されます。スタート／ストップスイッチを押すと数針ぬうことはできますが、ただちにボビンを交換してください。 刺しゅう時は、(糸切りスイッチ）で糸を切り、押えを上げて、刺しゅう枠を取り外して、刺しゅう下糸が十分に巻いてあるボビンと交換してください。
12	下糸巻きの安全装置が働きました。 糸がからんでいませんか？	下糸巻き中に、糸がらみなどでモーターがロックしたときに表示されます。
13	スピードコントロールレバーで振り幅を調節するときは、スタート／ストップスイッチは使用できません。 フットコントローラーを使用してください。	スピードコントロールレバーでジグザグの振り幅を調節するように設定されている状態で、スタート／ストップスイッチを押したときに表示されます。 ［振り幅コントロール］を［OFF］（P.16）にするか、フットコントローラーでミシンを操作してください。
14	選択した書体にない文字があるため変更できません。	刺しゅうの文字模様のフォントを変更するとき、変更しようとしたフォントに入っていない文字が模様に含まれている場合に表示されます。
15	定期点検の時期になりました。	メッセージが表示された場合は、お買い上げの販売店にご相談のうえ、定期点検をご依頼ください。[OK]を押すと、表示は消えてミシンを引き続き使用できますが、適切な点検が完了するまでは何度も表示されます。
16	⚠ 電源スイッチを切ってから 針板を交換してください。	別売の直線針板を取り付けた状態で、直線（中基線）以外の模様でぬおうとしたときに表示されます。 ミシンの電源を入れたまま針板を取り外したときに表示されます。
17	不具合が生じました。 電源をいったん ＯＦＦ してから再度やり直してください。	電源を入れ直してしてください。 それでもメッセージが表示される場合は、ミシンが故障していることが考えられますので、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」までお問い合わせください。
18	フットコントローラーが付いているときは、 スタート／ストップスイッチは使用できません。	フットコントローラーを取り付けた状態で、実用ぬいや文字・模様ぬいをするためにスタート／ストップスイッチを押したときに表示されます。
19	ボタン穴かがりレバーを上げてください。	ボタン穴かがりレバーが下がった状態で、ボタン穴かがり以外の模様を選択して、スタート／ストップスイッチなどのスイッチを押したときに表示されます。
20	ボタン穴かがりレバーを下げてください。	ボタン穴かがりレバーが上がった状態で、ボタン穴かがりの模様を選択して、スタート／ストップスイッチを押したときに表示されます。
21	まだ無線 LAN 接続しようとしています。	本体がネットワークを検索中です。数分待ってから、無線状態を確認してください。

<table>
<tr><th></th><th>エラーメッセージ</th><th>対処</th></tr>
<tr><td>22</td><td>無線アクセスポイントで使用されている認証方式、暗号化方式を、本製品はサポートしておりません。</td><td>選択した無線 LAN アクセスポイント／ルーターで使用されている認証方式／暗号化方式に本製品が対応していません。

無線 LAN アクセスポイント／ルーターの認証方式／暗号化方式を変更してください。本製品は、下記の認証方式に対応しています。
<table><tr><th>認証方式</th><th>暗号化方式</th></tr><tr><td rowspan="2">WPA- パーソナル</td><td>TKIP</td></tr><tr><td>AES</td></tr><tr><td rowspan="2">WPA2- パーソナル</td><td>TKIP</td></tr><tr><td>AES</td></tr><tr><td rowspan="2">オープン</td><td>WEP</td></tr><tr><td>暗号化なし</td></tr><tr><td>共有キー認証</td><td>WEP</td></tr></table>
問題が解決されない場合は、入力した SSID やネットワーク設定が間違っている可能性があります。
無線 LAN の設定を再確認してください。(P.19)
「無線 LAN のセキュリティー情報（SSID とネットワークキー）の確認方法」を参照してください。(P.117)</td></tr>
<tr><td>23</td><td>無線 LAN アクセスポイントが見つかりませんでした。</td><td>無線 LAN アクセスポイント／ルーターを検出できません。

1. 以下の 4 点を確認してください。
- 無線 LAN アクセスポイント／ルーターの電源が入っていることを確認してください。
- 本体を、電波を遮る可能性がある障害物（金属のドア、壁など）のない場所へ移動させたり、無線 LAN アクセスポイント／ルーターに近づけたりしてください。
- 無線 LAN の設定を行う際は、本体を一時的に無線 LAN アクセスポイントから約 1m 以内に置いてください。
- 無線 LAN アクセスポイント／ルーターで MAC アドレスでのフィルタリングが行われている場合は、本体の MAC アドレスが許可されていることを確認してください。

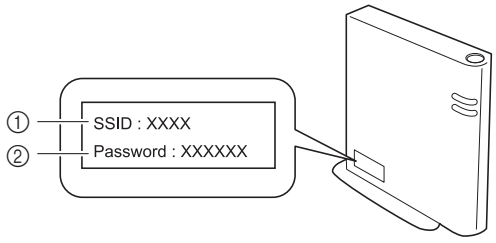
2. SSID とセキュリティー情報（SSID ／認証方式／暗号化方式／ネットワークキー（パスワード））を手動で入力した場合は、入力した情報が間違っている可能性があります。
SSID とセキュリティー情報を再確認し、必要に応じて正しい情報を入力し直してください。(P.19)
「無線 LAN のセキュリティー情報（SSID とネットワークキー）の確認方法」を参照してください。(P.117)</td></tr>
<tr><td>24</td><td>無線 LAN 設定が有効になっていません。</td><td>無線 LAN の設定が、有効になっていません。
無線 LAN の設定をオンにしてください。(P.19)</td></tr>
<tr><td>25</td><td>無線 LAN のセキュリティー情報（認証方式、暗号化方式、ネットワークキー）の設定が間違っています。</td><td>無線 LAN のセキュリティー情報（認証方式／暗号化方式／ネットワークキー（パスワード））が間違っています。
エラーメッセージ［無線アクセスポイントで使用されている認証方式、暗号化方式を、本製品はサポートしておりません。］の表を参照して、無線 LAN のセキュリティー情報（認証方式／暗号化方式／ネットワークキー（パスワード））を再確認してください。(P.19)
「無線 LAN のセキュリティー情報（SSID とネットワークキー）の確認方法」を参照してください。(P.117)</td></tr>
<tr><td>26</td><td>文字の配列ができません。</td><td>文字数が多くて曲線の配列ができないときに表示されます。</td></tr>
<tr><td>27</td><td>模様のデータが読めません。データが壊れている可能性があります。
電源を入れ直して下さい。</td><td>呼び出そうとした模様データに異常があるときに表示されます。
以下の原因が考えられますので、模様データを確認してください。
• 模様データが破損している。
• 他社製のデータ作成装置で作成されたデータを呼び出そうとした。
ミシンを正常な状態に戻すため、電源を入れ直してください。</td></tr>
<tr><td>28</td><td>USB メディアが入っていません。
USB メディアを入れてください。</td><td>USB メモリーを挿入していない状態で、模様を呼び出そうとしたり、記憶させようとしたときに表示されます。</td></tr>
<tr><td>29</td><td>容量が不足しています。
模様を消去してください。</td><td>記憶容量がいっぱいで、模様を記憶できないときに表示されます。
OK を押すと、記憶している模様を削除して新しい模様を記憶します。
キャンセル を押すと、記憶しないで元の画面に戻ります。</td></tr>
<tr><td>30</td><td>容量が不足しているので、保存できません。</td><td>記憶容量がいっぱいで、模様を記憶できないときに表示されます。</td></tr>
</table>

	エラーメッセージ	対処
31	レジューム記憶を呼び出しますか？	刺しゅう中にミシンの電源を切った後で、もう一度電源を入れたときに表示されます。 OK を押すと、電源を切ったときの状態（模様の位置と縫製済みの針数）に戻ります。「途中で糸が切れたときは」（P.93）の手順に従って、針位置を合わせて、模様の続きをぬってください。
32	枠をはみ出します。	［枠指定表示］が［ON］の場合、選択した刺しゅう模様が選択した枠より大きいときに表示されます。
33	枠をはみ出します。この機能は使用できません。	刺しゅうの文字模様の文字の大きさまたは縦書き横書きを変更しようとしたとき、模様が刺しゅう枠の大きさを超えた場合に表示されます。
34	枠をはみ出します。これ以上は入力できません。	刺しゅうの文字模様の組み合わせをしている際、模様が刺しゅう枠に収まらなくなったときに表示されます。枠に収まるように、模様のサイズやレイアウトを変更してください。［枠指定表示］が［ON］の場合、［OFF］にするか、大きな刺しゅう枠を選択すると、問題が解決することがあります。
35	F** (** の部分は、 2 桁の数字)	使用中に［F**］が表示されるときは、ミシンが故障していることが考えられますので、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」までお問い合わせください。

無線 LAN のセキュリティー情報（SSID とネットワークキー）の確認方法

1) お使いの無線 LAN アクセスポイント／ルーターの取扱説明書をご覧ください。
2) 既定の SSID（無線 LAN ネットワーク名）は、メーカー名やモデル名の場合があります。
3) セキュリティー情報がわからない場合は、ルーターの製造元、ネットワーク管理者、またはインターネット接続業者にお問い合わせください。
4) 一部の SSID（無線 LAN ネットワーク名）とネットワークキー（パスワード）では、大文字と小文字が区別されている場合があります。

* ネットワークキーは、パスワード、セキュリティーキー、または暗号化キーと呼ばれる場合もあります。
* 無線 LAN アクセスポイント／ルーターが SSID を隠ぺいしている場合は、SSID は自動的には検出されません。手動で SSID 名を入力する必要があります。



① SSID
② ネットワークキー（パスワード）

電子音について

正しい操作をしたときは、「ピッ」と鳴ります。
誤った操作をしたときは、「ピッピッ」または「ピッピッピッピッ」と鳴ります。
糸がからむなど、ミシンがロックしたときは、「ピッピッピッ・・・」と 4 秒間鳴り続け、ミシンは自動的に止まります。必ず原因を確認して改善してから、再開してください。

仕様

項目	仕様
本体寸法	48.0 cm（幅）× 24.9 cm（奥行）× 30.0 cm（高さ）
製品質量	10.0 kg
刺しゅう機付き本体寸法	69.3 cm（幅）× 42.1 cm（奥行）× 30.0 cm（高さ）
刺しゅう機付き製品質量	13.5 kg
ぬい速度	毎分 70 ～ 850 針
針	家庭用ミシン針（HA × 1）
定格電圧／消費電力	100 V （50-60 Hz）/ 55 W
ライト	白色 LED

* 仕様は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

ミシンをアップデートする

USB メモリーを使用して、ミシンにインストールされているソフトウェアをアップデートすることができます。アップデート情報については、お買い上げの販売店または「ミシン 119 番」にお問い合わせいただくか、ブラザーのサポートサイト（http://s.brother/cphak/）で掲載される情報を参照してください。

お願い

- USB メモリーを使用してソフトウェアをアップデートするときは、USB メモリー内にアップデートファイルだけを保存してください。

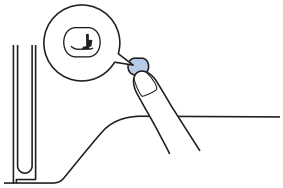
無線 ＬＡＮ 機能を使用している場合、無線 ＬＡＮ キーにアップデートマークが表示されます。

：更新ソフトウェアがブラザーのサポートサイトでリリースされています。ソフトウェアをアップデートしてください。

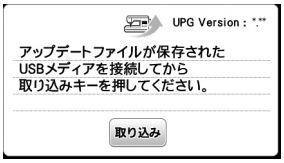
：更新ソフトウェアはありません。

バージョン情報については、設定画面から確認できます。(P.17)

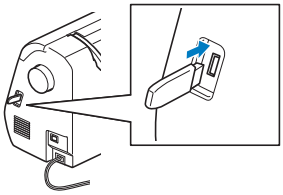
1 (押え上下スイッチ）を押しながら、電源スイッチを入れます。



→ 次の画面が表示されます。



2 USB メモリーをミシンの USB ポートコネクタに差し込みます。



お願い

- USB メモリーにはアップデートファイルだけを保存してください。

3 取り込み を押します。

- アップデート中はミシンの電源を切らないでください。

→ アップデートが正常に行われると、完了画面が表示されます。

4 USB メモリーを外し、ミシンの電源スイッチを入れ直します。

索引

数字

２本針 71

L

L/R シフト 42

U

USB ..... 75，103

あ

厚い布地 45
アップデート 118
アップリケ ..... 63，95，96

い

位置あわせ 101
糸 ..... 29，83
糸色ごとに並べ替える 102
糸色表示 92
糸切り ..... 37，40
糸切り／糸調子キー 94
糸こま押え 22
糸こまネット 22
糸調子 ..... 43，94，108
糸通し装置 26
糸密度 ..... 15，99

う

ウィングニードル 72
薄い布地 45
内かま 105
上糸 ..... 25，29，83

え

液晶画面 ..... 11，13
エラーメッセージ 115

お

送り歯 9
押え ..... 14，31，49
押え圧 40
押えホルダー 9
お手入れ 105

か

回転 ..... 99，100
返しぬい ..... 38，39
飾りぬい ..... 13，35
かんどめ 67

き

記憶 ..... 75，103

け

言語 17

こ

困ったとき 107
ゴムテープ 66

さ

サイズ ..... 14，99
サテンステッチ ..... 15，35

し

シェルタック 70
ジグザグぬい ..... 42，66
刺しゅう 81
刺しゅう押え 81
刺しゅう機 ..... 10，82
刺しゅうシート 85
刺しゅう枠 ..... 84，86，87
下糸 ..... 21，83，92
下糸セット 23
下糸巻き 21
下糸巻き案内 21
下糸を引き出す 28
自動糸切り ..... 40，94
自動押え圧補正 40
自動押え上下 40

す

スカラップ 69
ステップ模様 73
スピード ..... 23，36
スピードコントロールレバー 10
スモッキング 69

せ

接着芯 84

そ

掃除 105
外かま 106

た

ダーニング（つくろいぬい） 67
たち目かがり 55

ち

直線ぬい ..... 44，64

つ

つき合わせ 70
筒もの 44

て

デニム ..... 29，45
電源 12
電子音 ..... 17，117

と

止めぬい ..... 38，39
ドロップレバー ..... 9，65

な

ナイロン透明糸 ..... 22，23，26，29

に

ニーリフター 47
ニーリフター差し込み口 47
ニット用針 29

ぬ

ぬいしろの幅をそろえる 44
ぬい目の長さ 42
布地 ..... 29，45，84

の

伸びる布地 46

は

パッチワーク 64
針 ..... 29，30
針板 9
針板カバー ..... 9，105
針位置 ..... 14，17，44
反転 ..... 14，99

ひ

ピーシング 64
皮革 46
ビニール 46
ピボット 41

ふ

ファイル形式 ..... 75，103
ファゴティング 69
ファスナー 62
付属品 11
フットコントローラー 37
フリーモーションキルト 65
振り幅 42
分割模様をぬう 97

へ

ヘアルーム 72

ほ

保存 ..... 75，103
ボタン穴かがり 58
ボタンつけ 61
ボビン 21

ま

マイイラスト機能 77
まつりぬい 57

む

無線 LAN 18

め

メタリック糸 ..... 22，27

も

文字 ..... 38，88
文字間調整 ..... 15，100

よ

呼び出し ..... 76，78，104

ら

ライト 17

り

利用規約 3

Brother SupportCenterは、ブラザー製品のサポート情報を提供するモバイルアプリです。
ダウンロードするにはGoogle Play™またはApp Storeにアクセスしてください。

Google Play™

App Store

必ず最新のソフトウェアをインストールしてください。
最新バージョンでは、様々な機能向上を行っています。

Design Database Transferは刺しゅうデータをパソコンからミシンに無線転送できるWindows専用アプリです。刺しゅうデータを閲覧管理することもできます。
ブラザーのサポートサイト「http://s.brother/cahkc/」で、ダウンロードすることができます。

別売品に関する情報は http://s.brother/cohak/ をご覧ください。

アフターサービス

修理を依頼するときや部品を購入するときは、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にお問い合わせください。

■ 保証書について

- ご購入の際、保証書にお買い上げ日、販売店名などが記入してあるかご確認の上、販売店で受け取ってください。保証書の内容をよくお読みいただき、大切に保管してください。
- 当社はこのミシンの補修用性能部品を、製造打ち切り後最低 8 年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- 修理については、お買い上げの販売店、または下記の「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

■ お客様相談室（ミシン119番）

本製品の使い方やアフターサービスについてご不明の場合は
お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン119番）」までお問い合わせください。

〒467-8577　愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15-1

お客様相談室（ミシン119番）　Tel：0570－061－134
Fax：052-824-3031
受付時間: 月曜日～金曜日　9：00～12：00　13：00～17：30
休業日: 土曜日、日曜日、祝日およびブラザー販売株式会社の休日

- お客様相談室（ミシン119番）は、ブラザー販売株式会社が運営しています。
- 機能および操作方法が機種によって異なるため、お問い合わせの際に「機種名」と「機械番号」をご連絡いただきますと、スムーズにお答えすることができます。
  ミシン背面の定格ハリマーク（銀色シール）の下記部分をご確認ください。

- ブラザー製品についてのご意見、ご要望は、お買い上げの販売店、または上記「お客様相談室（ミシン119番）」にご連絡ください。
- 上記の電話番号、住所および受付時間は、都合により変更する場合がありますので、ご了承ください。

■ ホームページ

ブラザーのホームページでは、製品に関する様々な情報を掲載しております。
http://www.brother.co.jp/

ブラザーのサポートサイトでは、製品に関するサポート情報を掲載しております。
http://s.brother/cphak/

本製品は日本国内のみでのご使用となりますので、海外でのご使用はお止めください。海外での各国の通信規格に反する場合や、海外で使用されている電源が本製品に適切でないおそれがあります。海外で本製品をご使用になりトラブルが発生した場合、当社は一切の責任を負いかねます。また保証の対象となりませんのでご注意ください。

This machine is made for use in Japan only. We can not recommend using it overseas it may violate the Telecommunications Regulations that country and the power requirements of your machine may not be compatible with the Power available in foreign countries. Using Japan models overseas is at your own risk will void your warranty.

ブラザー工業株式会社
愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15-1　〒467-8561

888-G33
D01W2K-001